

※GoogleClassroomクラスコードは、教育学研究科ウェブサイト(学生生活>時間割表・シラバス・学生便覧等)に掲載しているクラスコード一覧表を参照ください。

科目授業名	授業代表教員氏名	開講年度学期	授業区分	曜日時限	科目コード	ページ数
【博士課程後期3年の課程】						
情報リテラシー	佐藤 克美/その他教員	2026年度 前期	週間授業(前期後半)	水1	PD04000010	4
エデュフェア・マインド	福田 亘孝/前田 駿太/鷲谷 洋輔/SCHLEMPER LENNA/横田 晋務/久保 沙織/甲斐 健人/劉 靖/神谷 哲司/石井山 竜平	2026年度 前期	週間授業(前期前半)	水1	PD04000020	6
国際教育論Ⅱ	劉 靖/その他教員	2026年度 前期	集中講義		PD04000040	8
院生プロジェクト研究	甲斐 健人	2026年度 前期	集中講義		PD04000070	11
Edu-fare/fair Mind(English)	MISIASZEK GREG WILLIAM/NAKASATO LAUREN NOELANI/劉 靖/その他教員	2026年度 後期	週間授業(後期前半)	水1	PD04000090	13
生涯教育科学特別研究Ⅰ		2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義			
生涯教育科学特別研究Ⅱ		2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義			
教育政策科学特別研究Ⅰ		2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義			
教育政策科学特別研究Ⅱ		2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義			
グローバル共生教育論特別研究Ⅰ		2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義			
グローバル共生教育論特別研究Ⅱ		2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義			
教育情報アセスメント特別研究Ⅰ		2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義			
教育情報アセスメント特別研究Ⅱ		2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義			
教育心理学特別研究Ⅰ		2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義			
教育心理学特別研究Ⅱ		2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義			
臨床心理学特別研究Ⅰ		2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義			
臨床心理学特別研究Ⅱ		2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義			

※ 各コース特別研究Ⅰ・Ⅱは、学務情報システム掲載シラバスを確認してください。
※ 各指導教員の授業コードを選択し、履修登録してください。

【博士課程前期2年の課程】

情報リテラシー	佐藤 克美/その他教員	2026年度 前期	週間授業(前期後半)	水1	PM03100010	15
エデュフェア・マインド	福田 亘孝/前田 駿太/鷲谷 洋輔/SCHLEMPER LENNA/横田 晋務/久保 沙織/甲斐 健人/劉 靖/神谷 哲司/石井山 竜平	2026年度 前期	週間授業(前期前半)	水1	PM03100020	17
Edu-fare/fair Mind(English)	MISIASZEK GREG WILLIAM/NAKASATO LAUREN NOELANI/劉 靖/その他教員	2026年度 後期	週間授業(後期前半)	水1	PM03100030	19
生涯教育科学基礎論	石井山 竜平	2026年度 後期	週間授業	木3	PM03110010	21
教育政策科学基礎論	井本 佳宏	2026年度 後期	週間授業	木3	PM03120010	23
グローバル共生教育論基礎論	劉 靖	2026年度 後期	週間授業	火3	PM03130010	25
教育情報アセスメント基礎論	西塚 孝平	2026年度 前期	週間授業	月1	PM03140010	27
教育心理学基礎論	工藤 与志文	2026年度 前期	週間授業	金2	PM03150010	29
臨床心理学基礎論	若島 孔文	2026年度 後期	週間授業	月5	PM03160010	31
Practical English for Educational Sciences	その他教員	2026年度 前期	週間授業	月5	PM03200010	33
国際実践研究Ⅰ	NAKASATO LAUREN NOELANI/劉 靖	2026年度 前期	集中講義		PM03200020	35
国際実践研究Ⅱ	NAKASATO LAUREN NOELANI/劉 靖	2026年度 後期	集中講義		PM03200030	37
国際インターンシップ	NAKASATO LAUREN NOELANI/劉 靖	2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義		PM03200040	39
人間形成学概論Ⅰ	澤田 哲生	2026年度 前期	週間授業	木3	PM03210010	41
社会教育学概論	石井山 竜平	2026年度 前期	週間授業	火3	PM03210030	43
教育政策科学概論	井本 佳宏/青木 栄一/島 一則/福田 亘孝	2026年度 前期	週間授業	水2	PM03220010	45
学校教育論概論	劉 靖/その他教員	2026年度 前期	集中講義		PM03230020	47
多文化教育論概論	渡部 由紀	2026年度 前期	週間授業	月2	PM03230030	49
国際教育開発論概論	劉 靖	2026年度 前期	週間授業	火4	PM03230040	51
グローバル教育論	NAKASATO LAUREN NOELANI	2026年度 後期 2026年度 前期	週間授業	火2 火5	PM03230050	53
教育アセスメント概論	西塚 孝平	2026年度 後期	週間授業	月2	PM03240010	55
教育測定学概論	熊谷 龍一	2026年度 前期	週間授業	火2	PM03240020	57
教育情報学基礎論概論	渡部 信一	2026年度 前期	週間授業	金2	PM03240030	59
教育情報学実践論概論	小嶋 秀樹/伊藤 文人/中島 平	2026年度 前期	週間授業	木2	PM03240040	61
教育情報学応用論概論	宮本 友弘/倉元 直樹	2026年度 後期	週間授業	金2	PM03240050	63
教育心理学概論	工藤 与志文	2026年度 前期	週間授業	月3	PM03250010	65
発達心理学概論	長谷川 真里	2026年度 前期	週間授業	火5	PM03250020	67
発達障害学概論	野口 和人/横田 晋務	2026年度 前期	集中講義		PM03250030	69
臨床心理学概論	榊原 佐和子	2026年度 前期	週間授業	火3	PM03260010	71
人間形成論特論Ⅱ	李 仁子	2026年度 前期	週間授業	火3	PM03310020	73
人間形成史特論Ⅰ	石井山 竜平/その他教員	2026年度 前期	週間授業	木2	PM03310030	75

スポーツ文化論特論Ⅰ	甲斐 健人	2026年度 前期	週間授業	月3	PM03310060	77
スポーツ文化論特論Ⅱ	鷺谷 洋輔	2026年度 前期	週間授業	月4	PM03310070	79
教育社会学特論Ⅰ	福田 亘孝	2026年度 前期	週間授業	木3	PM03320010	81
教育社会学特論Ⅱ	島 一則	2026年度 前期	週間授業	金4	PM03320020	83
教育行政学特論Ⅰ	青木 栄一	2026年度 前期	週間授業	火6	PM03320030	85
比較教育学特論	井本 佳宏	2026年度 前期	週間授業	金2	PM03320090	87
多文化教育論特論	高松 美能	2026年度 後期	週間授業	水2	PM03330030	89
国際教育論Ⅱ	劉 靖／その他教員	2026年度 後期	集中講義		PM03330050	90
国際教育開発論特論	劉 靖	2026年度 後期	週間授業	木4	PM03330060	93
国際教育開発論研究演習Ⅰ	劉 靖	2026年度 前期	週間授業	木5	PM03330070	95
国際教育開発論研究演習Ⅱ	劉 靖	2026年度 後期	週間授業	木5	PM03330080	97
教育アセスメント特論Ⅰ	西塚 孝平	2026年度 後期	週間授業	火3	PM03340010	99
教育アセスメント特論Ⅱ	松林 優一郎	2026年度 前期	週間授業	月3	PM03340020	101
教育アセスメント特論Ⅲ	松林 優一郎／久保 沙織／西塚 孝平／熊谷 龍一	2026年度 前期	週間授業	金4	PM03340030	103
教育測定学特論Ⅰ	久保 沙織	2026年度 前期	週間授業	金2	PM03340040	104
教育測定学特論Ⅱ	熊谷 龍一	2026年度 後期	週間授業	火2	PM03340050	106
教育情報学基礎論特論Ⅰ	伊藤 文人	2026年度 前期	週間授業	水5	PM03340060	108
教育情報学基礎論特論Ⅱ	熊井 正之	2026年度 前期	週間授業	木5	PM03340070	110
教育情報学基礎論特論Ⅲ	佐藤 克美	2026年度 前期	週間授業	月4	PM03340080	112
教育情報学応用論特論Ⅰ	倉元 直樹	2026年度 前期	週間授業	月1	PM03340090	114
教育情報学応用論特論Ⅱ	宮本 友弘	2026年度 前期	週間授業	火1	PM03340100	116
教育情報学実践論特論Ⅰ	小嶋 秀樹	2026年度 前期	週間授業	木4	PM03340120	118
教育情報学実践論特論Ⅱ	中島 平	2026年度 前期	週間授業	木3	PM03340130	120
教育情報学実践論特論Ⅲ	佐藤 克美	2026年度 前期	週間授業	金2	PM03340140	122
教育心理学特論Ⅰ	工藤 与志文	2026年度 前期	週間授業	木4	PM03350010	124
教育心理学特論Ⅱ	佐藤 誠子	2026年度 前期	週間授業	火4	PM03350020	126
学習心理学特論Ⅰ	工藤 与志文	2026年度 後期	週間授業	木4	PM03350030	128
発達心理学特論	神谷 哲司	2026年度 前期	週間授業	水2	PM03350050	130
発達障害学特論Ⅰ(福祉分野に関する理論と支援の展開)	野口 和人	2026年度 前期	週間授業	金3	PM03350070	132
発達障害学特論Ⅱ	横田 晋務	2026年度 前期	週間授業	火3	PM03350080	134
臨床心理学特論Ⅰ	安保 英勇	2026年度 前期	週間授業	金5	PM03360010	136
臨床心理学特論Ⅱ	吉田 沙蘭	2026年度 後期	週間授業	金2	PM03360020	138
臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	安保 英勇／若島 孔文／吉田 沙蘭／前田 駿太／SCHLEMPER LENNA／坂本 一真／本多 奈美	2026年度 前期	週間授業	木2	PM03360030	140
臨床心理面接特論Ⅱ	安保 英勇／若島 孔文／吉田 沙蘭／前田 駿太／SCHLEMPER LENNA／坂本 一真／本多 奈美	2026年度 後期	週間授業	木2	PM03360040	142
臨床心理研究法特論Ⅰ	安保 英勇／若島 孔文／吉田 沙蘭／前田 駿太／坂本 一真／本多 奈美	2026年度 前期	週間授業	木3	PM03360050	143
臨床心理研究法特論Ⅱ	安保 英勇／若島 孔文／吉田 沙蘭／前田 駿太／坂本 一真／本多 奈美	2026年度 前期	週間授業	木4	PM03360060	144
投影法特論Ⅰ	池田 忠義	2026年度 前期	週間授業	火4	PM03360070	145
投影法特論Ⅱ	池田 忠義	2026年度 後期	週間授業	火4	PM03360080	147
家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に 犯罪心理学特論(司法・犯罪分野 に関する理論と支援の展開) 精神医学特論(保健医療分野に 関する理論と支援の展開) 学校臨床心理学特論(教育分野 に関する理論と支援の展開) 産業心理学特論(産業・労働分野 に関する理論と支援の展開) 心の健康教育に関する理論と実 践	若島 孔文	2026年度 後期	週間授業	月4	PM03360090	149
	碓井 真史／前田 駿太	2026年度 後期	週間授業	金1	PM03360100	151
	本多 奈美	2026年度 後期	週間授業	水1	PM03360110	153
	小島 奈々恵	2026年度 後期	週間授業	水3	PM03360120	155
	若島 孔文	2026年度 前期	週間授業	月4	PM03360130	157
	安保 英勇	2026年度 後期	週間授業	月5	PM03360140	159
コミュニティ心理学特論	小島 奈々恵	2026年度 前期	週間授業	水3	PM03360150	160
心理療法特論	榊原 佐和子	2026年度 後期	週間授業	火3	PM03360160	162
人間形成論研究演習Ⅱ	李 仁子	2026年度 後期	週間授業	月3	PM03510020	164
人間形成史研究演習Ⅰ	石井山 竜平／その他教員	2026年度 後期	週間授業	木2	PM03510030	166
人間形成史研究演習Ⅱ	澤田 哲生	2026年度 後期	週間授業	木3	PM03510040	168
社会教育学研究演習Ⅱ	石井山 竜平	2026年度 後期	週間授業	金3	PM03510060	170
スポーツ文化論研究演習Ⅰ	鷺谷 洋輔	2026年度 前期	週間授業	月5	PM03510070	172
スポーツ文化論研究演習Ⅱ	甲斐 健人	2026年度 後期	週間授業	月4	PM03510080	173
人間形成学合同演習Ⅰ	李 仁子／澤田 哲生／その他教員	2026年度 前期	週間授業	火1	PM03510090	175
人間形成学合同演習Ⅱ	李 仁子／澤田 哲生／その他教員	2026年度 後期	週間授業	火1	PM03510100	177
生涯学習論合同演習Ⅰ	鷺谷 洋輔／甲斐 健人／石井山 竜平	2026年度 前期	週間授業	木5	PM03510110	179
生涯学習論合同演習Ⅱ	鷺谷 洋輔／甲斐 健人／石井山 竜平	2026年度 後期	週間授業	木4	PM03510120	181
人間形成論実習	李 仁子	2026年度 前期 2026年度 後期	週間授業	月1	PM03510130	183

教育社会学研究演習Ⅰ	福田 亘孝	2026年度 後期	週間授業	木3	PM03520010	185
教育社会学研究演習Ⅱ	島 一則	2026年度 後期	週間授業	金4	PM03520020	187
教育行政学研究演習Ⅰ	青木 栄一	2026年度 後期	週間授業	火6	PM03520030	189
教育行政学研究演習Ⅱ	後藤 武俊	2026年度 後期	週間授業	月4	PM03520040	191
教育政策科学合同演習Ⅰ	井本 佳宏／青木 栄一／島 一則／福田 亘孝／後藤 武俊	2026年度 前期 2026年度 後期	週間授業	木5	PM03520070	193
教育政策科学合同演習Ⅱ	井本 佳宏／青木 栄一／島 一則／福田 亘孝／後藤 武俊	2026年度 前期 2026年度 後期	週間授業	木5	PM03520080	194
比較教育学研究演習	井本 佳宏	2026年度 後期	週間授業	金2	PM03520090	195
成人教育研究演習Ⅰ	松本 大	2026年度 前期	週間授業	月4	PM03530010	197
成人教育研究演習Ⅱ	松本 大	2026年度 後期	週間授業	月4	PM03530020	198
多文化教育論研究演習Ⅰ(末松先生)	末松 和子	2026年度 前期	週間授業	月3	PM03530050	199
多文化教育論研究演習Ⅰ(渡部先生)	渡部 由紀	2026年度 前期	週間授業	月3	PM03530050	201
多文化教育論研究演習Ⅰ(高松先生)	高松 美能	2026年度 前期	週間授業	水3	PM03530050	203
多文化教育論研究演習Ⅱ(末松先生)	末松 和子	2026年度 後期	週間授業	月3	PM03530060	204
多文化教育論研究演習Ⅱ(渡部先生)	渡部 由紀	2026年度 後期	週間授業	月3	PM03530060	206
多文化教育論研究演習Ⅱ(高松先生)	高松 美能	2026年度 後期	週間授業	水3	PM03530060	208
グローバル共生教育論合同演習Ⅰ	NAKASATO LAUREN NOELANI／劉 靖／その他教員	2026年度 前期	週間授業	木2	PM03530070	209
グローバル共生教育論合同演習Ⅱ	NAKASATO LAUREN NOELANI／劉 靖／その他教員	2026年度 後期	週間授業	木2	PM03530080	211
教育アセスメント研究演習Ⅰ	西塚 孝平	2026年度 前期	週間授業	月5	PM03540010	213
教育アセスメント研究演習Ⅱ	松林 優一郎	2026年度 後期	週間授業	月3	PM03540020	215
教育アセスメント研究演習Ⅲ	松林 優一郎／久保 沙織／西塚 孝平／熊谷 龍一	2026年度 後期	週間授業	金4	PM03540030	217
教育測定学研究演習Ⅰ	久保 沙織／その他教員	2026年度 前期	集中講義		PM03540040	218
教育測定学研究演習Ⅱ	熊谷 龍一	2026年度 前期	週間授業	月4	PM03540050	220
教育情報学基礎論研究演習Ⅰ	伊藤 文人	2026年度 後期	週間授業	金3	PM03540060	222
教育情報学基礎論研究演習Ⅱ	熊井 正之	2026年度 後期	週間授業	木4	PM03540070	224
教育情報学基礎論研究演習Ⅲ	佐藤 克美	2026年度 後期	週間授業	月4	PM03540080	226
教育情報学応用論研究演習Ⅰ	倉元 直樹	2026年度 後期	週間授業	月1	PM03540090	228
教育情報学応用論研究演習Ⅱ	宮本 友弘	2026年度 後期	週間授業	火1	PM03540100	230
教育情報学実践論研究演習Ⅰ	小嶋 秀樹	2026年度 後期	週間授業	木4	PM03540120	232
教育情報学実践論研究演習Ⅱ	中島 平	2026年度 後期	週間授業	木2	PM03540130	234
オープンエデュケーション論合同演習	小嶋 秀樹／その他教員	2026年度 前期 2026年度 後期	週間授業	水2	PM03540150	236
教育心理学研究演習Ⅰ	工藤 与志文／佐藤 誠子	2026年度 前期	週間授業	木5	PM03550010	238
教育心理学研究演習Ⅱ	工藤 与志文／佐藤 誠子	2026年度 後期	週間授業	木5	PM03550020	240
学習心理学研究演習Ⅱ	佐藤 誠子	2026年度 後期	週間授業	火4	PM03550040	242
発達心理学研究演習Ⅲ	長谷川 真里／神谷 哲司	2026年度 前期	週間授業	木5	PM03550070	243
発達心理学研究演習Ⅳ	長谷川 真里／神谷 哲司	2026年度 後期	週間授業	木5	PM03550080	244
発達臨床論研究演習Ⅰ	長谷川 真里	2026年度 後期	週間授業	火5	PM03550090	245
発達臨床論研究演習Ⅱ	神谷 哲司	2026年度 後期	週間授業	火1	PM03550100	247
発達障害学研究演習Ⅰ	野口 和人	2026年度 前期	週間授業	金6	PM03550110	249
発達障害学研究演習Ⅱ	横田 晋務	2026年度 前期	週間授業	金6	PM03550120	251
発達障害学研究演習Ⅲ	野口 和人	2026年度 後期	週間授業	金6	PM03550130	252
発達障害学研究演習Ⅳ	横田 晋務	2026年度 後期	週間授業	金6	PM03550140	254
臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	安保 英勇	2026年度 前期	週間授業	木5	PM03560010	255
臨床心理査定演習Ⅱ	前田 駿太／坂本 一真	2026年度 後期	週間授業	木5	PM03560020	257
臨床心理基礎実習	安保 英勇／前田 駿太	2026年度 前期 2026年度 後期	週間授業	火1 火2	PM03560030	259
臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅰ)	安保 英勇／若島 孔文／吉田 沙蘭／前田 駿太／SCHLEMPER LENNA／坂本 一真／本多 奈美	2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義		PM03560040	261
臨床心理実習Ⅱ	安保 英勇／若島 孔文／吉田 沙蘭／前田 駿太／SCHLEMPER LENNA／坂本 一真／本多 奈美	2026年度 後期	週間授業	木1	PM03560050	263
臨床心理実習Ⅲ(心理実践実習Ⅱ)	安保 英勇／若島 孔文／吉田 沙蘭／前田 駿太／SCHLEMPER LENNA／坂本 一真／本多 奈美	2026年度 前期 2026年度 後期	集中講義		PM03560060	265

授業コード	PD000010				
科目名	情報リテラシー				
単位数	1.0単位				
曜日・講時	水曜1限				
開講学期	1学期（後半）				
担当教員	佐藤 克美、その他教員				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EIA702J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育実践や教育学研究に必須となる「情報を扱う能力」の修得				
授業の目的と概要	ICT（Information and Communication Technology）社会においてはICT利用の操作の知識、技術のみならず、法律等も知らなければならない（知識）。そして、その知識をもとにうまくICTを活用していく必要がある（実践）。さらに教育者は、学習者にその知識を伝え、ICTを活用させること（教授）が求められる。本講義ではICTを活用した教育を実施するうえで必要となる、コンピュータとそのネットワークについて、知識、実践、教授の3側面から学習する。より具体的には、コンピュータとネットワークで使われている技術について解説し、その技術が教育現場にどのようにおようされているのか紹介していく。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信技術（ネットワーク、情報の収集・管理、セキュリティなど）の基礎を理解することができる。 ・教育における情報通信技術活用のあり方（実践例・今後の展望を含む）について考察し、その後の学修・研究に向けた動機づけや、実践的な教育方法・教材等の開発に向けた見通しを持つことができる。 				
授業内容・方法と進度予定	第1回：イントロダクション：情報リテラシーとは 第2回：教育学を志す人のための情報通信技術：デジタルの基礎 第3回：教育学を志す人のための情報通信技術：コンピュータ技術 第4回：教育学を志す人のための情報通信技術：ネットワークおよびセキュリティ 第5回：情報活用の実際：新しい技術の活用 第6回：情報活用の実際：教育現場での活用 第7回：情報活用の実際：障害者支援での活用 第8回：まとめ				
成績評価方法	ミニットペーパーとレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	講義の理解を深めるため、各回の復習が必要となる、また課題に取り組むための時間が必要である				
実務・実践的授業	×				

その他	<p>受講生の興味・関心に合わせ講義の内容、順番を若干変更する可能性がある 講義開始日等については講義開始前（5月後半）までにクラスルームから連絡します。 一部の講義についてはオンラインによる配信とする予定である。 社会人学生で対面での講義に参加できないものについてはオンラインでの履修も認める（5月後半に連絡する）</p> <p>Googleクラスルーム（自動作成されるコードとは異なるので注意） クラスコード cbgf46ja</p>
オフィスアワー	各担当者に個別に問い合わせてください。
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PD000020																																																																						
科目名	エデュフェア・マインド																																																																						
単位数	1.0単位																																																																						
曜日・講時	水曜1限																																																																						
開講学期	1学期（前半）																																																																						
担当教員	齋谷 洋輔、横田 晋務、SCHLEMPER LENNA、劉 靖、石井山 竜平、福田 亘孝、前田 駿太、久保 沙織、神谷 哲司、甲斐 健人																																																																						
担当教員（所属）																																																																							
科目ナンバリング	PES-EDU703J																																																																						
使用言語	日本語																																																																						
メディア授業科目	×																																																																						
授業題目	エデュフェア・マインド																																																																						
授業の目的と概要	この授業の目的は次の3点である。①博士課程前期2年の課程で研究を進めるために必要な研究倫理を理解する。②「公正で包摂的な社会」の必要性やその構築に向けた諸分野の取組について学び、今後の研究・教育活動のなかに視点として採り入れていけるようにする。③コースや専門領域の異なる人と話をする際に必要なコミュニケーション能力を獲得する。第1回、2回は、研究倫理に関する現状と諸課題について、その基礎となる人間と倫理の関係を踏まえつつ講じる。東北大学「研究倫理に関するキャリア・ステージ別学習参照基準」をふまえた内容とする。第3回から8回は、各コース1名の教員が1回ずつ担当する。指定された文献に基づき、受講生はワークショップを行う。																																																																						
学修の到達目標	1) 研究倫理を学び「公正で包摂的な社会」の必要性やその構築につながる諸研究分野の取組について大学院生が学び、今後の研究活動のなかに視点として採り入れていけるようにすること。 2) 他の分野・領域の学生と対話することを通じて、分野・領域の異なる人と話をする際に必要なコミュニケーション能力を獲得すること。 3) 他の分野・領域の学生と知り合い、今後の共同研究に向けた素地を創り出すこと。																																																																						
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回：オリエンテーション／「エデュフェア・マインド」と倫理（齋谷 洋輔）</p> <p>第2回：研究と倫理（小嶋 秀樹）</p> <p>第3回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（福田 亘孝）</p> <p>第4回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（神谷 哲司）</p> <p>第5回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（前田 駿太）</p> <p>第6回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（石井山 竜平）</p> <p>第7回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（劉 靖）</p> <p>第8回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（久保 沙織）</p> <p>※第3回～第8回の担当者は、教員の都合により入れ替わることがある。</p>																																																																						
成績評価方法	出席と各回ごとに提出するレポート（これらに加えて博士後期の学生は書評）による。																																																																						
教科書及び参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>著者名</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN/ISSN</th> <th>資料種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定された文献をあらかじめ読んで出席することが求められる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別	指定された文献をあらかじめ読んで出席することが求められる																																																											
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別																																																																		
指定された文献をあらかじめ読んで出席することが求められる																																																																							
授業時間外学修	指定された文献をあらかじめ読んで出席することが求められる。																																																																						
実務・実践的授業	×																																																																						

その他	<p>業務の都合等で指定された曜限に出席できない場合は相談の上、オンデマンドによる受講を認める場合がある。あらかじめ鷲谷まで申し出ること (yosuke.washiya.a8@tohoku.ac.jp)。</p> <p>(Googleクラスルーム対応)</p> <p>①クラスコード: sbcah3o7</p> <p><要注意></p> <p>※Google Classroom 上ではPM10020、およびPD000020の科目となる。前後期課程の学生が合同で行う授業であるため、PM100020に登録すること。</p> <p>②第一回授業の開始時期: 4月8日(水) 8:50~</p> <p>③授業の実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リアルタイム&オンデマンド (Google Meetを使用) ・リアルタイムでの受講者には、第2回からオンライン上でのグループワークを課す。 ・オンデマンドでの受講者は、講義と全体討議の録画を後日視聴し、課題を提出する。オンデマンド受講を希望する場合は、4月10日(金)までに鷲谷までDCメールで連絡すること (yosuke.washiya.a8@tohoku.ac.jp)。 ・M1は必修科目なので、必ず履修すること。 <p>④関連資料の入手方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・google classroomから入手すること <p>⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンドの受講を勧めるが、それも難しい場合は個別に相談 (yosuke.washiya.a8@tohoku.ac.jp) のこと
オフィスアワー	Eメールにて調整 (yosuke.washiya.a8@tohoku.ac.jp)
更新日付	2026/03/04

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15~30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30~15時間、「実験・実習及び実技」については30~45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15~0時間です。

授業コード	PD000040
科目名	国際教育論Ⅱ
単位数	2.0単位
曜日・講時	集中講義
開講学期	1学期
担当教員	劉 靖、その他教員
担当教員(所属)	
科目ナンバリング	PES-EDU706E
使用言語	英語
メディア授業科目	×
授業題目	International Education Development Seminar: Comparative Education, Conflict and Peace
授業の目的と概要	The global community has set as a goal to get all children into schools by 2030, and to provide them quality education, yet war and violent conflict around the world remains the greatest barrier to achieving this goal. This course will examine the policies and practices that local, national and international agencies adopt to resolve conflict and build peace in and through education. The course will examine the following questions: How does conflict affect education? How does education affect conflict? What role do international educational actors play in mitigating or perpetuating conflict in diverse contexts? And what theories, methods, and pedagogies could support the transformation from conflict to peace in society via education? The course will explore the diversity of interpretations of education in emergencies and education for peacebuilding in different forms across the globe. An in-depth case study from Afghanistan will be examined, with additional cases from Ukraine, Somaliland, and Palestine.
学修の到達目標	In this course, students will: <ul style="list-style-type: none"> Examine the impact of conflict on education in diverse contexts; Study the impact of education on conflict and peacebuilding; Compare education, conflict and peacebuilding in different regions, cultures, and communities; Assess the contributions of this literature to the comparative educational field, as well as the comparative education literature to international understandings of issues of peace and conflict.
授業内容・方法と進度予定	This course involves student-directed learning and lecturer-student supervisions. Students are expected to complete readings outside of class and to questions to class for discussion. Each class will be facilitated as follows: a 30-minute group discussion on the assigned course reading(s) at the class followed by a whole-class discussion and Q&A for the remainder of the period. Students will also complete individual reflections on readings. The focus is on greater teacher-student and student-student interaction to enhance students' knowledge and skills in comparative education, conflict studies. Course Schedule Session 1 <input type="checkbox"/> Focus: Introduction to Course: Key Concepts <input type="checkbox"/> Class activities and details, daily goals: Introductions, review course syllabus; teambuilding; introductory lecture and ideas Required reading: Ramsbotham et al. (2024), Contemporary Conflict Resolution Chapter 1 Hantzopoulos et al. (2021), Situating Peace Education Theories, Scholarship and Practice in Comparative and International Education Session 2 <input checked="" type="checkbox"/> Focus: Peace and Conflict: Contemporary Trends <input type="checkbox"/> Required reading: Ramsbotham et al. (2024), Contemporary Conflict Resolution, Chapters 2-3 Session 3 Education in Conflict-Affected Contexts <input type="checkbox"/> Required reading: Bush, K., & Saltarelli, D. (2000). The Two Faces of Education in Ethnic Conflict Kirk, J. (2007). Education and Fragile States Lopes Cardozo, M., & Novelli, M. (2018), Education in Emergencies: Tracing the Emergence of a Field Kester, K. et al. (2022), Higher Education Peacebuilding in Conflict-Affected Societies: Beyond the Good/Bad Binary Session 4 Peace Education: Theory and Practice <input type="checkbox"/> Required reading: Harris, I. (2004), Peace Education Theory Bickmore, K. (2011), Keeping, Making, and Building Peace in School Higgins, S., & Novelli, M. (2020), Rethinking Peace Education: A Cultural Political Economy Approach Session 5 (Post)Critical Peace Education <input type="checkbox"/> Required reading: Bajaj, M., & Brantmeier, E. (2011), The Politics, Praxis, and Possibilities of Critical Peace Education Freire, P. (1970), Pedagogy of the Oppressed, Chapter 2 Kester, K. (2023), Global Citizenship Education and Peace Education: Toward a Postcritical Praxis Session 6 Afghanistan Case <input type="checkbox"/> Required reading: Burde book (2014), Chapter 1 Session 7 Afghanistan Case <input type="checkbox"/> Required reading: Burde book (2014), Chapter 2 Session 8 Afghanistan Case <input type="checkbox"/> Required reading: Burde book (2014), Chapter 3 Session 9 Afghanistan Case <input type="checkbox"/> Required reading: Burde book (2014), Chapter 4 Session 10 Afghanistan Case <input type="checkbox"/> Required reading: Burde book (2014), Chapter 5 Session 11 Afghanistan Case <input type="checkbox"/> Required reading: Burde book (2014), Chapter 6 Session 12 Ukraine Case <input type="checkbox"/> Required reading: Anatoly Oleksiyenko & Serhiy Terepyshchyi (2023), "Hope Against All Odds": Academic Precarity in Embattled Ukraine Lavrysh, Y. et al. (2026), Education as Emotional Support: Coping, Connection, and Resilience Among Ukrainian Students in Wartime Session 13 Somaliland Case <input type="checkbox"/> Required reading: Education, Peace and Development in Somali Society. https://discovery.ucl.ac.uk/id/eprint/10081489/ Kester, K. et al. (2026), Healing the Scars of War: Teaching for Peace through Higher Education in Divided and Conflict Affected Contexts (with video) https://www.youtube.com/watch?v=5GmbF03-koo Kester, K. (2025), Peace Education as a Form of Global Citizenship Education in Universities in Divided Settings: Challenges and Prospects

Session 14 Palestine Case □
 Required reading:
 Jebril, M. (2023). Between Construction and Destruction: The Experience of Educationalists at Gaza' s Universities
 Hajir, B., & Qato, M. (2025). Academia in a Time of Genocide: Scholasticidal Tendencies and Continuities

Session 15 Concluding□
 Required reading:
 Kester, K., & Misiaszek, G. (2024). Four Questions for Teaching Conflict for Peace, Justice, and Sustainability: Higher Education Roles and Respons
 Final Reflections

The instructor reserves the right to modify this schedule based on new information, extenuating circumstances, or student performance. Students will be notified before any changes, and due consideration will be given to grades and participation.

成績評価方法

Course Requirements & Grading
 Students are expected to attend and actively participate in all class meetings and complete all readings and assignments carefully and thoughtfully.

Component Weight
 Attendance/Active Participation in Class 10%
 Response Papers (10 x 6 pts each) 60%
 Case Study Presentation 30%

The professor will introduce the expected assignments and due dates for the course the first week. In consultation with students the final assessment may change. This will be decided in a participatory democratic way.

Evaluations
 In this course, there will be two key evaluations: attendance/participation and written reflections:

Attendance (10%) - Class attendance and participation is an expected component of university study. Participation in class and preparation for sessions will be further reflected in the essays and chapter presentations. As such, 10% of the course grade has been allotted to attendance, participation and supervision. Students will find the supervisions particularly helpful in assisting them to better understand and apply the concepts discussed during lectures and activities.

Response Papers (60%; individual) - Participation in class and preparation for sessions will be reflected in the class discussions and preparation papers. As such, 60% of the course grade has been allotted to response papers (60: 10 x 6 pts each: Sessions 2-10 and 15). In preparation for class sessions, students will read and summarize the selected chapter(s) for reading for each session. Students will complete 10 response papers during the term. The response papers will be given to the instructor as a word doc at the beginning of each session. Late assignments will not be accepted. The length of the paper should be no more than 1000 words, but strictly no more. In the response paper, students must include:

1. Description of the central argument developed in the chapter(s) (2 pts);
2. Explanation of how the argument relates to or differs from the argument presented in previous readings (2 pts);
3. The student' s response to the argument (2 pts)

The paper will be assessed on the following criteria:

- Grasp of the central argument
- Understanding of how readings relate to each other
- Originality of the response
- Writing effectiveness (clarity, logic and coherence)

When submitting the paper, make sure to include the following info in the word file: Student' s full name, GECP 2027, Response paper Session X.

Case Study Presentation (30%; group) - The final case study presentation will cover education in a conflict-affected context (as listed in session 14). The context will be assigned to each group during session one so students can complete the relevant readings. The case study should then be discussed together as a group and include a PPT of at least 10 slides. The case study should include the following: an overview of the educational context for the conflict and crisis concerning education; description of how the conflict affects education; description of how education affects the conflict; and proposal for addressing/mitigating the conflict. Students should reference the course readings during the presentation as well as potentially other secondary sources.

教科書及び参考書

書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Schools for Conflict or for Peace in Afghanistan	Dana Burde	Columbia University Press.	2014	978-0231537513	Book
Educating Children in Conflict Zones	Karen Mundy and Sarah Dryden-Peterson	TC Columbia.	2011	978-0807771402	Book
From Classrooms to Conflict in Rwanda.	Elisabeth King	Cambridge University Press	2013	978-1107432598	Book
Peace Education in a Conflict-Affected Society: An Ethnographic Journey	Michalinos Zembylas, Constadina Charalambous and Panayiota Charalambous	Cambridge University Press	2016	Book	
Contemporary Conflict Resolution, Fourth Edition	Oliver Ramsbotham, Tom Woodhouse and Hugh Miall	Polity.		978-1509557608	Book
Positive Peace in Schools.	Hilary Cremin and Terrence Bevington	Routledge	2017	978-1138235649	Book

授業時間外学修

Some Useful Journals and Websites for Global Educational Debates

- Globalisation, Societies and Education: <http://www.tandfonline.com/toc/cgse20/current>
- Compare: <http://www.tandfonline.com/toc/ccom20/current>
- Comparative Education: <http://www.tandfonline.com/toc/cced20/current>
- Comparative Education Review: <http://www.journals.uchicago.edu/toc/ceer/current>
- Current Issues in Comparative Education: <https://www.tc.columbia.edu/cice/>
- Course: Studies in the Cultural Politics of Education: <http://www.tandfonline.com/toc/cdis20/current>
- Educational Philosophy and Theory: <http://www.tandfonline.com/toc/rept20/current>
- Journal on Education in Emergencies: <https://inee.org/evidence/journal>
- Journal of Peace Education: <http://www.tandfonline.com/loi/cjpe20>
- Journal of Transformative Education: <https://journals.sagepub.com/home/jtd>
- International Journal of Educational Development: <https://www.journals.elsevier.com/international-journal-of-educational-development>
- International Review of Education: <https://link.springer.com/journal/11159>
- Prospects: <https://link.springer.com/journal/11125>

実務・実践の授業

x

その他	<p>Other required readings available in https://drive.google.com/drive/folders/1VoiVu8DBQpkxp0XPveLMUSphtzAvhA-</p> <p>Course Expectations & Guidelines</p> <p>1. Academic Integrity Students are expected to produce their own work and, when using the work of others, include clear citations. Failure to properly cite or attribute the work of others will impact your grade, including a partial loss of points on particular projects or a failure of the class. References should also be provided for presentation materials, such as when students present their mid-term case study.</p> <p>2. Student Special Needs If a student has a condition that impacts their classroom learning (such as a hearing disability), they should discuss special arrangements with the professor. A note from the departmental office may be required.</p> <p>3. Attendance and Class Participation It is the student's responsibility to attend class, and to inform their department in the event of excused absences. Students should come to class having read the required readings and be prepared to participate in discussion and activities. Active participation is integral to collaborative learning in the course.</p> <p>4. Student Use of Mobile Devices in the Classroom In general, mobile phones should NOT be used in this course. Occasionally, the instructor may allow students to use mobile devices for research purposes, provided they are not used excessively or disruptively, but for the most part mobile devices should be turned off during class. This is to facilitate better engagement and learning during the course.</p> <p>5. Additional Course Policies This course is based around your responsible preparation and use of class time, both for lectures and small and large group projects. It is assumed at the outset that you will use this time well. If you need extra assistance, please visit the professor.</p>
オフィスアワー	Drop-by or email for appointment
更新日付	2026/03/16

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PD000070				
科目名	院生プロジェクト研究				
単位数	1.0単位				
曜日・講時	集中講義				
開講学期	1学期				
担当教員	甲斐 健人				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU804J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	院生プロジェクト研究 2026				
授業の目的と概要	研究テーマの異なる複数の大学院生が、研究プロジェクトの立案、研究の遂行、および研究成果のプレゼンテーションをおこなう。				
学修の到達目標	<p>以下の諸能力を育成する</p> <p>①テーマの異なる学生との共同研究を遂行できる ②研究プロジェクトを立案することができる ③研究プロジェクトに関するプレゼンテーションを行うことができる ④学際的な研究能力を身につけることができる</p>				
授業内容・方法と進度予定	<p>○Google Classroomクラスコード：xug71x ○第1回授業の開始時期：通常通り（4月15日 18:00～）</p> <p>○授業の実施方法： ・オンライン（リアルタイム配信）。 ・この授業では、複数院生による共同研究を行うことから、時間割に示されている時間外での活動が中心となります。プロジェクトを組んだ院生同士で時間調整等を行っていただきます。</p> <p>○関連資料の入手方法：必要な資料はクラスの共有ドライブを利用して共有できます。</p> <p>○オンライン授業への対応が困難な学生への対応策：第1回目の授業開始までのなるべく早い時期に、対応が困難な旨及びその理由をお知らせください。Google Classroomを通じてでも、直接にメール（taketo.kai.a2@tohoku.ac.jp）をいただいても構いません。</p> <p>○対面授業への対応が困難な学生への対応策：上記と同様、個別にご相談ください。 受講希望者は4月15日（水）の6講時（18時～）にGoogle Classroomのクラスより、meetに参加すること。第1回授業日に、希望者と協議しつつ授業日程等の計画を立てる</p>				
成績評価方法	プロジェクトの立案（30%）＋プレゼンテーション（70%）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	プロジェクトの立案から研究の遂行およびプレゼンテーションに至るまで、授業時間外における学習がベースとなる。				
実務・実践的授業	×				
その他					

オフィスアワー	月曜12:10-12:50
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PD000090				
科目名	Edu-fare/fair Mind (English)				
単位数	1.0単位				
曜日・講時	水曜1限				
開講学期	2学期				
担当教員	劉 靖、MISIASZEK GREG WILLIAM、NAKASATO LAUREN NOELANI、その他教員				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU703E				
使用言語	英語				
メディア授業科目	×				
授業題目	Edu-fare/fair Mind for a sustainable world				
授業の目的と概要	<p>Based on the principles of "Education for fairness" and "Education for welfare," the Graduate School of Education offers the "Edufair Mind" course (in Japanese), in which students think about the role and nature of education to create a "fair and inclusive society" through dialogue with researchers in various research fields, and develop the qualities necessary for research and the research qualities, knowledge, and skills required to respond to educational issues.</p> <p>In this course, students will work with researchers and practitioners from Japan and abroad in an interdisciplinary and "Glocal" manner that focuses on the "Fairness×Welfare" of education in the areas of adult education, school education, international educational development, higher education, and multicultural conviviality. Each session will include a lecture by speakers and an interactive discussion between students and speakers.</p>				
学修の到達目標	<p>Goals of course are to enable students to:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) deepen their understanding of meaning of fairness/welfare in education and social change (2) hold a comparative perspective on issues of fairness/welfare in education in a glocal context (3) widen their vision on research design in education for fairness/welfare (4) understand fairness/welfare in education through an interdisciplinary perspective 				
授業内容・方法と進度予定	<p>In principle, this course will be conducted in person. If there is a shift to online class, the announcement will be made in advance. The final schedule of the sessions will be announced in the 1st session.</p> <p>Session 1 Orientation Session 2 International Education and Development for Sustainability (Dr. Jing Liu, Tohoku University) Session 3 Internationalization of Higher Education (Dr. Yuki Watabe, Tohoku University) Session 4 International Education (Dr. Kazuko Suematsu, Tohoku University) Session 5 Ecopedagogy (Dr. Greg Misiaszek, Tohoku University) Session 6 Human Rights Education (Dr. Mino Takahashi, Tohoku University) Session 7 Global citizenship education (Dr. Lauren Nakasato, Tohoku University) Session 8 International relations, politics, and international education development (Dr. Will Brehm, University of Canberra)</p>				
成績評価方法	<p>Students will be evaluated from the following perspectives.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Participation and engagement (30%) 2. Discussion & presentation (40%) 3. Weekly Reflection Paper (30%) 				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. The session time is limited, and therefore self-directed learning is essential. Students are encouraged to prepare and review for each class by individuals and groups. 2. Students are encouraged to collect information and topics related to the class' s content using newspapers, books, the internet, and other resources. 				
実務・実践的授業	×				

その他	1. Google Class code: odnaaroa 2. The 1st session will start at 8:50 on October 7, 2026. Those who plan to take course, please contact Dr. Jing Liu by jing.liu.e8@tohoku.ac.jp by September 30, 2026. 3. In principle, this course will be conducted in person. Special arrangement can be provided based on request/consultation with Dr. Jing Liu in advance. 4. Email of the coordinator of the course: Dr. Jing Liu, jing.liu.e8@tohoku.ac.jp
オフィスアワー	Office hour: Wednesday 10:30-12:00, appointment is required.
更新日付	2026/03/16

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM100010				
科目名	情報リテラシー				
単位数	1.0単位				
曜日・講時	水曜1限				
開講学期	1学期（後半）				
担当教員	佐藤 克美、その他教員				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EIA500J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育実践や教育学研究に必須となる「情報を扱う能力」の修得				
授業の目的と概要	ICT（Information and Communication Technology）社会においてはIoT利用の操作の知識、技術のみならず、法律等も知らなければならない（知識）。そして、その知識をもとにうまくICTを活用していく必要がある（実践）。さらに教育者は、学習者にその知識を伝え、ICTを活用させること（教授）が求められる。本講義ではICTを活用した教育を実施するうえで必要となる、コンピュータとそのネットワークについて、知識、実践、教授の3側面から学習する。より具体的には、コンピュータとネットワークで使われている技術について解説し、その技術が教育現場にどのようにおようされているのか紹介していく。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信技術（ネットワーク、情報の収集・管理、セキュリティなど）の基礎を理解することができる。 ・教育における情報通信技術活用のあり方（実践例・今後の展望を含む）について考察し、その後の学修・研究に向けた動機づけや、実践的な教育方法・教材等の開発に向けた見通しを持つことができる。 				
授業内容・方法と進度予定	第1回：イントロダクション：情報リテラシーとは 第2回：教育学を志す人のための情報通信技術：デジタルの基礎 第3回：教育学を志す人のための情報通信技術：コンピュータ技術 第4回：教育学を志す人のための情報通信技術：ネットワークおよびセキュリティ 第5回：情報活用の実際：新しい技術の活用 第6回：情報活用の実際：教育現場での活用 第7回：情報活用の実際：障害者支援での活用 第8回：まとめ				
成績評価方法	ミニットペーパーとレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	講義の理解を深めるため、各回の復習が必要となる、また課題に取り組むための時間が必要である				
実務・実践的授業	×				
その他	受講生の興味・関心に合わせ講義の内容、順番を若干変更する可能性がある 講義開始日等については講義開始前（5月後半）までにクラスルームから連絡します。 一部講義についてはオンラインでの配信の予定である。 Googleクラスルーム クラスコード cbgf46ja				

オフィスアワー	各担当者に個別に問い合わせてください。
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM100020				
科目名	エデュフェア・マインド				
単位数	1.0単位				
曜日・講時	水曜1限				
開講学期	1学期(前半)				
担当教員	齋谷 洋輔、横田 晋務、SCHLEMPER LENNA、劉 靖、石井山 竜平、福田 亘孝、前田 駿太、久保 沙織、神谷 哲司、甲斐 健人				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU500J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	エデュフェア・マインド				
授業の目的と概要	この授業の目的は次の3点である。①博士課程前期2年の課程で研究を進めるために必要な研究倫理を理解する。②「公正で包摂的な社会」の必要性やその構築に向けた諸分野の取組について学び、今後の研究・教育活動のなかに視点として採り入れていけるようにする。③コースや専門領域の異なる人と話をする際に必要なコミュニケーション能力を獲得する。第1回、2回は、研究倫理に関する現状と諸課題について、その基礎となる人間と倫理の関係を踏まえつつ講じる。東北大学「研究倫理に関するキャリア・ステージ別学習参照基準」をふまえた内容とする。第3回から8回は、各コース1名の教員が1回ずつ担当する。指定された文献に基づき、受講生はワークショップを行う。				
学修の到達目標	1) 研究倫理を学び「公正で包摂的な社会」の必要性やその構築につながる諸研究分野の取組について大学院生が学び、今後の研究活動のなかに視点として採り入れていけるようにすること。 2) 他の分野・領域の学生と対話することを通じて、分野・領域の異なる人と話をする際に必要なコミュニケーション能力を獲得すること。 3) 他の分野・領域の学生と知り合い、今後の共同研究に向けた素地を創り出すこと。				
授業内容・方法と進度予定	第1回：オリエンテーション／「エデュフェア・マインド」と倫理（齋谷 洋輔） 第2回：研究と倫理（甲斐 健人） 第3回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（福田 亘孝） 第4回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（神谷 哲司） 第5回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（前田 駿太） 第6回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（石井山 竜平） 第7回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（劉 靖） 第8回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（久保 沙織） ※第3回～第8回の担当者は、教員の都合により入れ替わることがある。				
成績評価方法	出席と各回ごとに提出するレポート（これらに加えて博士後期の学生は書評）による。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
指定された文献をあらかじめ読んで出席することが求められる					
授業時間外学修	指定された文献をあらかじめ読んで出席することが求められる。				
実務・実践的授業	×				

その他	<p>業務の都合等で指定された曜限に出席できない場合は相談の上、オンデマンドによる受講を認める場合がある。あらかじめ鷲谷まで申し出ること (yosuke.washiya.a8@tohoku.ac.jp)。</p> <p>(Googleクラスルーム対応)</p> <p>①クラスコード: sbcah3o7</p> <p><要注意></p> <p>※Google Classroom 上ではPM10020、およびPD000020の科目となる。前後期課程の学生が合同で行う授業であるため、PM10020に登録すること。</p> <p>②第一回授業の開始時期: 4月8日(水) 8:50~</p> <p>③授業の実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リアルタイム&オンデマンド (Google Meetを使用) ・リアルタイムでの受講者には、第2回からオンライン上でのグループワークを課す。 ・オンデマンドでの受講者は、講義と全体討議の録画を後日視聴し、課題を提出する。オンデマンド受講を希望する場合は、4月10日(金)までに鷲谷までDCメールで連絡すること (yosuke.washiya.a8@tohoku.ac.jp)。 ・M1は必修科目なので、必ず履修すること。 <p>④関連資料の入手方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・google classroomから入手すること <p>⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンドの受講を勧めるが、それも難しい場合は個別に相談 (yosuke.washiya.a8@tohoku.ac.jp) のこと
オフィスアワー	Eメールにて調整 (yosuke.washiya.a8@tohoku.ac.jp)
更新日付	2026/03/04

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15~30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30~15時間、「実験・実習及び実技」については30~45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15~0時間です。

授業コード	PM100030				
科目名	Edu-fare/fair Mind (English)				
単位数	1.0単位				
曜日・講時	水曜1限				
開講学期	2学期				
担当教員	劉 靖、MISIASZEK GREG WILLIAM、NAKASATO LAUREN NOELANI、その他教員				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU500E				
使用言語	英語				
メディア授業科目	×				
授業題目	Edu-fare/fair Mind for a sustainable world				
授業の目的と概要	<p>Based on the principles of "Education for fairness" and "Education for welfare," the Graduate School of Education offers the "Edufair Mind" course (in Japanese), in which students think about the role and nature of education to create a "fair and inclusive society" through dialogue with researchers in various research fields, and develop the qualities necessary for research and the research qualities, knowledge, and skills required to respond to educational issues.</p> <p>In this course, students will study with researchers and practitioners from Japan and abroad in an interdisciplinary and "Glocal" manner that focuses on the fairness, Welfare, equality and happiness of education in the areas of adult education, school education, international educational development, higher education, and multicultural conviviality. Each session will include a lecture by speakers and an interactive discussion between students and speakers.</p>				
学修の到達目標	<p>Goals of course are to enable students to:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) deepen their understanding of meaning of fairness/welfare in education and social change (2) hold a comparative perspective on issues of fairness/welfare in education in a glocal context (3) widen their vision on research design in education for fairness/welfare (4) understand fairness/welfare in education through an interdisciplinary perspective 				
授業内容・方法と進度予定	<p>In principle, this course will be conducted in person. If there is a shift to online class, the announcement will be made in advance. The final schedule of the sessions will be announced in the 1st session.</p> <p>Session 1 Orientation Session 2 International Education and Development for Sustainability (by Dr. Jing Liu, Tohoku University) Session 3 Internationalization of Higher Education (Dr. Yuki Watabe, Tohoku University) Session 4 International Education (Dr. Kazuko Suematsu, Tohoku University) Session 5 Ecopedagogy (Dr. Greg Misiaszek, Tohoku University) Session 6 Human Rights Education (Dr. Mino Takahashi, Tohoku University) Session 7 Global Citizenship Education (Dr. Lauren Nakasato, Tohoku University) Session 8 International relations, politics, and international education development (Dr. Will Brehm, University of Canberra)</p>				
成績評価方法	<p>Students will be evaluated from the following perspectives.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Participation and engagement (30%) 2. Discussion & presentation (40%) 3. Weekly Reflection Paper (30%) 				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. The session time is limited, and therefore self-directed learning is essential. Students are encouraged to prepare and review for each class by individuals and groups. 2. Students are encouraged to collect information and topics related to the class' s content using newspapers, books, the internet, and other resources. 				
実務・実践的授業	×				

その他	1. Google Class code: vohwp6 2. The 1st session will start at 8:50 on October 7, 2026. Those who plan to take course, please contact Dr. Jing Liu by jing.liu.e8@tohoku.ac.jp by September 30, 2026. 3. In principle, this course will be conducted in person. Special arrangement can be provided based on request/consultation with Dr. Jing Liu in advance. 4. Email of the coordinator of the course: Dr. Jing Liu, jing.liu.e8@tohoku.ac.jp
オフィスアワー	Office hour: Wednesday 10:30-12:00, appointment is required.
更新日付	2026/03/16

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM110010				
科目名	生涯教育科学基礎論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	石井山 竜平				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU501J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	生涯学習と地域社会教育				
授業の目的と概要	成人教育とそれを支える公的條件をめぐる基本理念と、それをめぐる今日的課題についての理解を深める。				
学修の到達目標	現代では、学校教育に限定されない教育への世間的な認知は一定程度広がっている。しかし、そうした領域を指す、たとえば、「生涯学習」「社会教育」などの概念が普及したのは20世紀、とりわけその後半からのことであり、人類史からすれば、ごく最近のことであるという。このことが持つ意味とは何なのだろうか。そして今、地域における学習にはいかなる展開がみられるのだろうか。 この講義では、今日の地域学習の諸相を手がかりに、私たちが生きている現代社会の課題をとらえ返しつつ、これからの時代における地域生涯学習の在り方について考察する。				
授業内容・方法と進度予定	<ul style="list-style-type: none"> ・成熟社会における生活課題と、その解決を目指す学習実践の実際 ・社会教育・生涯学習を支える理念と法制、国際的動向 ・社会教育・生涯学習の制度と地方分権改革 ・社会教育・生涯学習の提供主体の多元化 ・変革の時代をきりひらく学びと自治の創造 ・東日本大震災と社会教育、など。 				
成績評価方法	小レポート(約3回)、および学期末レポートによる総合評価				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	学外の生涯学習事業への参画を授業の一環として位置付けることもありうる。授業の中で指示する。				
実務・実践的授業	×				

その他	Google クラスルーム対応 ①クラスコード rakezzh2 ②第1回授業の開始時期 10月1日(木)3限(13:00~)実施。 ③授業の実施方法 基本、対面で実施する。状況に応じて、ZOOMを活用する場合もありうる。URL等は授業開始時期にClassroomに掲示する。 なお、本授業でオンラインを活用する際は、合間にグループ討議等を行うことなどから、常時、ビデオをONにした状態で臨んで頂くことを、受講のルールとする。 ④関連資料の入手方法
オフィスアワー	前期は火曜4限、後期は金曜3限
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15~30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30~15時間、「実験、実習及び実技」については30~45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15~0時間です。

授業コード	PM120010				
科目名	教育政策科学基礎論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	井本 佳宏				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU502J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	比較・国際教育学概論				
授業の目的と概要	本授業では、比較・国際教育学の歴史、理論および方法、主要なトピックについて概説し、比較・国際教育学の強み・弱みの両面にわたってその学問的特質についての理解を深めていく。				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 比較・国際教育学の学問的特質について理解する。 2. 教育のあり方の多様性を理解する。 3. 教育を比較という視点から考察するセンスを身につける。 				
授業内容・方法と進度予定	第1回 オリエンテーション 第2回 比較教育学とは／An introduction to comparative education 第3回 比較の方法／How are comparisons made? 第4回 文化と教育／Culture and education 第5回 比較のための経済的、政治的、社会的および歴史的脈／Economic, political, social and historical contexts for comparison 第6回 教育と開発／Education and the developing world 第7回 ジェンダーと教育／Gender an education 第8回 第2回から第7回までのまとめと討議／Review and reflection from the 2nd to the 7th lesson 第9回 国際教育学とは／Understanding international education 第10回 グローバリゼーションと教育／Globalisation and education 第11回 グローバルなシティズンシップ教育／Global citizenship education 第12回 多文化教育／Multicultural education 第13回 インターナショナルスクール／International schools 第14回 高等教育の国際化／Internationalisation of higher education 第15回 全体のまとめと補足／Review, reflection, and course evaluation				
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回記入・提出するミニットペーパー(30%)。 2. 期末レポート(70%)。 				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Introduction to Comparative and International Education (3rd edition)	Marshall, J.	SAGE	2024	9781529611243	教科書
授業時間外学修	授業で扱ったテーマに関連する書籍の読書等を通じて、主体的に比較・国際教育学についての認識・思考を深めていくこと。				
実務・実践的授業	×				

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は学部科目の「比較教育学講義」と合同で実施する。 ・授業に関する諸連絡、資料の配付、課題等の提示や提出には「比較教育学講義」のGoogle Classroomを利用する。クラスコードは「pxfmx1bl」です。第1回授業よりも前に各自で生徒登録しておくこと。 ・教科書は購入しなくても受講可能です。 ・授業は基本的に対面で行う。
オフィスアワー	・オフィスアワー 火曜日 13:00～15:00
更新日付	2026/02/20

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM130010				
科目名	グローバル共生教育論基礎論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	劉 靖				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU503J				
使用言語	英語				
メディア授業科目	×				
授業題目	Introduction to Global Education for Sustainable Development				
授業の目的と概要	<p>By providing a wide range of issues and discussions on international education and development, this course aims to provide students with the basic knowledge and up-to-date understanding of historical paradigm shifts and new trends of international education and development towards 2030 and beyond. The course is divided into four sections. Following the orientation, in Section 1, the course will review history and new international education and development trends. Specifically, it will provide two perspectives to understand the relationship between education and sustainable development goals. In Section 2, the course introduces key issues and solutions in stages of learning by connecting the global context with Japan's context. In Section 3, the course shifts focus to perspectives of teachers, technologies, governance, and partnership for international education and development. It ends with an introduction to theories and methods of research on international education and development.</p> <p>Students will discuss assigned readings and share their opinions and reflections that link to selected themes on international education and development in class. Also, students are invited to select themes related to international education and development for written assignments and presentations.</p>				
学修の到達目標	<p>Goals of course are to enable students to:</p> <p>(1) obtain basic and up-to-date knowledge about international education and development. (2) hold a comparative perspective on issues in international education and development at both global and local levels. (3) understand a complicated relationship between educational development and social change.</p>				
授業内容・方法と進度予定	<p>In principle, the class will be conducted on-site. In case there is shift to online, announcement will be made in advance.</p> <p>Session 1 Orientation</p> <p>Section 1 Rethinking the Relationship between Education and Development Session 2 International Education & Development: A historical review & new trends Session 3 Sustainable Development Goals and Education 1: Education as a goal Session 4 Sustainable Development Goals and Education 2: Education as a means</p> <p>Section 2 Stages of Learning Session 5 Early childhood education Session 6 School education and beyond Session 7 Higher Education for Sustainable Development Session 8 Reflection Japan's Progress in SDG4</p> <p>Section 3 Educational Institutions and Trends Session 9 Teacher education and Pedagogies Session 10 New Technologies and Futures of Education Session 11 Global Governance and International Education and Development Session 12 Partnership for International Education and Development</p> <p>Section 4 Theories and Methods of Research on International Education and Development Session 13 Theory Paradigms on International Education and Development Session 14 Research Methods of International Education and Development</p> <p>Section 5 Summary & Education in the Post-2030 Session 15 Final Presentation & Reflection</p>				
成績評価方法	<p>Participants will be evaluated comprehensively through their participation and engagement (30%), Group works (20%), short reports (20%), final presentation (10%), and final report (20%). Absence without prior approval is subject to negative evaluation (Students with more than three times of absence without notification will automatically fail this course).</p>				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Learning as Development: Rethinking International Education in a Changing	Daniel A. Wagner	Routledge	2018		
SDGs時代の国際教育開発学	ダニエル・A・ワグナー (前田美子 訳)	法律文化社	2020		
Routledge Handbook of International Education and Development	Simon McGrath and Qing Gu (Ed.)	Routledge	2016		
国際教育開発論：理論と実践	黒田一雄, 横関 祐見子	有斐閣	2005		
Global Education Monitoring Report: Education and Nutrition: Learn to Eat Well	UNESCO	UNESCO	2025		
教育グローバル化のダイナミズム	ジョエル スプリング (原著), 北村 友人 (翻訳)	東信堂	2023		
Globalization of Education: An Introduction	Joel Spring	Routledge	2014		

授業時間外学修	1. The session time is limited, and therefore self-directed learning is essential. Students are encouraged to prepare and review for each class by individuals and groups. 2. Students are encouraged to collect information and topics related to the class' s content using newspapers, books, the internet, and other resources.
実務・実践的授業	×
その他	1. Google Class code: nn2lpxun 2. The 1st session will start at 13:00 on October 6, 2026. Those who plan to take course, please contact Dr. Jing Liu by jing.liu.e8@tohoku.ac.jp by October 5 (12PM), 2026. 3. In principle, this course will be a face-to-face course. 4. Email of the instructor in charge: jing.liu.e8@tohoku.ac.jp
オフィスアワー	Office hour: Wednesday 15:00-17:00, appointment is required.
更新日付	2026/03/16

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM140010				
科目名	教育情報アセスメント基礎論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜1限				
開講学期	1学期				
担当教員	西塚 孝平				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA501J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育評価の基礎理論と応用				
授業の目的と概要	<p>教育評価をめぐる改革の焦点や諸問題は「教育や学習をどのように評価するか」というテクニカルな方法論に傾斜しがちで、そもそも評価とはどのような営みなのか、なぜ評価をしなければならないのか、評価と人間社会のあいだにどのような影響関係があるのかといった根本的かつ全体的な理解が不足している。その結果、評価はしばしば忌避され、教育や学習の四隅(二次)に追いやられ、人間の能力や発達の・行動的な変化を数量化・序列化するプロセスとしかみなされていない節がある。この講義では、学校を舞台とした教育と学習の評価(測定とアセスメントを含む)に関する理論と実践の歴史的展開を幅広く概観し、評価の多面的特質について検討する。そして、学び手が未来社会をより善く生きるために教育評価はどうあるべきかを主体的に考察できるようにすることをめざしたい。</p>				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育評価の歴史的展開を踏まえ、その基本的概念、目的・役割、機能・方法の特徴を理解し説明できる。 ・具体的な教育評価実践の価値(意義と課題)を正しく見抜くために必要な知識と技能を習得する。 ・教育評価の基本原則を様々な周辺領域(目標・学力論、カリキュラム論、発達論、制度論、文化論等)との関係性の中で深く捉え、その知見を教育と学習のデザインに応用できる。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1講 オリエンテーション:「評価」は教師の権威を保つ伝家の宝刀か? 第2講 近代教育における教育測定運動(measurement)の台頭 第3講 教育評価(evaluation)の誕生:評価と目標(哲学)の結合へ 第4講 学力の構造とコンピテンス論 第5講 カリキュラム評価の理論と方法 第6講 ブルームのカリキュラム構成論:形成的評価、マスタリーラーニング、タキノミー 第7講 教育目標分類の批判と新たな学力論の提起 第8講 標準テスト批判としての「真正の学習・学力」論の提唱と「目標に準拠した評価」の精緻化 第9講 共通性と多様性の保障:「目標に準拠しない評価」からの問い直し 第10講 形成的評価から形成的アセスメントへ:概念拡張:学びを創り出す評価の理論化 第11講 フィードバック(continuous improvement)の機構 第12講 子どもを知るといふ行為:見取り、子ども/生徒理解、鑑識眼 第13講 評価と文化 第14講 再帰的評価としての教員評価・学校評価 第15講 なぜ私たちは「評価の学び手」になる必要があるのか?(授業のまとめ)</p>				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・復習課題 40% ・授業への参加度 30% ・期末レポート 30% <p>※授業への参加度には、授業中に提示するいくつかの問いにワークシートやGoogle Form等で回答し授業終了後に提出すること、ペアワークやグループワークなどの学び合いに取り組むこと等、授業参加への意欲が含まれる。</p>				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
・教科書や参考書の購入は不要。授業で用いる各種資料はGoogle Classroomに共有する。					
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・復習課題として毎回の振り返りをおこなう。 				

実務・実践的授業	x
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は学部生向け授業「教育アセスメント論講義」と共通科目であり、受講者に学部生が含まれる。 ・Google Classroomのクラスコード：b5cltfwc（基礎論） ・基本は対面授業（教室での授業）とするが、状況に応じてオンライン授業を一部おこなう可能性がある。
オフィスアワー	<p>E-mail：n.k@tohoku.ac.jp(◎を@に置き換えてください)</p> <p>※オフィスアワーを設定していないため、質問や相談は上記メールアドレスでいつでもお受けします。</p>
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM150010				
科目名	教育心理学基礎論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜2限				
開講学期	1学期				
担当教員	工藤 与志文				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY500J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	学習心理学と教授ストラテジー				
授業の目的と概要	ストラテジー(strategy)とは目的遂行のための長期的な総合戦略のことである。教育においても、個別の教授活動をどうするかという問題を越えた、長期的かつ総合的な教授ストラテジー(teaching strategy)が必要となる。この講義では、教授ストラテジーとその理論的ベースを提供する学習心理学理論について概説する。				
学修の到達目標	① 学習心理学の基本概念を知る。 ② 学習心理学理論と教授ストラテジーの関連について理解を深める。				
授業内容・方法と進度予定	1. ガイダンス 2. 教授ストラテジーはなぜ必要か 3. 行動主義的学習理論 4. 行動主義的学習理論と教授ストラテジー 5. 積み重ね型ストラテジーの特徴(1) 6. 積み重ね型ストラテジーの特徴(2) 7. 認知主義的学習理論 8. 認知主義的学習理論と教授ストラテジー 9. 組みかえ型ストラテジーの特徴-対決型ストラテジー(1) 10. 組みかえ型ストラテジーの特徴-対決型ストラテジー(2) 11. 組みかえ型ストラテジーの特徴-様柔型ストラテジー(1) 12. 組みかえ型ストラテジーの特徴-様柔型ストラテジー(2) 13. 学習過程と教授ストラテジー 14. 知識探究型ストラテジーと知識活用型ストラテジー 15. まとめ				
成績評価方法	各講義後のレポート課題の提出状況と期末テストの成績で評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	前回の講義内容を復習するとともに、与えられたレポート課題に取り組む。				
実務・実践的授業	×				

その他	連絡先 : yoshifumi.kudo.d6@tohoku.ac.jp (Googleクラスルーム対応) クラスコード frm7gn4z
オフィスアワー	毎週月曜 4 講時
更新日付	2026/02/24

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM160010				
科目名	臨床心理学基礎論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜5限				
開講学期	2学期				
担当教員	若島 孔文				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY501J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	臨床心理学概論				
授業の目的と概要	臨床心理学における代表的諸理論(精神分析、来談者中心療法、認知・行動療法、家族療法など)について改札する。また、それら代表的諸理論の日本への導入における東北大学の役割と貢献について補足する。				
学修の到達目標	①臨床心理学が人間を理解し、援助することを志向した実践の学問であることを知り、人間のこころの固有性と可変性に対する柔軟な視点について理解を深めること。 ②東北大学の歴史の一端を知り、臨床心理学の大きな流れに向けて興味が喚起されること。				
授業内容・方法と進度予定	1. ～ 2. 生物・心理・社会モデルと心理療法の効果的要因について 3. ～ 5. 精神分析・分析心理学 6. 来談者中心療法 7. ～ 8. 認知・行動療法 9. ～ 10. システム理論とコミュニケーション理論 11. 家族療法のモデル 12. 解決志向短期療法 13. ナラティブセラピー 14. ～ 15. 事例の検討				
成績評価方法	質疑等の参加状況、受講態度(40%)、複数回的小レポート(60%)で評価する。すべての小レポートの提出を単位取得の要件とする。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	予習・復習については、授業の際、資料を配布する。				
実務・実践的授業	×				
その他					
オフィスアワー	月曜日10時30時から14時30分				
更新日付	2026/02/04				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM200010				
科目名	Practical English for Educational Sciences				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜5限				
開講学期	1学期				
担当教員	その他教員				
担当教員(所属)	Matthew Nall (非常勤講師)				
科目ナンバリング	PES-EDU570E				
使用言語	英語				
メディア授業科目	×				
授業題目	Practical English for Educational Sciences				
授業の目的と概要	This course focuses on developing skills for effective public speaking and participation in academic discussions in English. It is intended for graduate students seeking to improve their academic presentation skills and oral communication abilities.				
学修の到達目標	At the end of the course, you will be able to confidently lead and participate in academic presentations, lectures, poster sessions, and workshops.				
授業内容・方法と進度予定	<ul style="list-style-type: none"> 1 回目 Course introduction. What makes a good public speaker? 2 回目 Parts of a presentation. Presentation flow. Citations, References. Using pictures. 3 回目 The Introduction and Conclusion. Using notecards and eye contact. Explanation of Presentation 1. 4 回目 Presentation 1 (3 minutes) 5 回目 The Body 1 – Research Questions, Describing the Study (methodology, participants, etc.), Figures & Tables 6 回目 The Body 2 – Discussion the results of your study, Importance of three main points (with the strongest point last), Why did you find these results?, What is interesting for the listener?, What implications are there from the results of this study? 7 回目 Presentation 2 (5 minutes) 8 回目 The Conclusion 1 – What is the purpose of the conclusion, What are limitations?, What are future directions? 9 回目 The Conclusion 2 – Telling a story to finish, One big story (referring back to the introduction), Finishing strong. 10 回目 Presentation 3 (3 minutes) 11 回目 Performing under pressure, Making a good impression, When you are not prepared. 12 回目 Presentation 4 (5 minutes) 13 回目 Who is listening?, Changing the language and style of your presentation to match your audience, Bilingual presentations, Design of slides, Using humor 14 回目 Final presentations 15 回目 Final presentations 				
成績評価方法	Presentations 1-4 40% Classwork 10% Final Presentation 40% Participation 10%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	事前に配布する資料を勉強しておくこと。Handouts and information regarding the next week's lesson will be distributed in class. Make sure you read the material beforehand.				

実務・実践的授業	x
その他	You must attend class each week. If you are going to be late or absent, contact the lecturer beforehand. A maximum of three absences will be allowed. If you are absent four or more times, you will not be able to pass the course. <input type="checkbox"/> 授業について: (1) Google Classroomクラスコードは、教育学研究科ウェブサイトに掲載しているクラスコード一覧 (HOME>学生生活>時間割表・シラバス等) で確認してください。(2) 第1回の授業開始時間: 4月14日(月) 16:20からです。(3) 授業の実施方法: Classroomに資料などをアップ。(4) 授業について個別相談(matthewgarynall@gmail.com)。
オフィスアワー	非常勤講師
更新日付	2026/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM200020				
科目名	国際実践研究 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
開講学期	1学期				
担当教員	劉 靖、NAKASATO LAUREN NOELANI				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU573E				
使用言語	英語				
メディア授業科目	×				
授業題目	Asia Education Leader Course (Summer)				
授業の目的と概要	<p>Asia Education Leader (AEL) Course is to nurture internationally minded educational professionals (IMEP) who have international perspective and are able to address educational challenges in contemporary Asia. Specifically, it nurtures (1) Education researchers capable of undertaking comparative analysis of educational issues in Asia; (2) Teacher leaders who are practicing educators capable of engaging with researchers, policymakers and other practitioners; and (3) Education administrators with the knowledge and skills required to collaborate with partners across the region.</p> <p>Each summer/winter course basically has three subjects which are based on KAP-S Rainbow Curriculum design of AEL Course. Knowledge refers to high professional knowledge; Attitude means empathic attitude towards Asia; Skills symbolize research skills; and Practice gives emphasis on experience in the field.</p> <p>AEL Course is set up by consensus among, and its summer/winter courses are hosted in rotation by, six partner institutes of five universities in East Asia. These include, - Graduate School of Education, Tohoku University (TU), Sendai - College of Education, National Chengchi University (NCCU), Taipei - School of Education Science, Nanjing Normal University (NNU), Nanjing - School of Psychology, Nanjing Normal University (NNU), Nanjing - Department of Education, Korea University (KU), Seoul - College of Education, National Taiwan Normal University (NTNU), Taipei</p>				
学修の到達目標	<p>Goals of course are to enable students to:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) obtain comprehensive and professional knowledge and skills related to education and social change in Asia. (2) hold emphatic attitude towards equality, equity, inclusiveness and sustainability in education of Asia. (3) enrich practical experiences in educational change in Asia. (4) enhance mutual understanding and communication between participants from different universities in Asia. 				
授業内容・方法と進度予定	<p>AEL 2026 Summer Course (onsite) which is going to be jointly hosted by Tohoku University and Chulalongkorn University, includes the following subjects.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ K-P: 8/10-8/12 Cognitive Science of Human Communication ・ S-P: 8/13-8/15 Mental Health and Telepsychology ・ A-P: 8/17-8/19 Education in Thailand and Fieldwork 				
成績評価方法	Evaluation mainly depends on students' participation and performance in AEL 2026 Summer Course jointly hosted by Tohoku University and Chulalongkorn University. Students' engagement, participation, and performance in pre-study and Asia Education Leader Forum will have positive impact on students' evaluation results.				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<p>A. Pre-study ・ Participants of AEL Summer Course need to take part pre-study sessions provided by AELC. ・ Participants of AEL Summer Course need to take part in global webinars and open lectures hosted by the Graduate School of Education, Tohoku University.</p> <p>B. Review Participants need to take part in Asia Education Leader Forum to be held in September.</p>				

実務・実践的授業	x
その他	1. Guidance of AEL Summer Course will be held in April. Please check AELC homepage for details. https://www.sed.tohoku.ac.jp/ireo/aclc/
オフィスアワー	2. For any inquiries, please contact AELC Secretary Office by aclc@grp.tohoku.ac.jp 必要に応じて対応する。
更新日付	2026/03/01

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM200030				
科目名	国際実践研究Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
開講学期	2学期				
担当教員	劉 靖、NAKASATO LAUREN NOELANI				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU574E				
使用言語	英語				
メディア授業科目	×				
授業題目	Asia Education Leader Course (Winter)				
授業の目的と概要	<p>Asia Education Leader (AEL) Course is to nurture internationally minded educational professionals (IMEP) who have international perspective and are able to address educational challenges in contemporary Asia. Specifically, it nurtures (1) Education researchers capable of undertaking comparative analysis of educational issues in Asia; (2) Teacher leaders who are practicing educators capable of engaging with researchers, policymakers and other practitioners; and (3) Education administrators with the knowledge and skills required to collaborate with partners across the region.</p> <p>Each summer/winter course basically has three subjects which are based on KAP-S Rainbow Curriculum design of AEL Course. Knowledge refers to high professional knowledge; Attitude means empathic attitude towards Asia; Skills symbolize research skills; and Practice gives emphasis on experience in the field.</p> <p>AEL Course is set up by consensus among and its summer/winter courses are hosted in rotation by partner institutes of six universities in</p>				
学修の到達目標	<p>Goals of course are to enable students to:</p> <p>(1) obtain comprehensive and professional knowledge and skills related to education and social change in Asia. (2) hold emphatic attitude towards equality, equity, inclusiveness and sustainability in education of Asia. (3) enrich practical experiences in educational change in Asia. (4) enhance mutual understanding and communication between participants from different universities in Asia.</p>				
授業内容・方法と進度予定	<p>Details of AEL 2027 Winter Course (onsite) is going to be hosted by Nanjing Normal University. And the details of the subjects will be announced in the beginning of October 2026.</p>				
成績評価方法	<p>Evaluation mainly depends on students' participation and performance in AEL 2027 Winter Course. Students' engagement, participation, and performance in preparation and Asia Education Leader Forum will have positive impact on students' evaluation results.</p>				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<p>A. Preparation ・ Participants of AEL Winter Course need to finish necessary reading references assigned by lecturers of AEL Winter Course. ・ Participants of AEL Winter Course need to take part in global webinars and open lectures hosted by the Graduate School of Education, Tohoku University.</p> <p>B. Review Participants need to take part in Asia Education Leader Forum to be held in March.</p>				
実務・実践的授業	×				
その他	<p>1. Guidance of AEL Winter Course will be held in October. Please check AELC homepage for details. https://www.sed.tohoku.ac.jp/ireo/aelc/</p> <p>2. For any inquiries, please contact AELC Secretariat Office: aelc@grp.tohoku.ac.jp.</p>				
オフィスアワー	必要に応じて対応する。				
更新日付	2026/03/01				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

その他	1. Google classroom code:k6qame2e 2. 興味のある学生がぜひ4月8日（水）（17:00-18:00）の説明会に参加してください。説明会場所：801号室 3. 問合せ先：グローバル共生教育論コース 准教授 劉靖 (jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)
オフィスアワー	必要に応じて対応する。
更新日付	2026/02/26

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM210010					
科目名	人間形成学概論 I					
単位数	2.0単位					
曜日・講時	木曜3限					
開講学期	1学期					
担当教員	澤田 哲生					
担当教員(所属)						
科目ナンバリング	PES-EDU510J					
使用言語	日本語					
メディア授業科目	×					
授業題目	モーリス・メルロ＝ポンティの『知覚の現象学』講読/Reading of Merleau-Ponty' s Phenomenology of Perception					
授業の目的と概要	<p>20世紀のフランスを代表する現象学者、モーリス・メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』を精読し、その内容を検討することで、人間形成における「自己」と「他者」、さらには「世界」の機能を考察する。 /The purpose of this seminar is to consider the philosophical functions of “self”, “other” and “world” in human formation by reading deeply Merleau-Ponty' s Phenomenology of perception.</p>					
学修の到達目標	<p>学生が哲学的な文献を丹念に読み込み、自発的にテーマを見つけ、検討する能力の獲得。 / Goals of this seminar are to lead students to acquire the ability to find and think spontaneously their own themes through the close reading of philosophical texts.</p>					
授業内容・方法と進度予定	<p>『知覚の現象学』第3部第3章「自由」を毎回読み進める。 第1回：演習の方法の説明 第2回：学生によるレジュメの発表、討論、教師による解説 第3回：学生によるレジュメの発表、討論、教師による解説 第4回：学生によるレジュメの発表、討論、教師による解説 第5回：学生によるレジュメの発表、討論、教師による解説 第6回：学生によるレジュメの発表、討論、教師による解説 第7回：学生によるレジュメの発表、討論、教師による解説 第8回：学生によるレジュメの発表、討論、教師による解説 第9回：学生によるレジュメの発表、討論、教師による解説 第10回：学生によるレジュメの発表、討論、教師による解説 第11回：学生によるレジュメの発表、討論、教師による解説 第12回：学生によるレジュメの発表、討論、教師による解説 第13回：学生によるレジュメの発表、討論、教師による解説 第14回：学生によるレジュメの発表、討論、教師による解説 第15回：まとめ</p> <p>Reading of “Freedom” (3rd chapter of third section) of Merleau-Ponty' s Phenomenology of perception. The 1st session : Illustration of the seminar and its method The 2nd session : Presentation of summary by a student, discussion and lecturer' s comment The 3rd session : Presentation of summary by a student, discussion and lecturer' s comment The 4th session : Presentation of summary by a student, discussion and lecturer' s comment The 5th session : Presentation of summary by a student, discussion and lecturer' s comment The 6th session : Presentation of summary by a student, discussion and lecturer' s comment The 7th session : Presentation of summary by a student, discussion and lecturer' s comment The 8th session : Presentation of summary by a student, discussion and lecturer' s comment The 9th session : Presentation of summary by a student, discussion and lecturer' s comment The 10th session : Presentation of summary by a student, discussion and lecturer' s comment The 11th session : Presentation of summary by a student, discussion and lecturer' s comment The 12th session : Presentation of summary by a student, discussion and lecturer' s comment The 13th session : Presentation of summary by a student, discussion and lecturer' s comment The 14th session : Presentation of summary by a student, discussion and lecturer' s comment The 15th session : Synthesis</p> <p>※学生の習得した外国語に応じて、フランス語の原文、英訳、日本語訳を配布する。 /Copies of text (French) and translations (English and Japanese) will be distributed to students, according to the languages acquired by them.</p>					
成績評価方法	<p>発表要旨の作成、議論への参加、期末レポートから総合的に判断する。 / Grading is based on preparation of summary, discussion in the class and a report at the end of semester.</p>					
教科書及び参考書	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
	Phénoménologie de la perception	M. Merleau-Ponty	Gallimard	1945		
	『知覚の現象学』(1/2)	M.メルロ＝ポンティ	みすず書房	1967/1974		
	Phenomenology of perception	M. Merleau-Ponty	Routledge	2002		

授業時間外学修	毎回、レジュメを準備しておくこと。演習後にテキストを読み返しておくこと。 /It is necessary for students to prepare the summary of text in each seminar and to review the text after the seminar.
実務・実践的授業	×
その他	
オフィスアワー	毎週金曜日13:00-17:00
更新日付	2026/02/07

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM210030				
科目名	社会教育学概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	石井山 竜平				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU512J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	自治体改革と住民の学び				
授業の目的と概要	日本の教育システムを支える法、制度、行政施策は、大きな転換点を経由している。そこには、戦後改革の中から生まれた憲法的価値の転換を図る、グローバル経済に対応した新自由主義的な改革原理と、それに親和的な新保守主義的な原理が融合がみられる。 こうした教育をめぐる構造改革の影響に加えて、社会教育・生涯学習行政には、市町村合併に伴う社会教育の再編、指定管理者制度の広がり、首長部局行政への社会教育行政の包摂、社会教育の学校支援行政への特化など、大きな変化が現れている。 こうした社会教育・生涯学習をめぐる今日的変化と、そのなかでいかなる生涯学習計画の組み立てられ方が実効的であるのか、それが先行研究でどこまで究明されているのかを確認する。あわせて、文献でとらえたことを確かめるために、授業の一部を活用して、地元自治体への調査も予定している。				
学修の到達目標	地域・自治体レベルの社会教育・生涯学習行政の再編をめぐるこれまでの動向と最新動向を理解する。				
授業内容・方法と進度予定	1 イントロダクション 2 社会教育・生涯学習政策の動向 3 社会教育法改正をめぐる近年の動向 4 地方分権・規制緩和・行政改革 5 市町村合併と社会教育 6 社会教育・生涯学習行政と首長部局移管 7 社会教育財政 8 住民参画による社会教育・生涯学習の計画づくりの系譜(1) 9 住民参画による社会教育・生涯学習の計画づくりの系譜(2) 10 教育振興基本計画 11 韓国における社会教育・生涯学習の動向 12 中国における社会教育・生涯学習の動向 13 日本各地における社会教育行政の再編の動向と住民の対応(1) 14 日本各地における社会教育行政の再編の動向と住民の対応(2) 15 日本各地における社会教育行政の再編の動向と住民の対応(3)				
成績評価方法	授業および調査活動への参加、最終レポートにより評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
テキストブック社会教育論	石井山竜平・佐藤一子	旬報社	2025	ISBN-10 : 4845121026	
授業時間外学修	正規の時間外での訪問調査を予定している。				
実務・実践的授業	×				
その他	Googleクラスルーム対応 クラスコード iewgjmdj				

オフィスアワー	前期は火曜4限、後期は金曜3限
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM220010				
科目名	教育政策科学概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜2限				
開講学期	1学期				
担当教員	井本 佳宏、青木 栄一、島 一則、福田 亘孝				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU530J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育政策科学研究の基礎				
授業の目的と概要	この授業は、教育政策科学を構成する教育社会学、教育行政学、比較教育学の学問分野において、共通かつ必須の研究法の基礎をトレーニングするための演習科目である。研究全体の計画から、研究の方法論、量的な研究計画、質的な研究計画に至るまでの基礎事項を学ぶ。また、同時に、研究のための英語力を培うことも、この授業のねらいである。				
学修の到達目標	学術水準の高い論文を執筆するための基礎的能力を身につける。				
授業内容・方法と進度予定	1回：授業概要の説明、2～5回：研究計画・方法論、6～10回：量的データとその取り扱い、11～15回：質的データとその取り扱い				
成績評価方法	授業への貢献度による4名の担当教員の評価を総合化する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Introduction to Research Methods in Education (2nd edition)	Punch, K. F. and Oancea, A.	Sage	2014		教科書
授業時間外学修	毎回指示する英文文献について予習と学習内容の整理を行うこと。				
実務・実践的授業	×				
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・教育政策科学コースに属する博士課程前期1年生は、必ず履修すること。それ以外の学生についても、教育政策科学の研究方法を身に付けたい学生には、本授業の履修を勧める。 ・授業に関する諸連絡、資料の配付、課題等の提示や提出にはGoogle Classroomを利用する。クラスコードは「p3vbgh55」です。第1回授業よりも前に各自で生徒登録しておくこと。 ・各回の授業の実施方法についてはそれぞれの担当教員から連絡する。 				
オフィスアワー	この授業専用のオフィスアワーは設定されていないので、必要があれば個々の教員に個別に問い合わせること。				
更新日付	2026/02/25				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM230020				
科目名	学校教育論概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
開講学期	1学期				
担当教員	その他教員、劉 靖				
担当教員(所属)	荻原崇世(非常勤講師)				
科目ナンバリング	PES-EDU551E				
使用言語	英語				
メディア授業科目	×				
授業題目	Global Perspectives on Teacher Education and Teacher Learning				
授業の目的と概要	This course explores on various concepts and theories of teacher education and teacher learning from global perspectives. A range of issues and emerging trends in this field, such as teacher shortage, alternative teacher education programs, internationalization of lesson study, will also be discussed.				
学修の到達目標	The main thrust of the course is to enable us to acquire the following set of knowledge and skills: Literacy: To pay attention to the global issues around us and explain key concepts and different theories in the areas of teacher education and teacher learning. Analytical thinking: To connect new information with what you already know, and to analyze and evaluate information on global issues in order to draw reasonable implications. Communication: To effectively communicate one's own ideas and opinions with others. Collaboration: To work with classmates in order to develop, strengthen, and deepen understanding on the topics covered in class.				
授業内容・方法と進度予定	The schedule below is subject to change depending on the interest of the students. 1. Introduction: course purpose, contents, procedures, & evaluation 2. Local and global in teacher education 3. The ethos of teaching profession (1) 4. The ethos of teaching profession (2) 5. Discussion & research consultation 6. Learning to teach from global perspectives 7. Teacher knowledge domains 8. Global teacher shortage 9. Alternative route to teaching 10. Discussion & research consultation 11. Teacher learning from global perspectives 12. Movie: "The Class" (1) 13. Movie: "The Class" (2) 14. Internationalization of lesson study 15. Wrap-up discussion and reflection				
成績評価方法	Commentaries: 20% Presentation: 30% Term paper: 49%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Schoolteacher: A Sociological Study (Second	Lortie, D. C.	University of Chicago Press	1975	978-0226493510	
授業時間外学修	In this course, students are required to read assigned readings and upload comments/questions before coming to class. This can be questions about the readings or reflections on your own experiences in relation to the topic and should not exceed 150 words. Some comments/questions will be picked to discuss in class. Class meeting will be an opportunity for students to share their questions, thoughts, and experiences as well as to work with classmates, not just to listen to the lecture. Expect 90-120 minutes preparation. Students are also required to make a 15-minute presentation about one of the topics covered in class. More details will be explained in Class 0. In addition to commentaries and presentation, students are required to compose a report on one of the global issues/challenges of your choice. It should explore the current situation of the issue/challenge, discuss why global society need to pay attention to it, and suggest what you think you can do to solve that issue/challenge. More details will be discussed in class.				

実務・実践的授業	x
その他	All the required materials will be shared on LMS.
オフィスアワー	ogisutal@p.u-tokyo.ac.jp
更新日付	2026/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM230030				
科目名	多文化教育論概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜2限				
開講学期	1学期				
担当教員	渡部 由紀				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU552J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	グローバル化と高等教育の国際化				
授業の目的と概要	<p>グローバル化及び知識基盤社会の進展とともに、国内外で指導的人材として活躍する、いわゆる高度専門グローバル人材育成を目指した高等教育改革が世界規模で進んできた。例えば、世界銀行やアジア開発銀行などの国際開発金融機関は、その投資を初・中等教育から高等教育に移行し、欧州委員会などの地域連合政策執行機関は、地域的な高等教育圏を構築し、欧州域内の高等教育の質と競争力の向上を目指してきた。アジアにおいては、世界に通用する大学を構築するための政策が進められてきた。</p> <p>こうした高等教育の国際化が進む一方で、近年の世界的な国家主義の台頭は高等教育における国際的な活動に影響を及ぼしている。その結果、欧米を中心に「脱国際化(deinternationalization)」の動きが見られ、また、「社会のための高等教育の国際化(internationalization of higher education for society)」という新たな視点も提唱されるなど、高等教育の国際化をめぐる議論が活発になっている。</p> <p>本授業では、グローバル化の高等教育への影響を分析し、大学や高等教育機関が国際化を進める課題を検討する。また、高等教育の国際化に関する主要概念への理解するとともに、国家・地域レベルの高等教育政策、大学の具体的な国際化戦略・施策、さらには教育実践のあり方やその意義について考察し、議論する。</p>				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高等教育におけるグローバル化と国際化の主要な概念を説明し、それらを比較・分析できるようになる。 ・グローバル化が進む知的基盤社会における高等教育の役割を、具体的な事例を用いて評価できるようになる。 ・日本の大学国際化政策を批判的に分析し、グローバル化・多様化する日本社会および国際社会において必要な教育課題を特定できるようになる。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回 ガイダンス 第2回 グローバル化と高等教育への影響 第3回 高等教育の国際化と論理的根拠 第4回 高等教育国際化政策の動向 第5回 学生の国際的なモビリティと留学生受入れ 第6回 アカデミック・ライティング 第7回 高等教育の国際化とODA 第8回 国境を超える高等教育 第9回 高等教育の国際化と質保証 第10回 アカデミック主要言語としての英語の重要性の高まりと課題 第11回 グローバル人材育成と多文化教育 第12回 大学の国際化と地方創生 第13回 大学の国際化における倫理と責任 第14～15回 グループ・プレゼンテーション 第16回 グローバル化と高等教育の国際化</p> <p>【Googleクラスルーム情報及び授業運営の詳細】 ①クラスコード ・gtndgtfx</p> <p>②第一回授業の開始時期 ・4月13日(月)2限:10:30～</p> <p>③授業の実施方法 ・対面授業</p> <p>④関連資料の入手方法 ・授業の資料は、Google Classroomで共有</p>				
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の参加・貢献度 35% 2. ショート・ペーパー 40% 3. グループ・プロジェクト 25% 				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	授業でのディスカッションに貢献できるよう課題図書等を精読し準備すること				

実務・実践的授業	x
その他	Google Class Code: gtndgtfx
オフィスアワー	事前にメールで希望日時をお知らせください。
更新日付	2026/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM230040				
科目名	国際教育開発論概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜4限				
開講学期	1学期				
担当教員	劉 靖				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU556E				
使用言語	英語				
メディア授業科目	×				
授業題目	International Education and Development: An Introduction				
授業の目的と概要	<p>This course covers a wide range of knowledge and discussion about international education and development. It aims at enhancing students' understanding of basic knowledge and up-to-date discussion on international education and development towards 2030 and beyond. It will begin with mapping paradigm shifts of international education and development before and after WWII, after which theories of development and the role of education in these theories will be reviewed. Then, it will introduce key themes of international education and development and raise discussion on these issues both in developed countries and developing countries. In the final stage of the course, the history of international cooperation in education and development and newly emerging models for education and sustainable development will be introduced and discussed. Students will engage in discussion about assigned readings and share their opinions and reflections that link to selected themes on international education and development in class. Then, featured guest speakers from international organizations and new emerging donor countries will share experiences and discuss the achievements and challenges of international cooperation in educational development. Finally, students are invited to select themes related to international education and development for written assignments and presentations.</p>				
学修の到達目標	<p>Goals of course are to enable students to:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) obtain comprehensive knowledge about international education and development. (2) hold a comparative perspective on issues in international education and development at both global and local levels. (3) enrich practical experiences in educational development and social change (4) enhance mutual understanding and communication about education and development between participants from different cultures and backgrounds. 				
授業内容・方法と進度予定	<p>In principle, the course will be conducted in face-to-face style.</p> <p>In case there is a shift to online class, announcement will be made in advance.</p> <p>Session 1 to 8 will be jointly held with Tsinghua University in a hybrid model on Tuesday 4th period. Students of Tohoku University will join the class in person. And students of Tsinghua University and other universities will join the class online.</p> <p>Part I Paradigm shift Session 1: Introduction: Development, sustainability, and Education: Pathways since the 20th Century</p> <p>Part II Theories of development Session 2: Development Theories <ul style="list-style-type: none"> The liberal capitalist paradigm The Marxist paradigm Postcolonialism Liberal egalitarianism Radical humanism Post-Development Theories <ul style="list-style-type: none"> Post-Development theory Feminism Environmentalism De-growth/Slow down </p> <p>Part III International cooperation in education and development Session 3: UNESCO and International Education and Development Session 4: World Bank and International Education and Development Session 5: JICA and International educational cooperation Session 6: Partnership and Innovation for International Education and Development 1 Session 7: Partnership and Innovation for International Education and Development 2 Session 8: Group presentation</p> <p>Part IV Key themes Session 9: Global education reform movement (GERM) Session 10: Inequalities in education Session 11: Family and community engagement with education Session 12: Teachers and teacher education Session 13: Higher education and development Session 14: New technologies, future education, and development</p> <p>Part V Summary Session 15: Final presentations & Reflection</p>				
成績評価方法	<p>Participants will be evaluated comprehensively through the following perspectives.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. participation and engagement (30%) 2. Group works (20%) 3. Weekly reflection (20%) 4. Final presentation and report (30%). <p>Absence without prior approval is subject to negative evaluation. Absence three times is subject to fail the course. Weekly reflection no-submission two times is subject to fail the course.</p>				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
The Companion to Development Studies 3rd Edition	Desai, V., & Potter, R. B.	Routledge	2014		
Education & National Development: A Comparative Perspective 2nd Edition	Fagerlind, I., & Saha, L. J.	Pergamon Press	1989		
Education and International Development: An Introduction	McGown, T., & Unterhalter, E.	Bloomsbury	2015		
Routledge Handbook of International Education and Development	McGrath, S., & Gu, Q. (Eds.)	Routledge	2016		
Global Education Monitoring Report: Education and Nutrition: Learn to Eat Well	UNESCO	UNESCO	2025		
Learning as Development: Rethinking International Education in a Changing World	Wagner, D. A.	Routledge	2018		
Reimagining Our Futures Together: A new social contract for education	UNESCO	UNESCO	2021		
Grading Goal Four: Tensions, Threats, and Opportunities in the Sustainable Development Goal on Quality Education	Wulff, A.	Brill Sense	2020		
	McMichael, P., & Weber, H.	SAGE Publications Ltd	2022		

The Global Fourth Way: The Quest for Educational Excellence.	Hargreaves, A., & Shirley, D.	Corwin	2012		
授業時間外学修	1. The session time is limited, and therefore self-directed learning is essential. Students are encouraged to prepare and review for each class by individuals and groups. 2. Students are encouraged to collect information and topics related to the class' s content using newspapers, books, the internet, and other resources.				
実務・実践的授業	x				
その他	1. Google Class code: 7egjbdtd 2. The 1st session will start at 14:40 on April 14, 2026. Those who plan to take course, please contact Dr. Jing Liu by jing.liu.e8@tohoku.ac.jp by April 3, 2026. 3. In principle, this course will be conducted in person. Special arrangement can be provided based on request/consultation with Dr. Jing Liu in advance. 4. Email of the instructor in charge: jing.liu.e8@tohoku.ac.jp				
オフィスアワー	4. Office hour: Wednesday 16:30-17:30, appointment is required.				
更新日付	2026/02/26				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM230050				
科目名	グローバル教育論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	前期(火曜5限)、後期(火曜2限)				
開講学期	通年				
担当教員	NAKASATO LAUREN NOELANI				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU557J				
使用言語	英語				
メディア授業科目	×				
授業題目	グローバル・シティズンシップとアジアにおける高等教育の国際化				
授業の目的と概要	<p>本授業を通して、グローバル・シティズンシップとアジアにおける高等教育の国際化を考察することで、グローバル教育の理論と実践に関する基礎教育理解を養う。</p> <p>グローバル・シティズンシップは過去30年間、教育分野で学術的・実践的な議論の焦点となってきた。ポピュリスト的新ナショナリズムや権威主義の潮流が広がる中、国境を越えるグローバル課題が持続しているにもかかわらず、グローバル・シティズンシップ教育の存在自体はますます懸念されている。自由主義的な国際秩序の急速な崩壊に伴い、教育分野では新たな課題と機会が生じている。高等教育の国際化もその一環であり、その目的と実践は議論されている。一方、これまで主要な国際化推進国としてあった国の存在感が徐々に薄めてきていくと共に、アジア諸国が高等教育の国際化の形成において主導的役割を強化している。本授業は、グローバル・シティズンシップ、高等教育の国際化、そしてアジアの相互関係と多層的な意味合いを考察する機会を提供する。</p> <p>本授業は通年であり、教育学研究科の修士課程1年生を対象としている。研究プロジェクトと海外フィールドワークを中心に構成されている。</p>				
学修の到達目標	<p>本授業では、次の目的を到達する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グローバル・シティズンシップとアジアにおける高等教育の国際化の実践的・学術的な状況を把握して理解する 2) 1) について自ら研究課題を発見する 3) 研究問題を踏まえて、研究を計画・実施する 4) 研究成果を完結で論理的に伝える 				
授業内容・方法と進度予定	<p>前期 第1回 オリエンテーション 第2回～第5回 グローバル・シティズンシップ教育の理論、アジア各国の事例研究 第6回～第9回 文献購読・レビュー 第10回～第15回 研究計画書作成、発表</p> <p>後期 第16回～第25回 韓国にてフィールドワーク 第26回～第30回 データ分析・まとめ、研究レポート・発表の準備</p> <p>※スケジュールは案です。変更がある場合があります。</p>				
成績評価方法	<p>20% 授業中の態度と積極性 50% 研究レポート・発表 20% 研究日記</p>				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<p>学外での調査を実施するため、授業時間外の活動への参加も求められる。</p> <p>海外フィールドワークを予定している。海外フィールドワークに参加できないと単位認定できない場合もあるのでご注意ください。 ※JASSOの奨学金、その他の援助制度をお使いできる。</p>				
実務・実践的授業	×				

その他	Google classroom code: arjqr17m 2026年6月23日は休講になる。補講日はご相談の上決定する。
オフィスアワー	本授業は英語で行われる。必要に応じて日本語を使えます。 必要に応じて対応する。
更新日付	2026/03/01

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM240010				
科目名	教育アセスメント概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜2限				
開講学期	2学期				
担当教員	西塚 孝平				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA530J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	実践の側立つ教育アセスメントの諸相				
授業の目的と概要	<p>教育アセスメント (assessment) は、英米において1980年代から教育評価 (evaluation) に代わって使われるようになった「緩い概念」であり、測定 (measurement) と評価 (evaluation) と密接な関係を持ち、しかしそれら以上のものと理解されている学際融合領域である。評価からアセスメントにシフトした背景の1つに、構成主義、社会構成主義、社会文化理論といった、評価を「決められた手続きに従って処理実行される機械的・技術的操作」ではなく「人間の手によって創り出される社会文化的実践」として理解することを可能にする認識論や学習観がある。本授業では、教育アセスメント論 (実践の側立つ評価論) に関する内外の研究成果と動向を批判的にレビューし、社会的なパースペクティブからこの「緩い概念」の輪郭を描写することをめざす。</p>				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認識とコミュニティの観点から教育アセスメントの国際的議論を理解し、各議論の論点に対して批判的な視点を持つことができる。 ・ 教育アセスメントへの学際的なまなざしを用いて、自身の研究テーマや関心のある問いを深めることができる。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1講 オリエンテーション 第2講 教育評価/測定から教育アセスメントへの展開 第3-4講 教育アセスメントの主要機能 第5-6講 教育アセスメントにおける事実と価値の意味 第7-8講 アセスメントの信念と社会文化性をめぐる問題：国際比較調査 (PISA) を事例に 第9-10講 教育アセスメントを協働構成する意義、方法、問題点：ルーブリックを事例に 第11-12講 教育アセスメントにおける矛盾へのアプローチ：分析と対処法の検討 第13-14講 教師の教育アセスメント力を促す方路：専門性発達プログラムと授業研究 (lesson study) 第15講 期末レポートの中間発表/授業のまとめ</p> <p>※内容と進度については受講者の関心等に応じて若干変更する場合もある</p>				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復習課題 60% ・ 期末レポート 40% 				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
教科書や参考書の購入は不要。授業で用いる各種資料はGoogle Classroomに共有する。					
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末レポートは最終回の中間発表で教員・受講生からのフィードバックを受けて修正したものを提出する。 ・ 復習課題として毎回の振り返りをおこない、次の授業時間の冒頭で簡単に全体共有する。提出期限は授業3日後の23:59である。 				
実務・実践的授業	×				
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ Google Classroomのクラスコード：by6f2hz2 ・ 対面授業 (教室での授業) を基本とするが、状況に応じてオンライン授業を一部おこなう可能性がある。 				

オフィスアワー	E-mail : n.k@tohoku.ac.jp (◎を@に置き換えてください) ※オフィスアワーを設定していないため、質問や相談は上記メールアドレスでいつでもお受けします。
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM240020				
科目名	教育測定学概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜2限				
開講学期	1学期				
担当教員	熊谷 龍一				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA531J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育測定学概論				
授業の目的と概要	教育測定学に必要なとなる数学および統計学の知識およびその活用方法について学ぶ。				
学修の到達目標	この授業では、次の2点を目指します。 1. 教育測定学で必須となる様々な事項について、その数学的な意味を理解できる。 2. 初等統計学で扱われる内容について、数学的な意味まで理解することができる。				
授業内容・方法と進度予定	初回のオリエンテーションの後、以下の各講を2から3回の授業に分けて扱う。 第1講 初等統計学の基礎 第2講 確率・統計計算に必要な数学的知識 第3講 確率計算と確率変数 第4講 確率分布 第5講 標本分布 第6講 仮説検定				
成績評価方法	演習問題とショートレポートの提出。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	予習・復習に関する指示は講義内で伝える。				
実務・実践的授業	×				
その他	クラスコード：zitefozq 授業の実施方法：対面 関連資料の入手方法：Classroomに資料をアップロード				
オフィスアワー	月曜日、13:00-14:30				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM240030				
科目名	教育情報学基礎論概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜2限				
開講学期	1学期				
担当教員	渡部 信一				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA510J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育情報学基礎				
授業の目的と概要	教育情報学とは超高度情報化社会、知的基盤社会における教育について、基礎及び応用として実践と言う領域を内包した、融合的・学際的・先端的な学問領域である。基礎論概論では、教育情報学について、教育、心理学、認知科学、コミュニケーション論、情報科学、テクノロジーなどの視点から概観することで教育情報学という学問の融合性・学際性・先端性を理解するとともに、教育情報学の基礎的な知識を学習する。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育情報学の融合性・学際性・先端性について理解する ・教育情報学の基礎となっている心理学、認知科学、コミュニケーション論、情報科学、テクノロジーについて基本的な知識を学習する。 				
授業内容・方法と進度予定	第1回：オリエンテーション 第2回：AI時代「教師」考(1) 第3回：AI時代「教師」考(2) 第4回：時代の大きな潮流の中の「教育」(1) 第5回：時代の大きな潮流の中の「教育」(2) 第6回：「オンライン教育」と「教師」の役割(1) 第7回：「オンライン教育」と「教師」の役割(2) 第8回：「AI教師」の誕生(1) 第9回：「AI教師」の誕生(2) 第10回：「教え方が上手い教師」伝説(1) 第11回：「教え方が上手い教師」伝説(2) 第12回：教師を超える学習者(1) 第13回：教師を超える学習者(2) 第14回：AI時代に生き残る教師、5つの戦略(1) 第15回：AI時代に生き残る教師、5つの戦略(2)				
成績評価方法	数回のレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	ミニットペーパーに解答するために講義での復習や資料等を調べる時間が必要です。またレポート課題に答えるためにも文献等を調べる必要があります。				
実務・実践的授業	×				
その他	受講生の興味関心により講義内容を若干変更する可能性があります。 GoogleClassroom クラスコード：esjywn45				

オフィスアワー	非常勤のためメールで連絡をしてください。
更新日付	2026/03/05

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

その他	授業は基本的に対面形式で実施するが、社会人学生で対面授業への参加ができない場合は、収録動画での受講を認めるので、都度（毎回の）担当教員にメールでその旨を連絡すること。
オフィスアワー	各教員のオフィスアワーを参照されたい。
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM240050				
科目名	教育情報学応用論概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜2限				
開講学期	2学期				
担当教員	倉元 直樹、宮本 友弘				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA512J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	大学入試学入門				
授業の目的と概要	<p>青年期にあたる高校生の心身の発達状況を所与の前提として、「高大接続」という概念を中心に大学進学の実像について「学ぶ側」と「教える側」の双方の視点から迫る。前半では現在の我が国の大学入試の実情について、学際的な学術研究や各種の教育関連データを基に国際的な軸と歴史的な軸から俯瞰的に把握する視点を学ぶ。後半では高校の進路指導や大学入試の実施について、社会的、制度的な観点でアプローチするとともに、事例から具体的に学ぶ。最後に受講者自身の経験を交換し、受験生、学生にとって望ましい大学入試制度の条件を考える。</p> <p>なお、対面での実施を予定している。Google Classroomを補助的に利用する可能性がある。</p>				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが経験してきた大学入試について教員・大学の側から見る視点の転換を行う。 ・教育の一環として、選抜制度をどのように位置づけるか、多層的に考える視座を獲得する。 ・高校と大学の接続関係を題材にして歴史的・国際的視点からの広い視野を養う。 ・将来、教員や保護者の立場で入学者選抜に関わる際に重要な考え方について学ぶ。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション—高大接続：大学入試に対する受験者以外の視点—</p> <p>第2回：大学入試の現場1：実施側から見た共通試験、個別試験の実情（担当：宮本友弘）</p> <p>第3回：大学入試の現場2：高校における進路指導の考え方（担当：宮本友弘）</p> <p>第4回：大学入試の現場3：受験勉強に対する批判と受験指導の教育的意義（担当：宮本友弘）</p> <p>第5回：世界の大学入試1：世界の大学と学校教育、入学者選抜制度（担当：倉元直樹）</p> <p>第6回：世界の大学入試2：北米の大学入学者選抜（担当：倉元直樹）</p> <p>第7回：世界の大学入試3：ヨーロッパの大学入学者選抜（担当：倉元直樹）</p> <p>第8回：世界の大学入試4：東アジアの大学入学者選抜他（担当：倉元直樹）</p> <p>第9回：大学入試の歴史1：戦前の旧制高校入試制度（担当：倉元直樹）</p> <p>第10回：大学入試の歴史2：戦後の大学入試制度（担当：倉元直樹）</p> <p>第11回：大学入試の歴史3：現在の教育改革と大学入試（担当：倉元直樹）</p> <p>第12回：大学入試の諸相1：進路指導と進学動向の地域における多様性（担当：宮本友弘）</p> <p>第13回：大学入試の諸相2：進路指導と進学動向の設置者、学校種による多様性（担当：宮本友弘）</p> <p>第14回：大学入試の諸相3：大学の学生獲得戦略と教育産業（担当：宮本友弘）</p> <p>第15回：まとめ（討論）：望ましい大学入試制度—体験の共有と相対化—（担当：全員）</p>				
成績評価方法	出席状況（ミニットペーパーと授業内の発言）とレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	毎回の講義内容の予習・復習、課題提出				
実務・実践的授業	×				
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲスト講師を招く予定あり。初回の講義で授業運営方針について説明する。 ・授業形態および授業内容・方法は変更の可能性がある。 				

オフィスアワー	授業時間内に説明する。
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM250010				
科目名	教育心理学概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	工藤 与志文				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY510J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	日本における教育心理学研究の動向				
授業の目的と概要	本授業では、わが国における教育心理学研究の各部門の研究動向について、主に日本語で公開された展望論文を用いながら検討する。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学研究の研究動向について学ぶ。 ・各自の研究テーマと研究動向との関連について学ぶ 				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回：展望論文とは 第2回～第7回：「教育心理学年報」掲載の論文の報告・討議 第8回～第14回：「児童心理学の進歩」「心理学評論」掲載の論文の報告・討議 第15回：まとめ</p>				
成績評価方法	発表および授業への参加・貢献(70%)、期末レポート(30%)により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・発表予定の展望論文を読む。 ・簡潔に発表できるよう、レジュメ作成と発表準備を行う。 				
実務・実践的授業	×				
その他	連絡先：yoshifumi.kudo.d6@tohoku.ac.jp (Googleクラスルーム対応) クラスコード：y6csdwnm				
オフィスアワー	毎週月曜4講時				
更新日付	2026/02/24				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM250020				
科目名	発達心理学概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜5限				
開講学期	1学期				
担当教員	長谷川 真里				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY511J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	発達科学の展開				
授業の目的と概要	社会性の発達についての文献を読み、最新の文献を批判的にレビューすることを通して、研究の動向を知る。				
学修の到達目標	社会性の発達の基礎的な理論、および最新の研究動向を理解する。この領域の発達研究の手法を身につける。注)対象年齢は、主に乳幼児期、児童期、青年期である。				
授業内容・方法と進度予定	<p>毎回、報告担当者がレジメを作成し、発表する。 スケジュールは以下を予定する。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回-4回 発表準備(各自の作業) 第5回-13回 報告者による発表と討論 第14回-15回 まとめ</p> <p>注)受講者数によってスケジュールは変更する。</p>				
成績評価方法	出席状況や課題レポートを総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	あらかじめ資料を読み、議論の準備をする。				
実務・実践的授業	×				
その他	<p>授業の運営については、初回に説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法：対面。欠席者に対するハイブリッド授業対応は行わない。 ・関連資料の入手方法：授業用の資料はClassroomで共有。受講者は必ず登録してください 				
オフィスアワー	火曜日3限				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM250030				
科目名	発達障害学概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
開講学期	1学期				
担当教員	横田 晋務、野口 和人				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY530J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	発達障害学概論				
授業の目的と概要	発達障害の現状を様々な角度から理解する。 発達障害に関わる教育および保育・医療・療育の現状について、観察・見学・参加を通じて理解を深める。				
学修の到達目標	発達障害や発達障害を引き起こす疾患、気になる子どもの実態等について理解を深める				
授業内容・方法と進捗予定	<p>第1回授業の開始時期：4/15を予定しています。(受講生の皆さんの履修計画がある程度確定した後に授業を開始することとしたため、授業開始日を少し遅らせます。)</p> <p>この授業は実践の場への参画を通じた学習を狙いとするため、発達障害を支援する現場への参加・観察を中心に構成されます。そのため、講義は見学先等の都合により所定の時間外に行われることがあります。 【その他】 1) 初回授業時に講義概要と今後の予定について説明する。 2) 学習成果の発表も成績評価の対象となる。</p>				
成績評価方法	授業(観察含む)への参加(70%)、レポート(30%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	授業の中で指示します。				
実務・実践的授業	×				
その他	発達障害や「気になる子ども」、障害や医療に関する研究テーマに興味関心の高い人が望ましい				
オフィスアワー	事前に E-mail 等で連絡すること。				
更新日付	2026/02/09				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM260010				
科目名	臨床心理学概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	榊原 佐和子				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY550J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	臨床心理学に基づく思春期・青年期の人への多様な支援				
授業の目的と概要	臨床心理学は、心の傷や躓きの体験をもつ人を支援する実践的な学問であるという一面を持っている。本授業では、心の傷や躓きの体験をかかえた主に思春期・青年期の人への多様な支援方法に関する実践的な知識について、テーマを選んで事例論文を読み込み、ディスカッションを通して学ぶ。				
学修の到達目標	臨床心理学に基づく支援の考え方、思春期・青年期の人への支援方法と支援内容について理解を深める。				
授業内容・方法と進度予定	<p>1 オリエンテーション (2回目以降：事例論文を選んでそのテーマにおける支援方法と支援内容についての発表と討議)</p> <p>学生が選ぶ論文にもよるが、以下のようなテーマを含む論文となる予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ、ハラスメント ・ ASD、ADHD ・ 不登校・ひきこもり ・ 神経症性障害 ・ 気分障害 ・ 統合失調症 ・ 自殺、他職種との連携・協働 				
成績評価方法	ディスカッションへの参加度(20%)、発表(30%)、期末レポート(50%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	授業に関連する論文を読むようにしてください。				
実務・実践的授業	○(企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う)				
その他	臨床心理学コースの学生だけではなく、臨床心理学コース以外の学生も受講可能である。				
オフィスアワー	教員あてメールにて確認すること。 sawako.sakakibara.a4@tohoku.ac.jp				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM310020				
科目名	人間形成論特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	李 仁子				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU515J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	地域社会と祭り				
授業の目的と概要	東日本大震災の被災地では、地域の祭礼を支えるコミュニティが大きな傷手を被り、多くの祭りが一時的に開催不能に追い込まれた。しかし、復興の精神的象徴として祭りの復活を求める声は日増しに大きくなり、規模や形式は従前とは異なるものの多くの地域で祭りが再び行われるようになってきた。そこで、この授業では、被災地で復活した地域密着型の祭りを主たる対象にして、従来の祭り研究の蓄積を参照しつつ、地域社会と祭りについて再考していきたい。同時に、さまざまな地域の伝統的な祭りから都市部の現代的な祭礼まで、多様な祭りを比較軸に据え、祭りをめぐる諸問題についても考察を深めていく。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 祭りという文化的事象を通して地域社会や伝統文化に対する理解を深める。 ・ 被災地のコミュニティや個人にとって祭りとはどのようなものかを考えることで、被災地やその復興プロセスに関して複眼的な視点を獲得。 ・ 現代の多様な祭りを横断的に比較することにより、異質なものや他者に対する文化人類学的なとらえ方を身につける。 				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) 祭りに関する民俗学的研究 3) 祭りに関する宗教学的研究 4) 祭りに関する文化人類学的研究 5) 祭りの諸相①(都市と地方) 6) 祭りの諸相②(伝統と革新) 7) 祭りの諸相③(平時と非常時) 8) 大規模な祭りを支えるコミュニティとネットワーク 9) 地域密着型の祭りを支えるコミュニティとネットワーク 10) 祭りの継承と伝授 11) 村おこしとしての祭り 12) 被災地の復興とコミュニティ 13) 被災地のコミュニティと祭り 14) 被災者にとっての祭り 15) 地域社会と祭り再考 				
成績評価方法	授業での発表やディスカッション(50%)、レポート(50%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	フィールドワークを行う場合がある。				
実務・実践的授業	×				
その他	【対面とオンデマンド型オンライン授業の混合形態】				

オフィスアワー	火曜日 3
更新日付	2026/02/25

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM310030				
科目名	人間形成史特論Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜2限				
開講学期	1学期				
担当教員	石井山 竜平、その他教員				
担当教員(所属)	白岩伸也				
科目ナンバリング	PES-EDU516J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	近現代日本と人間形成の発展的知見				
授業の目的と概要	近現代日本と人間形成に関する発展的文献を講読し、教育の歴史的成立・展開について、多面的に学び、考える。				
学修の到達目標	近現代日本と人間形成の内容・視点に関する専門的知見を得る。				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 「日本教育史」「西洋教育史」という知 2 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 3 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 4 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 5 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 6 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 7 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 8 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 9 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 10 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 11 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 12 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 13 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 14 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 15 教育と歴史に関する実地見学 				
成績評価方法	発表担当回の配布資料と報告内容、授業への参加態度から総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	テキストの精読、関連文献・資料の調査・検討、配布資料の作成を事前に行うこと。				
実務・実践的授業	×				
その他					

オフィスアワー	
更新日付	2026/03/12

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM310060				
科目名	スポーツ文化論特論 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	甲斐 健人				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU519J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	部活動の地域移行				
授業の目的と概要	部活動の地域移行が進められる中で、部活動研究の到達点を確認し、地域社会の受け皿となるスポーツクラブについて考える				
学修の到達目標	部活動研究の到達点を確認し、地域社会の受け皿となるスポーツクラブについて考える際の論点を整理するとともに、地域スポーツクラブの事例について理解を深める				
授業内容・方法と進度予定	1. 部活動研究のレビュー 2. 地域スポーツクラブの事例検討				
成績評価方法	中間レポート及び期末レポートによる				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	関連文献の精読を求める				
実務・実践的授業	×				
その他	Google クラスルーム クラスコード: vvu54vmw				
オフィスアワー	月曜 12:10 - 12:50				
更新日付	2026/03/11				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM310070				
科目名	スポーツ文化論特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜4限				
開講学期	1学期				
担当教員	齋谷 洋輔				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU520J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	からだで学ぶということ				
授業の目的と概要	「からだで学ぶ」とはどのようなことか。いかなる学びも、からだを除いては成立しない。ゆえに、「からだで学ぶ」ということの意匠を考えるには、からだとは何か、学びとは何かというように重層的に入り組んだ問いにあらためて向き合うことが求められる。これを踏まえながら、本授業では「からだで学ぶ」ということを検証すること、実践することの二つの軸を縫い合わせながら進めていく。				
学修の到達目標	「からだで学ぶ」ということの理解を深める				
授業内容・方法と進度予定	<p>授業は以下のようなテーマに沿って進められる。トピックごとの発表者を決め、レポートの発表とディスカッションを行う。</p> <p>1-3 身体知 4-6 エンボディメント 7-9 フィールドワーク 10-12 観察 13-15 アートと学術</p>				
成績評価方法	中間レポート(40%)、期末レポート(60%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	文献の精読とディスカッション、発表準備に加え、フィールドでの実践を各自が同時進行で進めることが求められる。				
実務・実践的授業	×				
その他					
オフィスアワー	Eメールにて調整 (yosuke.washiya.a8@tohoku.ac.jp)				
更新日付	2026/03/04				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM320010				
科目名	教育社会学特論 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	福田 亘孝				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU531J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	社会理論の基礎と応用				
授業の目的と概要	現代社会学の理論を理解し、実証分析に応用できるようになる				
学修の到達目標	(1) 社会学研究で用いられる社会理論の基礎を理解する (2) 社会理論の知識を用いて、社会現象の分析が可能になる				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction: What is sociological theory? 2 The Origins of Social Theory 3 Evolutionism and Functionalism 4 Radical Anti-capitalism 5 Social Action and Social Complexity 6 Political Social Theories 7 Economic Social Theories 8 Social Theory and Gender 9 Society, Self, and Mind 10 Systems, Structuration, and Modernity 11 Critical Theory 12 World System Theories 13 Symbolic Interactionism 14 Rational Choice and Exchange 15 Knowledge, Truth, and Power 				
成績評価方法	授業への参加度 (20%)、発表・レポート (40%)、課題 (40%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Contemporary Sociological Theory: Continuing the Classical Tradition (4th ed)	Wallace, R. A. & Wolf, A.	Prentice-Hall	1995		
Sociological Theory	Ritzer, G.	McGraw-Hill	2011		
Contemporary Social & Sociological Theory	Allan, K.	Sage	2013		
授業時間外学修	★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする ★必要に応じてReading AssignmentとWriting Assignmentを課す				
実務・実践的授業	○(企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う)				

その他	<p>★Assignmentは必ずやり遂げてから授業に出席すること ★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる ★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります ★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります ★本授業科目は東北大学学際高等研究教育院の授業も兼ねる。</p> <p>(1) 授業の実施方法： オンラインを積極的に活用して授業を行う (詳細は第1回目の授業で説明する) (2) 関連資料の入手方法： 関連資料の入手方法はgoogle classroomにおいて指示する。 google classroom コード：zjyfkua</p>
オフィスアワー	<p>※オフィス・アワー 木曜日 14:50-15:20 事前予約が必要</p>
更新日付	2026/02/13

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM320020				
科目名	教育社会学特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜4限				
開講学期	1学期				
担当教員	島 一則				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU532J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育経済学の潮流				
授業の目的と概要	本特論では、①教育経済学の学問的性格、②その理論と方法の特質、③教育経済学の各研究領域における研究の展開と現状に理解し、実際のデータ・方法論を踏まえたうえで、教育がどのような経済的效果を有しているのか、教育の意義について考究する（以下のレビュー論文を前提として、領域のキーとなる近年の論文に合わせて取り組む）。				
学修の到達目標	受講学生は、専門的知識・技能という観点からは、教育経済学という学問の特徴と研究の現状を英文文献の読解に基づき理解し、経済学の視点から教育に関わる研究課題を設定、データ・方法論の選択などを行える力量を身に付ける。また、汎用的技能、態度志向性という観点からは、コミュニケーションスキル・数量的スキル・論理的思考力・自己管理能力・批判的思考力、生涯学習力を向上させる。				
授業内容・方法と進度予定	1・2回：Theoretical Concepts in the Economics of Education 3・4回：Empirical Research Methods in the Economics of Education 5・6回：Data in the Economics of Education 7・8回：Human Capital 9・10回：Signaling in the Labor Market 11・12回：Returns to Education in Developed Countries 13・14回：School Quality and Earnings 15回：Education and Economic Growth				
成績評価方法	授業内容についての理解とコミットメント(50%)・最終レポート(50%)による。ただし、出席状況によっては単位取得不可となる。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Economics of Education	D. J. Brewer and P. J. McEwan (eds.)	Elsevier	2010		教科書
大学とマネー 経済と財政(リーディングス日本の高等教育 第8巻)	島一則編	玉川大学出版	2011		参考
授業時間外学修	予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。				
実務・実践的授業	×				
その他	授業中の発言など積極的な関与を求める。				
オフィスアワー	クラスコード：6vkf6ksn 木曜日：12:00-13:00				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業時間外学修	指定したテキスト等の該当箇所を読み予習しておくこと。これは全受講生にとって極めて重要なことである。 リアクションペーパーを投稿すること。締め切りは授業の前日曜日23:59である。 復習を必ず行うようにすること。 大学院設置基準（第15条）、大学設置基準（第21条）の規定に基づいた自己学習（予習復習等）を行うことを強く推奨する（1回あたり4時間程度が標準）。 Students are required to study at home for about four hours per class according to government guidelines.
実務・実践的授業	×
その他	受講要件：「教育行政学講義Ⅰ」「教育政策科学演習Ⅱ」の単位取得者かそれに相当する学習歴・社会人経験をもつ者。 ※これに該当しない受講希望者は事前に担当教員と相談すること。 教育政策科学コース博士課程前期及び他コース学生の「自由聴講」は認めない。 担当教員ホームページ： https://researchmap.jp/read0124718/
オフィスアワー	事前にメールでアポイントをとってください。
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM320090				
科目名	比較教育学特論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜2限				
開講学期	1学期				
担当教員	井本 佳宏				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU538J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	現代ドイツにおける教育の論点				
授業の目的と概要	ドイツの教育制度は日本の教育制度と比較して、分岐型の中等学校制度や充実した職業教育制度など、対照的な特徴を示している。本授業では、ドイツの教育雑誌 PädagogikのStand PunktおよびKontroversの両コーナー掲載の諸論稿をもとに、現代ドイツにおいて教育上の論点となっている事項について日独比較の視点から考察を加えることで、日本の教育を広い視野から考察する力の育成を目指す。				
学修の到達目標	1. 現代ドイツにおける教育上の諸論点について把握する。 2. ドイツにおける教育事情を日独比較の視点から考察することを通じて、海外の教育情報を普遍的な教育理解のための資源として活用するスキルを身につける。 3. 授業への参加を通じて独文読解力、討議能力および論証力を獲得する。				
授業内容・方法と進度予定	第1回 オリエンテーション 第2回 Soll das Referendariat abgeschafft werden? 第3回 Leistungsverfall durch »Schreiben nach Gehör«? 第4回 Unangekündigte Leistungsnachweise abschaffen 第5回 Rückkehr zu G9 – was den (Bildungs-)Bürgern gefällt 第6回 Inklusive schulische Bildung stärken 第7回 第2回から第6回までのまとめと討議 第8回 Prüfungsfrei lernen 第9回 Schwerpunktschulen für Inklusion? 第10回 Toilettenkräfte an Schulen 第11回 Sprachförderung statt Herkunftsquote 第12回 Deutschland auf dem Weg zur Zweigliedrigkeit? 第13回 Mathe als Pflichtfach im Abitur 第14回 第8回から第13回までのまとめと討議 第15回 全体のまとめと補足				
成績評価方法	1. 授業内での報告および議論への貢献 (40%) 2. 期末レポート (60%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Pädagogik		Beltz			
授業時間外学修	・ 検討対象の文献については授業までに必ず読んでおくこと。				
実務・実践的授業	×				

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に関する諸連絡、資料の配付、課題等の提示や提出にはGoogle Classroomを利用する。クラスコードは「ty6s6jhh」です。第1回授業よりも前に各自で生徒登録しておくこと。 ・ 毎回、雑誌見開き2ページ程度のドイツ語の記事を読むため、受講前に初歩的な独文読解力を身につけておくことが望ましい。ただし、このことはドイツ語初学者の受講を排除するものではない。 ・ 授業は基本的に対面で行う。
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・ オフィスアワー 火曜日 13:00～15:00
更新日付	2026/02/25

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM330030				
科目名	多文化教育論特論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜2限				
開講学期	2学期				
担当教員	高松 美能				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU555J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	多文化共生と人権教育 Multicultural Education and Human Rights Education				
授業の目的と概要	<p>本コースは、多文化共生と人権をテーマに学ぶ中で、グローバルシティズンシップに必要な知識、技能、態度、行動力とは何かをクラス内で議論し、社会に参加し、積極的に意見を述べる市民となっていく素養を身に着けることを目的としている。そのため、クラス内に「多文化理解」と「人権」を柱に据えた文化を築き、参加者一人ひとりがクラスに積極的に参加・貢献することが期待されている。</p> <p>本コースの中ではビデオ教材などを取り入れ、グローバル社会の中で、身近な多文化共生に関する課題や人権問題を他人事ではなく、自分と関わりのある問題と捉え、いかに課題を解決していくのかを具体的に考え、提案してもらう。コースを通じて学んだ知識を基に、最後のプレゼンテーションを通じて、グローバル社会の中で起きているさまざまな課題・問題に対する解決策を提案する。</p>				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化共生・人権の知識の深化 2. 多文化共生・人権課題に対して自分なりの意見を持つこと、当事者意識を持つこと 3. 多文化共生・人権課題に対して行動を起こすこと 				
授業内容・方法と進度予定	<p>1回目の授業：イントロダクション「多文化共生と人権教育とは何か」</p> <p>2-6回目の授業 総論「多文化共生、人権の歴史、世界人権宣言」など 各論：個別具体的な人権問題「部落問題、アイヌ民族の問題、戦争と平和、東日本大震災、ジェンダーLGBT」など</p> <p>7-10回目の授業： 総論「多文化共生を身近な視点で捉え課題を洗い出す」 各論：外国人留学生、外国人住民、技能実習生問題、国際共修を通した多文化共生</p> <p>11-14回目の授業：グループでの発表準備&発表「授業で学んだ内容に対して、グループ、または個人で身近に感じた（重要だと思う）問題を取り上げ、自分たちができる解決策を考え、アクション・プランを立てて実行可能性を評価し、発表すること」</p> <p>15回目の授業：レポートの提出</p>				
成績評価方法	ディスカッション30%、発表40%、レポート30%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	事前課題の準備、授業での発表準備等の授業外の学習時間を要する。				
実務・実践的授業	×				
その他	初回の授業はクラスルーム内のMeetで行います。 クラスコード：jndcs3yz				

オフィスアワー	水曜日 10:00-13:00、木曜日 10:00-16:00
更新日付	2026/03/11

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM330050
科目名	国際教育論Ⅱ
単位数	2.0単位
曜日・講時	集中講義
開講学期	2学期
担当教員	その他教員、劉 靖
担当教員(所属)	Kevin Kester (非常勤講師)
科目ナンバリング	PES-EDU558E
使用言語	英語
メディア授業科目	×
授業題目	International Education Development Seminar: Comparative Education, Conflict and Peace
授業の目的と概要	The global community has set as a goal to get all children into schools by 2030, and to provide them quality education, yet war and violent conflict around the world remains the greatest barrier to achieving this goal. This course will examine the policies and practices that local, national and international agencies adopt to resolve conflict and build peace in and through education. The course will examine the following questions: How does conflict affect education? How does education affect conflict? What role do international educational actors play in mitigating or perpetuating conflict in diverse contexts? And what theories, methods, and pedagogies could support the transformation from conflict to peace in society via education? The course will explore the diversity of interpretations of education in emergencies and education for peacebuilding in different forms across the globe. An in-depth case study from Afghanistan will be examined, with additional cases from Ukraine, Somaliland, and Palestine.
学修の到達目標	In this course, students will: <ul style="list-style-type: none"> ・Examine the impact of conflict on education in diverse contexts; ・Study the impact of education on conflict and peacebuilding; ・Compare education, conflict and peacebuilding in different regions, cultures, and communities; ・Assess the contributions of this literature to the comparative educational field, as well as the comparative education literature to international understandings of issues of peace and conflict.
授業内容・方法と進度予定	This course involves student-directed learning and lecturer-student supervisions. Students are expected to complete readings outside of class and to questions to class for discussion. Each class will be facilitated as follows: a 30-minute group discussion on the assigned course reading(s) at the class followed by a whole-class discussion and Q&A for the remainder of the period. Students will also complete individual reflections on readings. The focus is on greater teacher-student and student-student interaction to enhance students' knowledge and skills in comparative education, conflict studies. Course Schedule Session 1□ Focus: Introduction to Course: Key Concepts□ Class activities and details, daily goals: Introductions, review course syllabus; teambuilding; introductory lecture and ideas Required reading: Ramsbotham et al. (2024), Contemporary Conflict Resolution Chapter 1 Hantzopoulos et al. (2021), Situating Peace Education Theories, Scholarship and Practice in Comparative and International Education Session2□ Focus: Peace and Conflict: Contemporary Trends □ Required reading: Ramsbotham et al. (2024), Contemporary Conflict Resolution, Chapters 2-3 Session 3 Education in Conflict-Affected Contexts□ Required reading: Bush, K., & Saltarelli, D. (2000). The Two Faces of Education in Ethnic Conflict Kirk, J. (2007). Education and Fragile States Lopes Cardozo, M., & Novelli, M. (2018), Education in Emergencies: Tracing the Emergence of a Field Kester, K. et al. (2022), Higher Education Peacebuilding in Conflict-Affected Societies: Beyond the Good/Bad Binary Session 4 Peace Education: Theory and Practice□ Required reading: Harris, I. (2004), Peace Education Theory Bickmore, K. (2011), Keeping, Making, and Building Peace in School Higgins, S., & Novelli, M. (2020), Rethinking Peace Education: A Cultural Political Economy Approach Session 5 (Post)Critical Peace Education□ Required reading: Bajaj, M., & Brantmeier, E. (2011), The Politics, Praxis, and Possibilities of Critical Peace Education Freire, P. (1970), Pedagogy of the Oppressed, Chapter 2 Kester, K. (2023), Global Citizenship Education and Peace Education: Toward a Postcritical Praxis Session 6 Afghanistan Case□ Required reading: Burde book (2014), Chapter 1 Session 7 Afghanistan Case□ Required reading: Burde book (2014), Chapter 2 Session 8 Afghanistan Case□ Required reading: Burde book (2014), Chapter 3 Session 9 Afghanistan Case□ Required reading: Burde book (2014), Chapter 4 Session 10 Afghanistan Case□ Required reading: Burde book (2014), Chapter 5 Session 11 Afghanistan Case□ Required reading: Burde book (2014), Chapter 6 Session 12 Ukraine Case□ Required reading: Anatoly Oleksiyenko & Serhiy Terepyshchyi (2023), "Hope Against All Odds": Academic Precarity in Embattled Ukraine Lavrysh, Y. et al. (2026), Education as Emotional Support: Coping, Connection, and Resilience Among Ukrainian Students in Wartime Session 13 Somaliland Case □ Required reading: Education, Peace and Development in Somali Society. https://discovery.ucl.ac.uk/id/eprint/10081489/ Kester, K. et al. (2026), Healing the Scars of War: Teaching for Peace through Higher Education in Divided and Conflict Affected Contexts (with video) https://www.youtube.com/watch?v=5GmbF03-koo Kester, K. (2025), Peace Education as a Form of Global Citizenship Education in Universities in Divided Settings: Challenges and Prospects

	<p>Session 14 Palestine Case □ Required reading: Jehril, M. (2023). Between Construction and Destruction: The Experience of Educationalists at Gaza' s Universities Hajir, B., & Qato, M. (2025). Academia in a Time of Genocide: Scholasticidal Tendencies and Continuities</p> <p>Session 15 Concluding□ Required reading: Kester, K., & Misiaszek, G. (2024). Four Questions for Teaching Conflict for Peace, Justice, and Sustainability: Higher Education Roles and Respons Final Reflections</p> <p>The instructor reserves the right to modify this schedule based on new information, extenuating circumstances, or student performance. Students will be given to grades and participation.</p>																																																																		
成績評価方法	<p>Course Requirements & Grading Students are expected to attend and actively participate in all class meetings and complete all readings and assignments carefully and thoughtfully</p> <p>Component Weight Attendance/Active Participation in Class 10%</p> <p>Response Papers (10 x 6 pts each) 60% Case Study Presentation 30%</p> <p>The professor will introduce the expected assignments and due dates for the course the first week. In consultation with students the final assessment may change. This will be decided in a participatory democratic way.</p> <p>Evaluations In this course, there will be two key evaluations: attendance/participation and written reflections:</p> <p>Attendance (10%) - Class attendance and participation is an expected component of university study. Participation in class and preparation for sessions further reflected in the essays and chapter presentations. As such, 10% of the course grade has been allotted to attendance, participation and supervision. Students will find the supervisions particularly helpful in assisting them to better understand and apply the concepts discussed during lectures and activities.</p> <p>Response Papers (60%; individual) - Participation in class and preparation for sessions will be reflected in the class discussions and preparation papers. As such, 60% of the course grade has been allotted to response papers (60: 10 x 6 pts each: Sessions 2-10 and 15). In preparation for class sessions, students will read and summarize the selected chapter(s) for reading for each session. Students will complete 10 response papers during the term. The response papers will be given to the instructor as a word doc at the beginning of each session. Late assignments will not be accepted. The length of the paper should be no more than 1000 words, but strictly no more. In the response paper, students must include:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Description of the central argument developed in the chapter(s) (2 pts); 2. Explanation of how the argument relates to or differs from the argument presented in previous readings (2 pts); 3. The student' s response to the argument (2 pts) <p>The paper will be assessed on the following criteria:</p> <ul style="list-style-type: none"> · Grasp of the central argument · Understanding of how readings relate to each other · Originality of the response · Writing effectiveness (clarity, logic and coherence) <p>When submitting the paper, make sure to include the following info in the word file: Student' s full name, GECP 2027, Response paper Session X.</p> <p>Case Study Presentation (30%; group) - The final case study presentation will cover education in a conflict-affected context (as listed in session 14). The context will be assigned to each group during session one so students can complete the relevant readings. The case study should then be discussed together as a group and include a PPT of at least 10 slides. The case study should include the following: an overview of the educational context for the conflict and crisis concerning education; description of how the conflict affects education; description of how education affects the conflict; and proposal for addressing/mitigating the conflict. Students should reference the course readings during the presentation as well as potentially other secondary sources.</p>																																																																		
教科書及び参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>著者名</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN/ISSN</th> <th>資料種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Schools for Conflict or for Peace in Afghanistan</td> <td>Dana Burde</td> <td>Columbia University Press.</td> <td>2014</td> <td>978-0231537513</td> <td>Book</td> </tr> <tr> <td>Educating Children in Conflict Zones</td> <td>Karen Mundy and Sarah Dryden-Peterson</td> <td>TC Columbia.</td> <td>2011</td> <td>978-0807771402</td> <td>Book</td> </tr> <tr> <td>From Classrooms to Conflict in Rwanda.</td> <td>Elisabeth King</td> <td>Cambridge University Press</td> <td>2013</td> <td>978-1107432598</td> <td>Book</td> </tr> <tr> <td>Peace Education in a Conflict-Affected Society: An Ethnographic Journey</td> <td>Michalinos Zembylas, Constadina Charalambous and Panayiota Charalambous</td> <td>Cambridge University Press</td> <td>2016</td> <td>Book</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Contemporary Conflict Resolution, Fourth Edition</td> <td>Oliver Ramsbotham, Tom Woodhouse and Hugh Miall</td> <td>Polity.</td> <td></td> <td>978-1509557608</td> <td>Book</td> </tr> <tr> <td>Positive Peace in Schools.</td> <td>Hilary Cremin and Terrence Bevington</td> <td>Routledge</td> <td>2017</td> <td>978-1138235649</td> <td>Book</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別	Schools for Conflict or for Peace in Afghanistan	Dana Burde	Columbia University Press.	2014	978-0231537513	Book	Educating Children in Conflict Zones	Karen Mundy and Sarah Dryden-Peterson	TC Columbia.	2011	978-0807771402	Book	From Classrooms to Conflict in Rwanda.	Elisabeth King	Cambridge University Press	2013	978-1107432598	Book	Peace Education in a Conflict-Affected Society: An Ethnographic Journey	Michalinos Zembylas, Constadina Charalambous and Panayiota Charalambous	Cambridge University Press	2016	Book		Contemporary Conflict Resolution, Fourth Edition	Oliver Ramsbotham, Tom Woodhouse and Hugh Miall	Polity.		978-1509557608	Book	Positive Peace in Schools.	Hilary Cremin and Terrence Bevington	Routledge	2017	978-1138235649	Book																								
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別																																																														
Schools for Conflict or for Peace in Afghanistan	Dana Burde	Columbia University Press.	2014	978-0231537513	Book																																																														
Educating Children in Conflict Zones	Karen Mundy and Sarah Dryden-Peterson	TC Columbia.	2011	978-0807771402	Book																																																														
From Classrooms to Conflict in Rwanda.	Elisabeth King	Cambridge University Press	2013	978-1107432598	Book																																																														
Peace Education in a Conflict-Affected Society: An Ethnographic Journey	Michalinos Zembylas, Constadina Charalambous and Panayiota Charalambous	Cambridge University Press	2016	Book																																																															
Contemporary Conflict Resolution, Fourth Edition	Oliver Ramsbotham, Tom Woodhouse and Hugh Miall	Polity.		978-1509557608	Book																																																														
Positive Peace in Schools.	Hilary Cremin and Terrence Bevington	Routledge	2017	978-1138235649	Book																																																														
授業時間外学修	<p>Some Useful Journals and Websites for Global Educational Debates</p> <ul style="list-style-type: none"> · Globalisation, Societies and Education: http://www.tandfonline.com/toc/cgse20/current · Compare: http://www.tandfonline.com/toc/ccom20/current · Comparative Education: http://www.tandfonline.com/toc/cced20/current · Comparative Education Review: http://www.journals.uchicago.edu/toc/ceer/current · Current Issues in Comparative Education: https://www.tc.columbia.edu/cice/ · Course: Studies in the Cultural Politics of Education: http://www.tandfonline.com/toc/cdis20/current · Educational Philosophy and Theory: http://www.tandfonline.com/toc/rept20/current · Journal on Education in Emergencies: https://inee.org/evidence/journal · Journal of Peace Education: http://www.tandfonline.com/loi/cjpe20 · Journal of Transformative Education: https://journals.sagepub.com/home/jtd · International Journal of Educational Development: https://www.journals.elsevier.com/international-journal-of-educational-development · International Review of Education: https://link.springer.com/journal/11159 · Prospects: https://link.springer.com/journal/11125 																																																																		
実務・実践の授業	x																																																																		

その他	<p>Other required readings available in https://drive.google.com/drive/folders/1VoiVu8DBQpkxp0XPveLMUSphtzAvhA-</p> <p>Course Expectations & Guidelines</p> <p>1. Academic Integrity Students are expected to produce their own work and, when using the work of others, include clear citations. Failure to properly cite or attribute the work of others will impact your grade, including a partial loss of points on particular projects or a failure of the class. References should also be provided for presentation materials, such as when students present their mid-term case study.</p> <p>2. Student Special Needs If a student has a condition that impacts their classroom learning (such as a hearing disability), they should discuss special arrangements with the professor. A note from the departmental office may be required.</p> <p>3. Attendance and Class Participation It is the student's responsibility to attend class, and to inform their department in the event of excused absences. Students should come to class having read the required readings and be prepared to participate in discussion and activities. Active participation is integral to collaborative learning in the course.</p> <p>4. Student Use of Mobile Devices in the Classroom In general, mobile phones should NOT be used in this course. Occasionally, the instructor may allow students to use mobile devices for research purposes, provided they are not used excessively or disruptively, but for the most part mobile devices should be turned off during class. This is to facilitate better engagement and learning during the course.</p> <p>5. Additional Course Policies This course is based around your responsible preparation and use of class time, both for lectures and small and large group projects. It is assumed at the outset that you will use this time well. If you need extra assistance, please visit the professor.</p>
オフィスアワー	Drop-by or email for appointment
更新日付	2026/03/16

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM330060					
科目名	国際教育開発論特論					
単位数	2.0単位					
曜日・講時	木曜4限					
開講学期	2学期					
担当教員	劉 靖					
担当教員(所属)						
科目ナンバリング	PES-EDU556E					
使用言語	英語					
メディア授業科目	×					
授業題目	Education and Development in an Asia-Pacific Context: A comparative perspective					
授業の目的と概要	<p>The major objective of this course is to consider issues of education and development in a comparative perspective and understand trends of research on education and development in an Asia-Pacific context. Although Asia-Pacific region has made a comprehensive progress in achieving SDG4 since 2015. With a rapid economic and social development, this region is also facing unprecedented challenges, such as rise of inequality and social exclusion at country and local levels. In education sector, on one hand, there are increasing number of people who can get access to schooling. On the other hand, there are different forces formulating inclusiveness, quality and resilience of people's education in this region, which have been interpreted and analyzed through western theories rather than by Asian thoughts.</p> <p>Therefore, in this course, first students will learn achievements and challenges of education and development from different targets of SDG4 and country studies in Asia-Pacific region. Then, student will be introduced to understand research paradigms in international education and development and comparative education and development. More importantly, students will be encouraged to consider and interpret education and development in Asia-Pacific in an Asian context and Asian methods.</p>					
学修の到達目標	<p>Goals of course are to enable students to:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) obtain knowledge of education and development in Asia-pacific. (2) enhance understanding of achievements and challenges of education and development in Asia-Pacific from a comparative perspective. (3) acquire an attitude that considers the meanings of education and development from a comparative perspective. (4) understand trends of research on education and development from both the western approach and an Asian method. 					
授業内容・方法と進度予定	<p>Session 1: Introduction</p> <p>Part 1: SDG4 in an Asia-Pacific Context: Progress and Challenges Session 2: Education and Sustainable Development Goals Session 3: Educational inequality in Asia-Pacific Session 4: Education reforms for quality education in Asia-Pacific Session 5: Technical and vocational education and trainings in Asia-Pacific Session 6: Higher education in Asia-Pacific Session 7: Partnership for education and development in Asia-Pacific</p> <p>Part 2: Country Studies Session 8: School education & development in Japan Session 9: School education & development in China Session 10: School education & development in the Philippines Session 11: School education & development in Cambodia</p> <p>Part 3: Research on Education and Development: Approaches and Methods Session 12: Research paradigms in international education and development Session 13: Comparative education and development Session 14: Asia as a method</p> <p>Part 4: Conclusion Session 15: Summary</p>					
成績評価方法	<p>Participants will be evaluated comprehensively through the following perspectives.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Participation and engagement (30%) 2. Group works (20%) 3. Weekly reflection (20%) 4. Final report (30%) <p>Absence without prior approval is subject to negative evaluation. Absence three times is subject to fail the course. Weekly reflection no-submission two times is subject to fail the course.</p>					
教科書及び参考書	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
	Reimagining Globalization and Education	Fazal Rizvi, Bob Lingard, Risto Rinne	Routledge	2022	1032075295	
	Globalization of Education: An Introduction	Joel Spring	Routledge	2014	0415749867	

授業時間外学修	1. The session time is limited, and therefore self-directed learning is essential. Students are encouraged to prepare and review for each class by individuals and groups. 2. Students are encouraged to collect information and topics related to the class' s content using newspapers, books, the internet, and other resources.
実務・実践的授業	×
その他	1. Google Class code:tafi0f6g 2. The 1st session will start at 14:40 on October 2, 2025. Those who plan to take course, please contact Dr. Jing Liu by jing.liu.e8@tohoku.ac.jp by October 1, 2025. 3. Email of the instructor in charge: jing.liu.e8@tohoku.ac.jp
オフィスアワー	Office hour: Wednesday 15:00-17:00, appointment is required.
更新日付	2026/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM330070				
科目名	国際教育開発論研究演習I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜5限				
開講学期	1学期				
担当教員	劉 靖				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU658J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	国際教育と開発への挑戦をめぐる実践と研究				
授業の目的と概要	SDGs時代において、教育の意味や役割を見直すべき時が来ている。本演習は2部で構成されている。第1部では、学習者は「誰が教育するか」「どう具現化するか」「いかに関わるか」という問いを持ちながら、国際教育開発の変遷および現状に関わる文献レビューを行い、国際教育開発の変遷に関わる議論と研究動向を把握する。第2部では、学習者が各自の研究テーマに関する先行研究を行い、報告し、論文の執筆や研究を進めるために必要な知識や研究手法を教員と共に、議論しながら、研究計画の改善を行う。				
学修の到達目標	本演習で学習者は、(1)国際教育開発の変遷に関わる議論と研究動向を把握でき、(2)教育課題に関する分析と解釈に必要な知識と批判的な思考のスキルを習得し、(3)日本を含むアジア太平洋地域における教育と開発に関わる課題をテーマとする研究のデザインを検討し、修士論文のテーマを具体化できることを目指す。				
授業内容・方法と進度予定	<p>対面授業実施</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第1部</p> <p>第2回 国際教育開発の国際的潮流：EFAからSDGsへ</p> <p>第3回 「誰が教育するか」1：トランスナショナルな途上国の教育起業家指示ネットワーク</p> <p>第4回 「誰が教育するか」2：教育におけるインクルージョンと不就学児童の教育戦略</p> <p>第5回 「どう具現化するか」1：高等教育協力</p> <p>第6回 「どう具現化するか」2：教育のグローバルガバナンス</p> <p>第7回 「いかに関わるか」1：マイノリティ教育</p> <p>第8回 「いかに関わるか」2：教員教育</p> <p>第9回 国際教育開発と教育学</p> <p>第2部</p> <p>第10回 先行研究1</p> <p>第11回 先行研究2</p> <p>第12回 先行研究3</p> <p>第13回 先行研究4</p> <p>第14回 研究テーマ発表1</p> <p>第15回 研究テーマ発表2</p>				
成績評価方法	授業参加 (25%) 発表 (35%) 最終報告書 (40%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
国際教育開発への挑戦—これからの教育・社会・理論	荻巣 崇世, 橋本 憲幸, 川口 純	東信堂	2021年		
教育グローバル化のダイナミズム	ジョエル スプリング (原著), 北村 友人 (翻訳)	東信堂	2023年		
授業時間外学修	1. 学生には、アジア太平洋地域における国際教育開発に関する新たなアプローチに関する情報を収集し、クラスで情報を共有することを強く推奨する。 2. グループプレゼンテーションを準備するためのグループワークが時間外学習となる。				

実務・実践的授業	x
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. Google Class code: nujnfg5v 2. 第一回目の授業4月9日（木）16：30～から 3. 受講希望者は4月8日（水）正午までに劉までD Cメールにて連絡をするように（jing.liu.e8@tohoku.ac.jp）。 4. この授業は日本語と英語で行われる。学生には英語で議論および発表に参加することを強く推奨する。
オフィスアワー	オフィスアワー：金曜日 2限
更新日付	2026/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM330080				
科目名	国際教育開発論研究演習II				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜5限				
開講学期	2学期				
担当教員	劉 靖				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU659J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	国際教育開発研究				
授業の目的と概要	国際教育開発論研究演習Iを踏まえ、本演習は、博士前期課程学生の課題研究論文・修士論文作成のための研究指導を中心としたゼミである。具体的に、先行研究の整理、研究理論枠組みの構築、研究方法の検討と実践、研究課題発表の練習が含まれる。				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究を通して、問題意識を作り、研究の問いを立てる。 2. 質的研究方法を学ぶ。 3. 現地調査のデザインとデータ収集のスキルを身につける。 				
授業内容・方法と進度予定	第1回：オリエンテーション 第2回：研究テーマと研究の問い1 第3回：研究テーマと研究の問い2 第4回：理論枠組み1 第5回：理論枠組み2 第6回：研究方法1 第7回：研究方法2 第8回：現地調査1：デザイン1 第9回：現地調査1：デザイン2 第10回：現地調査1：調査(国内) 第11回：現地調査2：デザイン1 第12回：現地調査2：デザイン2 第13回：現地調査2：調査(海外) 第14回：研究課題発表1 第15回：研究課題発表2				
成績評価方法	授業参加(25%) 発表(35%) 現地調査(20%) 最終報告書(20%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生には、アジア太平洋地域における国際教育開発に関する研究動向の情報を収集し、クラスで情報を共有することを強く推奨する。 2. 現地調査やグループプレゼンテーションを準備するためのグループワークが時間外学習となる。 				
実務・実践的授業	×				

その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. Google Class code: tnoz73cf 2. 第一回目の授業10月1日(木) 16:30~から 3. 受講希望者は9月30日(水) 正午までに劉までDCメールにて連絡をするように(jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。 4. この授業は日本語と英語で行われる。学生には英語で議論および発表に参加することを強く推奨する。
オフィスアワー	オフィスアワー: 金曜日 2限
更新日付	2026/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15~30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30~15時間、「実験、実習及び実技」については30~45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15~0時間です。

授業コード	PM340010				
科目名	教育アセスメント特論 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	西塚 孝平				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA532J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	形成的アセスメント(改善のための評価)の理論と方法				
授業の目的と概要	<p>形成的アセスメントは、教育と学習の改善のために評価を活かすプロセスである。一般的に評価は学習と切り離しておこなわれるが、学習と渾然一体を成して連動的に機能する点において、その実態の分析と説明には、人をつくる知恵と技(pedagogy)をはじめとする教授学習過程のダイナミックな相互作用を捉えるための理論と方法論を必要とする。この授業では、OECD Learning Compass 2040や21世紀型コンピテンシー論が構想するカリキュラム・授業づくり、その実現に不可欠な「革新的な学習環境(innovative learning environment)」を念頭に置きつつ、国内の学校教育をフィールドにした実践的な事例研究から形成的アセスメントの基本的な考え方と適用方法を学ぶ。同時に、事例研究がもつ意義と課題の分析を通じて、見落とされている視点と実装上の限界(feasibility)を批判的に検討し、評価を改善のために機能させることの意義と手法について理解を深める。</p>				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形成的アセスメントの基本原則を理解したうえで、自身の研究活動や関心のある問いを洗練させるために理論的視点を導入できる。 ・ 形成的アセスメントを実践し、またその実践を分析するための方法論的枠組みを理解する。 ・ 形成的アセスメントが実践場面でどのように観察できるのかを、理論的・方法論的枠組みの観点から体系的に分析でき、実践のさらなる改善に向けた提案ができる。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1講以降の2回続きの授業では、前半にテーマに関する解説を教員がおこない、後半に予め講読し準備してきた文献(国内事例研究)のレジュメを発表し討議するかたち(インプット・アウトプット)を進めていく。</p> <p>第1講 オリエンテーション：形成的アセスメント研究の動向 第2-3講 フィードバックの機能と有効性 第4-5講 スタンダードとクライテリアの実相 第6-7講 省察の意義と方法 第8講 中間まとめ 第9-10講 自己調整学習との融合 第11-12講 学び合いへの導入と場づくりの工夫 第13-14講 アセスメントの基盤にある学校文化と「つながり」 第15講 全体まとめ</p>				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加度(発言や質問)40% ・ レジュメ80% ・ 復習課題40% 				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
教科書や参考書の購入は不要。授業で用いる各種資料はGoogle Classroomに共有する。					
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表者は担当箇所についてレジュメを事前に用意し、授業中に発表をする。 ・ 復習課題として毎回振り返りをおこない、次回授業内で共有する。 				
実務・実践的授業	×				

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者は10月2日（金）正午までにDCメールでn.k@tohoku.ac.jp（@=㊟）宛に受講希望の旨を連絡すること。 ・講読は日本語の図書／論文を扱う。 ・Google Classroomのクラスコード：oraj53h6 ・基本は対面授業（教室での授業）とするが、状況に応じてオンライン授業を一部おこなう可能性がある。
オフィスアワー	E-mail：n.k@tohoku.ac.jp(㊟を㊟に置き換えてください)
更新日付	※オフィスアワーを設定していないため、質問や相談は上記メールアドレスでいつでもお受けします。 2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM340020				
科目名	教育アセスメント特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	松林 優一郎				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA533J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	自然言語処理学入門				
授業の目的と概要	人間によって生み出されるテキストは、その知的活動の表出と見ることができる。コンピューターによるテキスト理解とその応用にもとづく教育への技術の活用は近年盛んに研究されており、発展の一途を辿っている。本特論では、急速に進展する自然言語処理およびその教育応用の技術について、最先端の論文調査を通じて、必要となる基礎知識を学ぶ。				
学修の到達目標	自然言語処理の様々な基盤技術および教育応用タスクを幅広く理解する				
授業内容・方法と進度予定	<p>各回、NLPに関する最先端の論文を輪読する。</p> <p>前半は、近年のNLP技術を支える基盤技術に関する論文を精読する。 後半では、特に教育応用分野に関する直近の中心的な論文を精読する。</p> <p>初回にオリエンテーションを行い、参加者間の議論及び教員のガイドのもと精読対象の論文を定める。</p>				
成績評価方法	発表の内容と議論への参加度・寄与度に基づき評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	担当論文の精読およびプレゼンテーションの準備				
実務・実践的授業	×				
その他					
オフィスアワー	THU 13:00-15:00				
更新日付	2026/03/03				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM340030				
科目名	教育アセスメント特論Ⅲ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜4限				
開講学期	1学期				
担当教員	松林 優一郎、久保 沙織、西塚 孝平、熊谷 龍一				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA534J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育評価・測定論研究の実際(1)				
授業の目的と概要	教育評価論や教育測定論に関する論文や実践を共同で検討するとともに、各自の関心に基づいた研究を遂行し、進捗状況に応じた指導を受けることを目的とする。				
学修の到達目標	1. 各自の関心を教育的・社会的意義のある研究テーマとして構築できる。 2. 各自の研究テーマに関する先行研究を的確に把握し、批判できる。 3. 各自の研究テーマに沿った研究を遂行できる。				
授業内容・方法と進度予定	1. 各自の関心の発表と研究テーマ化に向けた指導(3回) 2. 各自の研究テーマに関する先行研究のレビューと共同討議(10回) 3. 各自の研究テーマに沿った研究計画の作成・指導(2回)				
成績評価方法	発表・レビュー(70%)、討議への参加(30%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	先行研究の探索・整理、レビューの執筆、発表資料の作成				
実務・実践的授業	×				
その他					
オフィスアワー	各教員により通知されるオフィスアワーを参照のこと。				
更新日付	2026/03/03				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM340040				
科目名	教育測定学特論 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜2限				
開講学期	1学期				
担当教員	久保 沙織				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA535J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	多変量解析入門				
授業の目的と概要	教育学や心理学等を含む社会科学分野の研究において、多変量解析の知識とスキルは必要不可欠である。主要な多変量解析の手法について、理論的基礎を学ぶとともに、統計解析環境Rによる実践方法を修得する。				
学修の到達目標	1. 主要な多変量解析の手法について、理論を理解し、結果の解釈を正確に行えるようになる。 2. Rによる分析方法を修得し、目的に応じて多変量解析の手法を実データに適用できるようになる。				
授業内容・方法と進度予定	第1回 はじめに：R入門 第2回 Rによる多変量データの基本的な統計処理 1 第3回 Rによる多変量データの基本的な統計処理 2 第4回 重回帰分析 1 第5回 重回帰分析 2 第6回 階層的重回帰分析 1 第7回 階層的重回帰分析 2 第8回 マルチレベルモデル 1 第9回 マルチレベルモデル 2 第10回 パス解析 1 第11回 パス解析 2 第12回 探索的因子分析 1 第13回 探索的因子分析 2 第14回 確認的因子分析 1 第15回 確認的因子分析 2				
成績評価方法	授業への出席及び取り組み（発言、質問等）と、課題に基づいて総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Rによる多変量解析入門-データ分析の実践と理論-	川端一光・岩間徳兼・鈴木雅之	オーム社	2018	978-4-274-22236-8	教科書
授業時間外学修	予習・復習を行うこと。 理解できない点があれば、授業後や次回授業時に質問すること。				
実務・実践的授業	×				

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ Google Classroomのクラスコード : ee5bha4i ・ 本授業は対面で行います。 ・ 上記15回の内容は目安であり、授業内容と進度予定は変更される可能性があります。
オフィスアワー	<p>質問等は随時受け付けます。</p> <p>授業前後の時間以外で対応が必要な場合にはあらかじめE-mailで連絡してください。連絡先は授業中に伝えます。</p>
更新日付	2026/03/10

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM340050				
科目名	教育測定学特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜2限				
開講学期	2学期				
担当教員	熊谷 龍一				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA536J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	テスト理論の基礎と分析手法				
授業の目的と概要	教育測定・評価の中で必須となる、テスト理論について基礎理論から、統計ソフトを利用した実際のテストデータの分析までを学ぶ。				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. テスト理論の基礎を習得し、それをテストデータの分析に用いることができる。 2. テストデータの分析およびその解釈を適切に行うことができる。 3. データ分析から得られた指標を正しく読み取り、教育評価に生かすことができる。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回：オリエンテーション（授業全体の概要把握）</p> <p>第2回：テスト法について</p> <p>第3回：項目分析</p> <p>第4回：相関係数</p> <p>第5回：古典的テスト理論：基本モデルと測定精度</p> <p>第6回：古典的テスト理論：信頼性係数（1）推定方法について</p> <p>第7回：古典的テスト理論：信頼性係数（2）実際のテストにおける信頼性係数</p> <p>第8回：古典的テスト理論：信頼性係数（3）クロンバックのα係数の導出</p> <p>第9回：古典的テスト理論：妥当性</p> <p>第10回：テスト得点の標準化</p> <p>第11回：テスト得点の等化</p> <p>第12回：項目反応理論の基礎（1）</p> <p>第13回：項目反応理論の基礎（2）</p> <p>第14回：項目反応理論の応用（1）</p> <p>第15回：項目反応理論の応用（2）</p>				
成績評価方法	授業への参加度（発言、質問等、50%）、適宜行う小レポート＋最終レポート（50%）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	予習・復習に関する指示は講義内で伝える。				
実務・実践的授業	×				

その他	<p>前期に開講される教育測定学概論を受講しておくこと。</p> <p>クラスコード：m3ihqca 授業の実施方法：対面 関連資料の入手方法：Classroomに資料をアップロード</p>
オフィスアワー	月曜日、13:00-14:30
更新日付	2026/02/25

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM340060				
科目名	教育情報学基礎論特論 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜5限				
開講学期	1学期				
担当教員	伊藤 文人				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA513J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	社会神経科学研究法				
授業の目的と概要	本講義では、ヒトの社会的行動の基盤となる情報処理のプロセス、関連する脳のメカニズムを調べる方法論や明らかにされてきた知見について学ぶ。歴史的な流れも踏まえ概説し、神経心理学や神経経済学、社会神経科学など認知神経科学と関わるの深い学問分野の知見も交えながら、特に人間の社会生活に重要となる脳とこの働きとその研究法について学ぶ。また、近年の研究動向および研究法の発展、周辺学問領域の知見についても紹介し、教育・福祉・コミュニケーションの未来を展望し、自ら切り拓いていくために必要な基盤の形成を目指す。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的相互作用に関わる脳とこころの仕組みを科学的に調べる方法やこれまで明らかにされてきた重要な知見を深く理解し、明快に説明することができる。 ・社会神経科学や周辺学問領域の知見も踏まえ、将来の教育・福祉・コミュニケーションへの展開について深く考察し、具体的にデザインできる。 				
授業内容・方法と進度予定	第1回：ガイダンス 第2回：認知神経科学研究 I (視覚、注意、顔認知) 第3回：認知神経科学研究 II (報酬、情動) 第4回：認知神経科学研究 III (学習・記憶) 第5回：さまざまな脳計測と解析技術、非侵襲的脳刺激法 第6回：社会神経科学研究 I (自己・他者) 第7回：社会神経科学研究 II (印象形成・社会的影響) 第8回：社会神経科学研究 III (発達障害) 第9回：社会神経科学研究 IV (信頼・共感) 第10回：近年の研究動向 I 第11回：近年の研究動向 II 第12回：近年の研究動向 III 第13回：近年の研究動向 IV 第14回：近年の研究動向 V 第15回：まとめ 定期試験 (レポート) (上記の予定は変更となることがあります。)				
成績評価方法	授業時間内で随時行う小レポート (50%) と最終レポート (50%) を総合して評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
The Student's Guide to Social Neuroscience (English Edition) (第2版)	Jamie Ward	Psychology Press	2016	9781138908611	参考書
The Student's Guide to Cognitive Neuroscience (English Edition) (第4版)	Jamie Ward	Routledge	2019	1138490520	参考書
授業時間外学修	講義における予習事項として、内容に関連する文献に接して予備知識を持つことが大切である。履修者が自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組むことが期待される。				

実務・実践的授業	x
その他	講義の進め方や評価等の詳細は第1回の講義で説明する。 内容が前後したり変更される可能性がある。
オフィスアワー	木曜3限（事前にメールにてアポイントメントを取ってください） Email: ayahito.ito.c2@tohoku.ac.jp
更新日付	2026/03/01

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM340070				
科目名	教育情報学基礎論特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜5限				
開講学期	1学期				
担当教員	熊井 正之				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA514J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	○(半数回以上がメディア授業である)				
授業題目	コミュニケーション研究法				
授業の目的と概要	この授業では、コミュニケーションのモデルと理論を概観するとともに、コミュニケーション研究法を解説する。				
学修の到達目標	この授業の目標は、(1)コミュニケーションの要素、目的、特性を理解し、自分なりに説明できるようになること、(2)コミュニケーション研究法を理解し、応用できるようになることである。				
授業内容・方法と進度予定	<p>1. コミュニケーションとは 2. 意味とは 3-4. コミュニケーションの要素 5. コミュニケーションの種類 6. コミュニケーションの目的 7. コミュニケーションの特性 8-10. コミュニケーションの滞り 11-15. コミュニケーション研究法</p> <p>・Google Classroomのコード：jdfhu4og ・第一回授業：4月9日(木曜)16時20分から。 ・授業の実施方法：オンライン(ビデオ蓄積配信方式)。 ・関連資料の入手方法：授業のビデオ・資料はClassroomで紹介。 ・情報保障が必要等の理由によりオンライン授業への対応が困難な学生への対応策：個別に相談。</p>				
成績評価方法	複数のショートレポート(約15%)、学期末レポート(約35%)、授業への取り組みと課題(約50%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
各回に配付する資料を教科書・参考書として用いる。					
授業時間外学修	課題に取り組むことを中心に、各回の配付資料を用いて復習すること。				
実務・実践的授業	×				
その他					

オフィスアワー	オフィスアワーは木曜13時から17時00分とする。事前にeメール等で連絡すること。教員の連絡先は授業中に伝える。
更新日付	2026/02/12

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM340080				
科目名	教育情報学基礎論特論Ⅲ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜4限				
開講学期	1学期				
担当教員	佐藤 克美				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA515J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	ICTを活用した教育 Education using ICT				
授業の目的と概要	ICTを効果的に教育に活用するためには、技術の特性、またそれを利用した教材の特性を理解し用いることが求められる。そこで本講義では、現在ICT教材において、その中心をなしている映像教材を取り上げる。ICT登場以前の視聴覚教材から最新の3DCG映像、バーチャルリアリティ等を活用した教育について具体例を取り上げながら学習し、それを通して映像教材の特性を理解するとともに実際にICT教材を作製する際に必要な基礎知識を学ぶ。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材、ICTを活用した教育手法とその効果を理解する ・映像教材の特性を理解し、教材作製に必要な基礎知識を理解する ・基礎的な映像教材を作製できるようになる 				
授業内容・方法と進度予定	第1回 オリエンテーション 授業の概要と評価について 第2回 視聴覚機器を活用した教育 (1) 視聴覚機器とは 第3回 視聴覚機器を活用した教育 (2) 画像・映像・音声 第4回 コンピュータを活用した教育 (1) CAI 第5回 コンピュータを活用した教育 (2) マルチメディア 第6回 最近のICTと教育 (1) 携帯端末の利用 第7回 最近のICTと教育 (2) コンピュータグラフィックス (CG) 第8回 最近のICTと教育 (3) バーチャルリアリティ 第9回 プログラミング的思考・プログラミング教育 (1) 第10回 プログラミング的思考・プログラミング教育 (2) 第11回 ICTを活用した教材のデザイン 第12回 映像を中心としたe-ラーニング教材に必要な要素 第13回 映像・画像の加工の技術 (1) 撮影 第14回 映像・画像の加工の技術 (2) 編集 第15回 講義のまとめ				
成績評価方法	授業内の発言と数回課すレポート課題により総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	ミニットペーパーに解答するために講義での復習や資料等を調べる時間が必要です。 またレポート課題に答えるためにも文献等を調べる必要があります。				
実務・実践的授業	×				

その他	受講生の興味関心により講義内容を若干変更する可能性があります。 参考書・資料については講義中で紹介します。
オフィスアワー	Googleクラスルームクラスコード 5kogurev 火曜日の午後
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM340090				
科目名	教育情報学応用論特論 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜1限				
開講学期	1学期				
担当教員	倉元 直樹				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA516J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育評価のためのデータ解析法				
授業の目的と概要	データを収集し、計量的方法を用いて分析するテクニックは、テーマによらず実証的研究の方法論的基礎である。言うまでもなく、教育現場において児童・生徒の学習成果の評価を行う際にも必須である。一方、教育評価に関わる技術を理論的に整然と学ぶ機会は多くはない。受講者の中には具体的なデータ解析手法や教育評価論の既習者もいるだろうが、単なるハウツウや抽象的観念の集積では教育現場において適切な応用はできない。さらに、データ解析法を全く経験せずに進んで来た者にとっては、e-ラーニング、対面授業を問わず、本講義は将来の教育実践の大切な基礎となる方法論を学ぶ機会である。				
学修の到達目標	教育評価の基礎となる統計的方法の基礎的な概念を身につける。				
授業内容・方法と進度予定	<p>授業概要</p> <p>授業 1 教育評価と教育測定：目的と位置づけ</p> <p>授業 2 ヒストグラム・累積度数折線による教育評価の図的表現</p> <p>授業 3 教育評価の数値的表現1：数値による分布の要約（モーメント系）</p> <p>授業 4 教育評価の数値的表現2：数値による分布の要約（分位数系）</p> <p>授業 5 複数の教育評価結果の関係性</p> <p>授業 6 教育評価の構造と予測</p> <p>授業 9 初等統計学の数学的基礎1：確率</p> <p>授業10 初等統計学の数学的基礎2：二項分布・正規分布</p> <p>授業11 評価結果の一般化1：統計的仮説検定</p> <p>授業12 評価結果の一般化2：期待値</p> <p>授業13 評価結果の一般化3：標本平均の分布</p> <p>授業14 教育評価のための統計手法各論1：2群の母集団平均値の差に関する検定</p> <p>授業15 教育評価のための統計手法各論2：さまざまな検定</p> <p>期末考査</p>				
成績評価方法	出席点（40%程度）、課題提出状況（課題成績）（30%程度）、期末テスト（30%程度）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
心理統計法への招待	中村知靖・松井仁・前田忠彦	サイエンス社	2006	ISBN4-7819-1151-X	参考書
授業時間外学修	7回のレポートを課す予定。				
実務・実践的授業	×				

その他	<p>初回の授業でオフィスアワーを含む授業運営方針について説明する。</p> <p>(Googleクラスルーム対応)</p> <p>①クラスコード: phacqsec</p> <p>②その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Google Classroomによるオンデマンド方式も併用予定 ・ 7回出題するレポートは厳守
オフィスアワー	初回の授業で説明する。
更新日付	2026/03/10

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM340100				
科目名	教育情報学応用論特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜1限				
開講学期	1学期				
担当教員	宮本 友弘				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA517J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育研究のための統計法入門				
授業の目的と概要	この授業では、統計の初心者や苦手意識のある学生が、修士論文研究において統計手法を適切に活用できるようになることを目指す。教育研究で用いられる代表的な統計手法の知識と、統計ソフト（SPSS）の使い方や結果の論文への書き方などの技能を学ぶ。毎回、各統計手法の説明、SPSSを使用した演習、確認テストを行う。				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の目的とデータの特徴に応じて適切な統計手法を選択できる。 2. 統計ソフト（SPSS）を用いたデータ分析ができるようになる。 3. 分析した結果を図表と文章で適切に表現できるようになる。 4. 統計手法の活用を視野にいれた研究計画を立てることができる。 				
授業内容・方法と進度予定	第1回 ガイダンス：教育研究における統計分析の役割 第2回 測定尺度の種類とデータの表示法 第3回 記述統計 第4回 推測統計の基礎 第5回 カイ2乗検定(1) 第6回 カイ2乗検定(2) 第7回 t検定(1) 第8回 t検定(2) 第9回 分散分析(1) 第10回 分散分析(2) 第11回 相関係数 第12回 因子分析(1) 第13回 因子分析(2) 第14回 回帰分析(1) 第15回 回帰分析(2)				
成績評価方法	授業への取り組み状況（50%）、確認テスト（50%）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
文系のためのSPSSデータ解析	山際勇一郎・服部環	ナカニシヤ出版	2016	9784779510137	参考書
授業時間外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の講義内容について、配布資料や教科書を活用しながら復習を行う。 2. 統計ソフト（SPSS）の操作を自主的に練習し、データ分析の手順に慣れる。 3. 統計手法の背景理論や応用例について、教科書や論文を活用して学ぶ。 				
実務・実践的授業	×				
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の講義資料はGoogleクラスルームにアップしますので、各自でダウンロードしてください。 2. 授業はコンピュータ実習室で行う予定です。同室の利用講習会を受講しておいてください。 				

オフィスアワー	火曜日12時～13時
更新日付	2026/03/01

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

その他	詳しいスケジュールや授業形態については、クラスルームに掲示するので必ず確認しておくこと。
オフィスアワー	毎週木曜16:30~18:00、文学4階の小嶋研究室にて。
更新日付	2026/03/01

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15~30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30~15時間、「実験、実習及び実技」については30~45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15~0時間です。

授業コード	PM340130				
科目名	教育情報学実践論特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	中島 平				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA520J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	生成AIとの協力を前提とした研究方法入門				
授業の目的と概要	<p>生成AIの発展により、多くの研究活動においても、生身の人間はAIと協力する人間に太刀打ちできなくなってきている。たとえば情報収集では、AIと上手に協力することにより、重要な関連研究と、それらの概要を10分程度で把握できるが、AI抜きだと慣れていても数時間はかかる。一方で闇雲にAIを使うことで、自らの思考力などが低下し、成長を阻害する懸念もある。</p> <p>この授業では、自分自身にとって合う活動と合わない活動を認識しつつ、自身の成長を阻害しないやり方で、AIと協力して研究活動を行う方法を身につけることを目的とする。</p> <p>授業ではまず、生成AIの原理を学び、生成AIとの対話により、気楽に楽しく生成AIを使用する方法を見出す。</p> <p>ついで、自分に合ったAIとの基本的な協力方法を身につけ、研究とは何か、学術論文とは何かをAIと協力して学び、クラス内で共有する。さらに、個人でAIと協力しつつ、最小限の研究活動を一通り実施し、成果と自身の合う合わないをクラス内で共有する。</p> <p>そして、AIの支援を受けながら、チームで身近な疑問を解明・解決するミニ研究を企画し、情報収集、ミニ研究の遂行、ミニ論文の執筆を行い、クラス内でミニ研究発表を行う。</p>				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIの原理と使用上の注意点を説明できる。 ・自分に合った方法で生成AIと対話できる。 ・自分自身のアイデアや思考をAIに対話を通して伝えられる。 ・研究とは何か、学術論文とは何かを説明できる。 ・自らの成長を阻害せずに、簡単な研究活動をAIと協力して実施できる。 ・自分の向きと不向きを把握し、AIを含むチームで、パフォーマンスと成長を考慮した役割分担を決められる。 ・研究の企画・遂行を通して、プロダクトと自身の成長に責任を持てるようになる。 				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：自己紹介・哲学対話1「あなたにとってAIとは？」 2. 生成AIに親しむ。原理の理解と自分に合った使い方。 3. 研究とは何か？(その1) 4. 研究とは何か？(その2) 5. 学術論文とは何か(その1) 6. 学術論文とは何か(その2) 7. 研究の流れのデモ、体験 8. 最もシンプルな研究をやってみる。 9. 哲学対話2「あなたにとって研究とは？」 10. チーム決め。役割分担。ミニ研究の企画。 11. ミニ研究の企画・実践1 12. ミニ研究の企画・実践2 13. ミニ研究の発表 14. 哲学対話3「あなたにとって、AIとの協力、人との協力とは？」 15. 発表と授業全体の振り返り 				
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎回の小レポート (20%) 2. 最終レポート (40%) 3. 授業内での種々の活動 (40%) 				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎回の小レポート 2. 最終レポート 				
実務・実践的授業	×				

その他	
オフィスアワー	木曜1限(事前問い合わせをお願いします)
更新日付	2026/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM340140				
科目名	教育情報学実践論特論Ⅲ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜2限				
開講学期	1学期				
担当教員	佐藤 克美				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA521J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	初等中等教育レベルのプログラミングを通じて情報セキュリティを学ぶ				
授業の目的と概要	本授業では、基本的な情報セキュリティについて学ぶ。情報セキュリティを理解するためには、情報通信技術（ICT）に関する知識が不可欠である。そこで、まず、初等中等教育レベルのプログラミングを習得する活動を通じて、ICTに関する知識を深める。次に、身に付けたICTに関する知識を基盤として、情報セキュリティについて考察する。初等教育で用いられるプログラミング言語のScratch（スクラッチ）と技術者が利用するプログラミング言語のC言語を利用する。				
学修の到達目標	(1)ScratchとC言語で基本的なプログラムを作成することができる (2)情報セキュリティの基礎について説明することができる (3)プログラムと情報セキュリティを関連付けて考察することができる				
授業内容・方法と進度予定	①オリエンテーション（講義主体）：授業概要について説明を実施する ②コンピュータとネットワーク（講義主体）：プログラミング教育と情報セキュリティの基本となるコンピュータとネットワークの基礎知識について講義を行う ③プログラミング教育とは何か（講義主体）：日本のプログラミング教育について概観する。小学校におけるプログラミング教育の開始、中等教育におけるプログラミング教育の充実化、大学におけるAI・データサイエンスの必修化について講義を行う ④Scratchでプログラミングの実装(1)（演習主体）：Scratchでプログラミングを実施する準備を行う。さらに、Scratchの基本的な操作を習得し、プログラミングの基本である順次、選択、繰り返しについて学ぶ ⑤Scratchでプログラミングの実装(2)（演習主体）：Scratchでプログラミングの基本となる変数の設定、関数（スプライト）間の変数の受け渡し、クローン作製などについて学ぶ ⑥Scratchでプログラミングの実装(3)（演習主体）：前回の続き ⑦Scratchでプログラミングの実装(4)（演習主体）：Scratchで正多角形の描画プログラムを作成する。これは、小学校学習指導要領に記載されているプログラミングの例である ⑧Scratchでプログラミングの実装(5)（演習主体）：前回の続き ⑨C言語プログラミングの実装(1)（演習主体）：C言語の基礎について説明する。Hello Worldを例に、C言語の基本的な操作を練習する ⑩C言語プログラミングの実装(2)（演習主体）：たし算プログラム（入力した数字を足し合わせるプログラム）を作成する。たし算プログラムをmain関数のみ、別関数にするなどで作成する ⑪C言語プログラミングの実装(3)（演習主体）：三角形の面積、円の面積を求めるプログラムを作成する ⑫情報セキュリティの基礎（講義主体）：情報セキュリティの機密性・完全性・可用性、リスクと脅威、悪意ある人の攻撃例について学ぶ ⑬家電製品に組み込まれているプログラム（演習主体）：エアコンにはどのようなプログラムが組み込まれているだろうか。エアコンの動作からプログラムを予測し、フローチャートを記述する ⑭プログラミングと情報セキュリティ（演習主体）：情報セキュリティを高めるためにはプログラムをはじめとする情報技術の知識が必要と言われていいる。情報セキュリティとプログラミング教育の関連性についてディスカッションを行う ⑮まとめ（講義主体）：これまでのまとめを行う				
成績評価方法	(1)プログラムの作成（9回）72% (2)フローチャートの作成（1回）5% (3)ディスカッション（1回）8% (4)リフレクションシート（15回）15%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	授業時間内に指定されたプログラムが完成しなかった場合は、授業時間外に完成させること。授業時間外には、授業で作成したプログラムを改めて作成し、プログラミング技術の定着を期待する。				

実務・実践的授業	x
その他	google classroom code 5gxy745b
オフィスアワー	火曜日午後
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM350010				
科目名	教育心理学特論Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜4限				
開講学期	1学期				
担当教員	工藤 与志文				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY512J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	ルール学習の心理学 -研究の回顧と展望-(1)				
授業の目的と概要	<p>「ルール」とは概念間の関係を表す知識であり、教科教育で教授される知識の中核を成す。ルール学習研究は、我が国の教育心理学において独自の発展を遂げたユニークな研究分野である。一連の授業ではルール学習の心理学研究について、これまでの研究動向を振り返るとともに今後の研究の方向について展望する。この授業では、ルール学習研究とは何か、いかなる特徴を持つかという点について概説するとともに、「誤ルール」に焦点を当てた研究動向を紹介する。</p>				
学修の到達目標	<p>①ルール学習に関するこれまでの研究動向を理解する。 ②ルール学習研究について将来展望を持つ。 ③ルール学習研究と自身の研究テーマとの関連について理解を深める。</p>				
授業内容・方法と進度予定	<p>1. ルール学習研究の独自性 1. 1 そもそも「ルール」とは何か 1. 2 ルール学習研究の特徴 1. 3 ルール学習はなぜ広く研究対象とならなかったか 1. 4 ルール学習における心理学的問題-ルール不使用問題-</p> <p>2. 「誤ルール(ル・バー)」に着目した研究 2. 1 ルール不使用問題に対する初期の説明-誤ルールの存在- 2. 2 誤ルールの組みかえと教授ストラテジー 2. 3 対決型ストラテジーに関する研究 2. 4 懐柔型ストラテジーに関する研究 2. 5 誤ルール研究の問題点</p>				
成績評価方法	授業への参加・貢献(70%)、期末レポート(30%)により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<p>・事前に配付資料を読み、授業に備える。 ・参考文献に関する発表の準備を行う。</p>				
実務・実践的授業	×				
その他	<p>連絡先: yoshifumi.kudo.d6@tohoku.ac.jp (Googleクラスルーム対応) クラスコード 3r2pfgt2</p>				

オフィスアワー	毎週月曜日 4校時
更新日付	2026/02/24

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM350020				
科目名	教育心理学特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜4限				
開講学期	1学期				
担当教員	佐藤 誠子				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY513J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教授・学習に関する心理学研究の動向				
授業の目的と概要	教授学習心理学に関連するハンドブック掲載論文を講読し、研究の動向について検討する。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教授・学習に関する心理学研究の内容について知る。 ・教授・学習に関する心理学研究の動向について理解する。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>担当するテキストの章を下記の中から選び、その内容についてレジュメをもとに報告してもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Learning to Read ・ Learning Mathematics ・ Learning Science ・ Learning History ・ Learning to Think Critically ・ Learning to Study Strategically ・ Learning with Motivation ・ Instruction Based on Examples ・ Instruction Based on Cooperative Learning ・ Instruction Based on Inquiry ・ Instruction Based on Discussion ・ Instruction Based on Visualizations 				
成績評価方法	発表(40%)、授業への参加度(30%)、レポート(30%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Handbook of research on learning and instruction (2nd Ed.)	Mayer, R. E., & Alexander, P. A. (Eds.)	Routledge	2017	9781138831766	教科書
授業時間外学修	事前に指定された文献を読み、内容を理解しておくこと。発表者は内容を報告するための発表レジュメを作成すること。				
実務・実践的授業	×				
その他	連絡先: seiko.sato.a1@tohoku.ac.jp Google Classroom クラスコード: ay2sdk3g				

オフィスアワー	火曜5講時 16:20~17:50
更新日付	2026/02/24

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15~30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30~15時間、「実験、実習及び実技」については30~45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15~0時間です。

授業コード	PM350030				
科目名	学習心理学特論Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜4限				
開講学期	1学期				
担当教員	工藤 与志文				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY514J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	ルール学習の心理学 -研究の回顧と展望-(2)				
授業の目的と概要	<p>「ルール」とは概念間の関係を表す知識であり、教科教育で教授される知識の中核を成す。ルール学習研究は、我が国の教育心理学において独自の発展を遂げたユニークな研究分野である。前期の授業に引き続き、ルール学習の心理学研究について、これまでの研究動向を振り返るとともに今後の研究の方向について展望する。この授業では学習者の思考過程に着目した研究を紹介し、近年の研究動向である「知識構成水準モデル」に基づく研究について解説した後、将来の研究に関する展望を述べる。</p>				
学修の到達目標	<p>①ルール学習に関するこれまでの研究動向を理解する。 ②ルール学習研究について将来展望を持つ。 ③ルール学習研究と自身の研究テーマとの関連について理解を深める。</p>				
授業内容・方法と進度予定	<p>3. 学習者の思考過程に着目した研究 3. 1 ルール不使用問題に対するもう一つの説明-思考過程におけるつまずき 3. 2 「知識操作」の影響 3. 3 思考過程研究の問題</p> <p>4. 「知識構成水準モデル」の提唱 4. 1 ルール不使用問題を再考する 4. 2 ルール学習における知識構成水準モデル 4. 3 知識構成水準モデルでこれまでの研究を見直す</p> <p>5. ルール学習研究の将来 5. 1 「ルールの学習」から「ルールに基づく学習」へ 5. 2 ルールによる学習の発展</p>				
成績評価方法	授業への参加・貢献(70%)、期末レポート(30%)により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<p>・事前に配付資料を読み、授業に備える。 ・参考文献に関する発表の準備を行う。</p>				
実務・実践的授業	×				

その他	連絡先 : yoshifumi.kudo.d6@tohoku.ac.jp (Googleクラスルーム対応) クラスコード : zk7517cx
オフィスアワー	毎週木曜4校時
更新日付	2026/02/24

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

その他	<p>オフィスアワーは別記のとおりだが、原則、在室時は可能な範囲で対応いたします。ただし、確実な対応を期待する場合は、事前に約束を取り付けてください。</p> <p>連絡事項は、Google Classroomにて周知する。クラスコード：ahfnxedo</p>
オフィスアワー	<p>【1学期】 木曜日4時限目</p> <p>【2学期】 木曜日3時限目</p>
更新日付	2026/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM350070				
科目名	発達障害学特論Ⅰ（福祉分野に関する理論と支援の展開）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	野口 和人				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY531J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	福祉分野における心理社会的課題と支援				
授業の目的と概要	この講義では、児童福祉分野、家庭福祉分野、高齢者福祉分野、障害者福祉分野の各福祉分野における心理社会的課題について概観し、障害児・者にも大きく関わる諸問題（虐待、学校不応答、不登校、引きこもり、就労支援、社会生活支援など）を中心に、それぞれの課題に対する心理社会的支援について議論する。				
学修の到達目標	①福祉分野における様々な心理社会的問題について理解する。 ②それぞれの課題に対する適切な心理社会的支援について考える。				
授業内容・方法と進度予定	<p>○授業の実施方法： ・対面方式で実施します（特段の理由がある場合に限り、オンラインでの受講を可とします）。 ・受講希望者は、4月8日（水）17時までに、担当を希望するテーマ（シラバスに示されている12種のテーマのうちから第3希望まで）を記したDCメールを野口（kazuhiro.noguchi.a5@tohoku.ac.jp）まで送付してください。希望を踏まえて、担当の割り振りを行います。 ○関連資料の入手方法：必要な資料はクラスの共有ドライブ等を利用して配付・共有します。</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 就学前の障害児における心理社会的問題と支援（家庭における生活） 就学前の障害児における心理社会的問題と支援（養育施設等における生活） 就学前の障害児における心理社会的問題と支援（地域社会における生活） 学齢期（小学校段階）の障害児における心理社会的問題と支援（家庭における生活） 学齢期（小学校段階）の障害児における心理社会的問題と支援（学校における生活） 学齢期（小学校段階）の障害児における心理社会的問題と支援（地域社会における生活） 学齢期（中学校以降）の障害児における心理社会的問題と支援（家庭における生活） 学齢期（中学校以降）の障害児における心理社会的問題と支援（学校における生活） 学齢期（中学校以降）の障害児における心理社会的問題と支援（地域社会における生活） 1. 障害児・者の就労支援における心理社会的問題① 2. 障害児・者の就労支援における心理社会的問題② 3. 障害児・者の地域社会生活における心理社会的問題と支援 4. 障害児・者の家族への支援 5. まとめ 				
成績評価方法	平常点（70%）及びレポート（30%）により総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	毎回の授業において指示する。				

実務・実践的授業	x
その他	クラスコード：425ruami
オフィスアワー	前期：火曜日3限目 後期：木曜日3限目
更新日付	2026/03/01

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM350080				
科目名	発達障害学特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	横田 晋務				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY532J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	発達障害児・者における認知特性に関する理論と展開				
授業の目的と概要	発達障害児・者の障害特性を説明するための様々な理論が提唱されてきた。本授業では、特に認知特性に焦点を当て、困難さやそれに関連する理論に関する最新知見について文献講読と発表・ディスカッションにより、理解を深めることを目的とする。				
学修の到達目標	(1)発達障害児・者の認知特性に関する最新知見を理解し、説明することができる (2)最新知見を自身が行う研究デザインに応用することができる				
授業内容・方法と進度予定	<p>下記のテーマに沿って授業を進める。テーマごとに発表者を決め発表とディスカッションを行う</p> <p>1 ガイダンス 2～3 文献講読 4～7 自閉スペクトラム症における認知特性 8～11 ADHDにおける認知特性 12～15 限局性学習症における認知特性</p>				
成績評価方法	発表・授業への貢献度 60% 期末レポート40%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	予習・復習、および発表に使用された文献を講読すること				
実務・実践的授業	×				
その他					
オフィスアワー	事前に E-mail 等で連絡すること。教員の連絡先は授業中に伝える。				
更新日付	2026/02/09				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM360010				
科目名	臨床心理学特論Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜5限				
開講学期	1学期				
担当教員	安保 英勇				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY551J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	臨床心理学概論				
授業の目的と概要	臨床心理学および、専門家としての臨床心理士・公認心理師に求められる知識や社会的責任・役割などについて総合的に学習する。				
学修の到達目標	臨床心理学、心理臨床家の基本問題を総合的に捉える。				
授業内容・方法と進度予定	<p>『公認心理師の職責』を元に、レポーターの報告とそこでの問いをめぐる討論を中心とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 心理専門家の役割 3. 心理専門家の役割と法的義務・倫理 4. クライアント/患者らの安全の確保 5. 情報の適切な取り扱い 6. 保健医療分野における心理専門家の業務 7. 福祉分野における心理専門家の業務 8. 教育分野における心理専門家の業務 9. 司法・犯罪分野における心理専門家の業務 10. 産業・労働分野における心理専門家の業務、 11. 支援者としての自己課題発見・解決能力 12. 生涯学習 13. 多職種連携・地域連携 14. 心理専門家の今後の展開 15. まとめ <p>『公認心理師の職責』を元に、レポーターの報告とそこでの問いをめぐる討論を中心とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 心理専門家の役割 3. 心理専門家の役割と法的義務・倫理 4. クライアント/患者らの安全の確保 5. 情報の適切な取り扱い 6. 保健医療分野における心理専門家の業務 7. 福祉分野における心理専門家の業務 8. 教育分野における心理専門家の業務 9. 司法・犯罪分野における心理専門家の業務 10. 産業・労働分野における心理専門家の業務、 11. 支援者としての自己課題発見・解決能力 12. 生涯学習 13. 多職種連携・地域連携 14. 心理専門家の今後の展開 15. まとめ 				
成績評価方法	発表(70%)授業への参加度(30%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
公認心理師の職責 第2版	野島一彦	遠見書房	2023	ISBN-10 : 4866161663 ISBN-13 : 978-4866161662	

授業時間外学修	テキストの事前講読、発表資料作成等
実務・実践的授業	×
その他	この授業は、臨床心理学コースの学生のために開設されている。 単位認定には2/3以上の出席を前提とする class_code: xgg241pe
オフィスアワー	火曜日、13-15時
更新日付	2026/02/28

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM360020				
科目名	臨床心理学特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜2限				
開講学期	2学期				
担当教員	吉田 沙蘭				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY552J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	臨床心理学概論				
授業の目的と概要	グループワークなどを通して、臨床心理学の専門家として必要な知識と技能、社会的責任に関わることの統合的な見通しを得る。				
学修の到達目標	臨床心理学の専門家として他職種と関わる現場で働く際に求められる、実践的な態度、知識および技能を身につけること。				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 心理士として社会・組織の中で働くということ 3-7. 臨床心理学における倫理 <ul style="list-style-type: none"> 専門的能力 多重関係 守秘義務 インフォームド・コンセント 倫理的意思決定 8-13. 心理臨床現場における倫理(事例検討) 14. 社会に出てからのスキルアップ 15. 研究者として社会・組織の中で働くということ 				
成績評価方法	発表や討論を含む授業への参加度(60%)、レポート(40%)による総合評価				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
臨床心理学の倫理を学ぶ	金沢吉展	東京大学出版会	2006	9784130120449	教科書
授業時間外学修	1人あたり1回、事前に該当テーマについてまとめ、発表を担当する(#3~#8)				
実務・実践的授業	○(企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う)				

その他	この授業は、臨床心理学コースの学生のために開講されている。 臨床心理学コースの学生は、必ず履修すること。 This class is provided for the students of clinical psychology course.
オフィスアワー	クラスコード：qh5tqmrs 水曜：10-12時
更新日付	2026/02/25

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM360030				
科目名	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜2限				
開講学期	1学期				
担当教員	本多 奈美、安保 英勇、若島 孔文、吉田 沙蘭、前田 駿太、SCHLEMPER LENNA、坂本 一真				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY553J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	臨床心理面接法				
授業の目的と概要	多様な臨床心理学的理論に基づいた見立てや介入の方法について、実際の事例を用いて学び、体験的に理解することを目的とする。				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な心理学的理論について、実際の事例と結びつけて理解すること 2. 理論に関する知識を活用し、事例の見立てや介入について考えられるようになること 3. ひとつの事例について複数の理論的背景を基にした解説を聞くことで、比較の視点を養うとともに、より柔軟かつ多角的な事例の捉え方をすることができるようになること 				
授業内容・方法と進度予定	<p>毎回の授業では、学生が提示した事例を用いて、各担当教員が多様な理論的背景に基づいた解説を行う。 受講者は解説を受け、グループディスカッションおよび個人ワークを行い、各種理論および事例に対する理解を深める。</p>				
成績評価方法	期末レポートにより評価する				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	事例に関する資料は授業週の月曜日から閲覧できるので、事前に目を通していただくことが望ましい				
実務・実践的授業	×				
その他	この授業は臨床心理学コースの学生のために開講される This class is provided for the students of clinical psychology course. （Googleクラスルーム対応） ※クラスコード：6qp16f5d				
オフィスアワー	授業教員への相談を希望する場合にはメールでアポイントをとること。				
更新日付	2026/03/11				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM360040				
科目名	臨床心理面接特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜2限				
開講学期	2学期				
担当教員	吉田 沙蘭、安保 英勇、若島 孔文、前田 駿太、SCHLEMPER LENA、坂本 一真、本多 奈美				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY554J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	臨床心理面接法				
授業の目的と概要	多様な臨床心理学的理論に基づいた見立てや介入の方法について、実際の事例を用いて学び、体験的に理解することを目的とする。				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な心理学的理論について、実際の事例と結びつけて理解すること 2. 理論に関する知識を活用し、事例の見立てや介入について考えられるようになること 3. ひとつの事例について複数の理論的背景を基にした解説を聞くことで、比較の視点を養うとともに、より柔軟かつ多角的な事例の捉え方をすることができるようになること 				
授業内容・方法と進度予定	<p>毎回の授業では、学生が提示した事例を用いて、各担当教員が多様な理論的背景に基づいた解説を行う。 受講者は解説を受け、グループディスカッションおよび個人ワークを行い、各種理論および事例に対する理解を深める。</p>				
成績評価方法	期末レポートにより評価する				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	事例に関する資料は授業週の月曜日からGoogleクラスルーム上で閲覧できるので、事前に目を通しておくことが望ましい				
実務・実践的授業	○(企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う)				
その他	この授業は臨床心理学コースの学生のために開講される				
オフィスアワー	クラスコード: 4eiaruaz 指定なし				
更新日付	2026/03/04				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM360050				
科目名	臨床心理研究法特論 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	若島 孔文、安保 英勇、吉田 沙蘭、前田 駿太、坂本 一真、本多 奈美				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY555J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	臨床心理学の研究手法				
授業の目的と概要	臨床心理学の研究手法の基礎およびその実践を学ぶ。 心理学研究の方法論、統計法などを踏まえ、調査研究、実験研究、事例研究などについて理解する。				
学修の到達目標	臨床心理学の研究法を習得する。				
授業内容・方法と進度予定	受講生は各自の研究テーマ、研究内容を計画し、発表・討論する。 1. オリエンテーション 2. ～ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介 15. 総括 /				
成績評価方法	研究発表およびそのレポート、授業の参加、発表時の討論への積極的参加により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	各自研究テーマに従い、論文を読むこと。また、研究を計画していくこと。				
実務・実践的授業	○(企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う)				
その他	クラスコード: xuggow2q				
オフィスアワー	月曜日10時30時から14時30分				
更新日付	2026/03/12				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM360060				
科目名	臨床心理研究法特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜4限				
開講学期	1学期				
担当教員	若島 孔文、安保 英勇、吉田 沙蘭、前田 駿太、坂本 一真、本多 奈美				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY556J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	臨床心理学の研究手法				
授業の目的と概要	臨床心理学の研究手法の基礎およびその実践を学ぶ。 心理学研究の方法論、統計法などを踏まえ、調査研究、実験研究、事例研究などについて理解する。				
学修の到達目標	臨床心理学の研究法を習得する。				
授業内容・方法と進度予定	受講生は各自の研究テーマ、研究内容を計画し、発表・討論する。 1. オリエンテーション 2. ～ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介 15. 総括 /				
成績評価方法	研究発表およびそのレポート、授業の参加、発表時の討論への積極的参加により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	各自研究テーマに従い、論文を読むこと。また、研究を計画していくこと。				
実務・実践的授業	○(企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う)				
その他					
オフィスアワー	月曜日10時30時から14時30分				
更新日付	2026/02/04				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM360070				
科目名	投影法特論 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜4限				
開講学期	1学期				
担当教員	池田 忠義				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY557J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	描画法・SCT演習				
授業の目的と概要	心理査定的重要手段である投影法のうち、描画法およびSCT(文章完成法)を取り上げ、その特徴・実施方法・解釈の基礎について実習を通して学ぶ。				
学修の到達目標	描画法およびSCTについて、その理論的背景・特徴を把握すると同時に、実施・解釈の方法に関する基礎的な知識を身につける。また、自身が検査者・被験者の両方を体験し、自己理解を深める。				
授業内容・方法と進度予定	第1回：投影法の意義と種類 第2回：描画法およびSCTの理論的背景・特徴 第3回：描画法の実施法・被験者体験 第4回：描画法の事例検討(1)内容分析 第5回：描画法の事例検討(2)形式分析 第6回：描画法の事例検討(3)総合所見 第7回：事例と総合所見の比較・検討 第8回：描画法による複数事例間の比較・検討 第9回：SCTの実施法・被験者体験 第10回：SCTの事例検討(1)内容分析 第11回：SCTの事例検討(2)形式分析 第12回：SCTの事例検討(3)総合所見 第13回：事例と総合所見の比較・検討 第14回：SCTによる複数事例間の比較・検討 第15回：心理査定における描画法およびSCTの活用				
成績評価方法	授業への積極的参加および発表(60%)、レポート(40%)による。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	事例検討に際しては、事前に配付する資料を予習した上で授業に臨むことが求められる。				
実務・実践的授業	×				
その他	この授業は、臨床心理研究コース所属の学生のために開講される。 クラスコード：bm2bkos5				

オフィスアワー	オフィスアワーは、火曜日13:00～14:30 です。事前に E-mail 等で連絡してください。教員の連絡先は授業中に伝えます。
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM360080				
科目名	投影法特論Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜4限				
開講学期	2学期				
担当教員	池田 忠義				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY558J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	T A T 演習				
授業の目的と概要	心理査定的重要手段である投影法のうち、T A T (主題統覚検査)を取り上げ、その特徴・実施方法・解釈の基礎について実習を通して学ぶ。				
学修の到達目標	T A Tについて、その理論的背景・特徴を把握すると同時に、実施・解釈の方法に関する基礎的な知識を身につける。				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回：T A Tの理論的背景・特徴 第2回：T A Tの実施法、検査者・被験者体験 第3回：T A Tの各図版の特徴と解釈手続き 第4回：事例1についての検討(1)内容分析 第5回：事例1についての検討(2)形式分析 第6回：事例1についての検討(3)総合所見作成 第7回：事例1の概要を踏まえての総合所見の検討 第8回：事例2についての検討(1)内容分析 第9回：事例2についての検討(2)形式分析 第10回：事例2についての検討(3)総合所見作成 第11回：事例2の概要を踏まえての総合所見の検討 第12回：事例3についての検討(1)内容分析・形式分析 第13回：事例3についての検討(2)総合所見と事例理解 第14回：T A Tにおける複数事例間の比較・検討 第15回：心理査定におけるTATの活用</p>				
成績評価方法	授業への積極的参加および発表(60%)、レポート(40%)による。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	事例検討に際しては、事前に配付する資料を予習した上で授業に臨むことが求められる。				
実務・実践的授業	×				
その他	この授業は、臨床心理研究コース所属の学生のために開講される。 クラスコード：7use4ef4				

オフィスアワー	オフィスアワーは、火曜日13:00～14:30 です。事前に E-mail 等で連絡してください。教員の連絡先は授業中に伝えます。
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM360090				
科目名	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜4限				
開講学期	2学期				
担当教員	若島 孔文				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY559J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践				
授業の目的と概要	システム理論の視点から家族、集団、組織、地域社会への心理的援助について、その歴史と理論について考え、システムの動きを活用する方法、変化を導入するための実際について検討し、理解していく。				
学修の到達目標	①臨床心理学における近年重要な発展領域である家族心理学の知識を得ること。 ②それらの知識を集団、組織、地域社会の問題に適用し、問題解決の見通し、見立てを得られるようになること。				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族心理学からの接近法 2. 夫婦関係 3. 親子関係 4. きょうだい関係 5. 離婚家族、ステップ・ファミリー 6. 家族と社会 7. こどもの問題 8. 家族と犯罪 9. 家族と性 10. アセスメント・ツール 11. 日本における家族療法 12. 日本における短期療法 13～15. 事例検討 				
成績評価方法	質疑等の参加状況、受講態度（40%）、複数回の小レポート（60%）で評価する。すべての小レポートの提出を単位取得の要件とする。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	予習として、代表的な心理療法に関して、読書し、理解しておくこと。復習及び課題として、授業時に配布した資料について理解を深めておくこと。				
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）				
その他					

オフィスアワー	月曜日10時30時から14時30分
更新日付	2026/02/04

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM360100				
科目名	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜1限				
開講学期	2学期				
担当教員	碓井 真史、前田 駿太				
担当教員（所属）	碓井真史（新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科）				
科目ナンバリング	PES-PSY560J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	○（半数回以上がメディア授業である）				
授業題目	犯罪・非行心理学特論				
授業の目的と概要	少年保護法制、犯罪・非行の現況や犯罪・非行少年の心理的特性及びその支援についての理解を深める。そして犯罪・非行臨床のみならず、その他の臨床現場等において直面する問題に対処できるだけの心理学的知識を獲得する。これらを目的とする。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 少年保護法制に関する基本的事情を踏まえて、少年保護の現状について説明できる。 犯罪・非行に至る少年の心理的特性と支援の方法を説明できる。 犯罪・非行臨床の現況と将来について、様々な角度から考察し、説明できる。 				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> (10/2) オリエンテーション (10/9) 犯罪心理学の基礎理論 (10/16) 殺人・連続殺人・大量殺人 (10/30) 非行・少年犯罪 (11/6) 若者の暴力 (11/13) 性犯罪 (11/20) 様々な犯罪 (11/27) プロファイリング (12/4) 取り調べと供述の心理 (12/11) DV・ストーキング・いじめ (12/18) テロリズム (12/25) マインドコントロール (1/8) 犯罪報道・防犯 (1/22) 被害者臨床・加害者臨床 (1/29) 授業の振り返り 				
成績評価方法	授業時の発言内容、毎授業ごとのコメントで 30%、期末に実施するレポート課題で 70%の割合で評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
「テキスト 司法・犯罪心理学」	越智啓太・桐生正幸	北大路書房	2017	978-4762829758	参考書
「図解 犯罪心理学」	越智啓太	日本文芸社	2024	978-4537221923	参考書
「誰でもいいから殺したかった! : 追いつめられた青少年の」	碓井真史	ベストセラーズ	2008	978-4584121931	参考書
「司法・犯罪心理学（公認心理師スタンダードテキストシリーズ）」	下山晴彦・佐藤隆夫	ミネルヴァ書房	2024	参考書	
「犯罪心理学事典」	日本犯罪心理学会（編集）	丸善出版	2016	978-4621089552	参考書
授業時間外学修	できるだけ新聞等で犯罪に関する記事を読むように心がけてください。日頃から犯罪・非行に対する興味関心を高めて、授業に臨んでいただくことにより興味が増すかと思えます。授業に主体的に取り組むことを期待しています。				
実務・実践的授業	×				

その他	授業はオンラインで行います。
オフィスアワー	質問や要望があれば、メールで送ってください。 usui@n-seiryu.ac.jp
更新日付	2026/03/10

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要となる学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM360110				
科目名	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜1限				
開講学期	2学期				
担当教員	本多 奈美				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY561J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開） /Advanced Lecture on Psychiatry				
授業の目的と概要	精神医学および精神保健福祉に関する臨床的・実践的な事項について学ぶ。代表的な精神疾患等について、受講者がケーススタディとして発表し討論する。/The aim of this course is to help students acquire an understanding of clinical psychiatry and mental health.				
学修の到達目標	精神医学・精神保健および代表的な精神疾患等を理解する。/The goal of this course is to understand clinical psychiatry, mental health, and psychiatric disorders.				
授業内容・方法と進度予定	1. オリエンテーション Introduction 2. 精神科医療 Psychiatric Care 3. 精神保健福祉 Mental Health and Welfare 4. 精神科診断 精神科治療 Psychiatric diagnosis Psychiatric treatment 5. プレイセラピー Play Therapy 6. ケーススタディ①-統合失調症 Schizophrenia 7. ケーススタディ②-うつ病 Depression 8. ケーススタディ③-神経症 Neurosis 9. ケーススタディ④-物質関連障害および嗜癖性障害 Substance related and addictive disorders 10. ケーススタディ⑤-発達障害 Developmental disorders 11. ケーススタディ⑥-自殺 Suicide 12. ケーススタディ⑦-認知症 Dementia 13. ケーススタディ⑧-災害時のメンタルヘルス Mental Health in Disaster 14. ケーススタディ⑨-児童虐待 Child Abuse 15. まとめ・筆記試験 Summarization, Exam				
成績評価方法	筆記試験（50%）、発表・討論（50%） Written examination(50%).Presentation/discussion(50%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	その都度指示する。				
実務・実践的授業	×				

その他	学部レベルの精神医学あるいは精神保健福祉を履修していることが望ましい。
オフィスアワー	クラスコード：dj7xq2d7 設定なし
更新日付	2026/03/11

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM360120				
科目名	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	小島 奈々恵				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY562J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	学校臨床心理学特論				
授業の目的と概要	教育分野（学校臨床心理学）における問題及びその背景、心理社会的課題及び必要な支援について理解を深める。				
学修の到達目標	教育分野（学校臨床心理学）における問題と支援について理解し、専門家としての在り方について考えを深める。				
授業内容・方法と進度予定	<p>本授業では、実践等に関する発表やディスカッションを通して、学校臨床心理学に関する理解を深めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育分野における基本 2. 教育分野における問題と支援 3. 教育分野における実践 <ul style="list-style-type: none"> ・問題：不登校、いじめ、非行・暴力行為 ・発達と教育 ・学習と教育 ・心理学的アセスメント ・心理学的援助：SC、連携、情報共有 ・特別支援教育 4. まとめ 				
成績評価方法	授業への積極的参加および発表（70%）、レポート（30%）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	発表準備とディスカッションに積極的に参加するための準備。				
実務・実践的授業	×				
その他	<p>臨床心理学コースの学生のための授業科目である。</p> <p>(Googleクラスルーム対応) クラスコード f7s64qhs</p>				

オフィスアワー	事前に E-mail 等で連絡すること
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業時間外学修	各授業時に適宜指示する。
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）
その他	
オフィスアワー	月曜日10時30時から14時30分
更新日付	2026/02/04

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM360140				
科目名	心の健康教育に関する理論と実践				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜5限				
開講学期	2学期				
担当教員	安保 英勇				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY564J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	心の健康教育に関する理論と実践				
授業の目的と概要	心の健康教育に関する理論を学び、実践(ロールプレイ)を行う。				
学修の到達目標	心の健康教育に関する理論を説明できる。 集団の特性に合った心の健康教育を立案・実践できる。				
授業内容・方法と進度予定	1.オリエンテーション 2.心の健康教育の理論と実践例の紹介 3.-15.受講生による心の健康教育の理論と実践例の紹介				
成績評価方法	授業への参加状況(20%) プレゼンテーション(80%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	プレゼンテーション作成				
実務・実践的授業	×				
その他	単位認定には、全体の3分の2以上の出席を前提とする。 class code: asmfy7xb				
オフィスアワー	火曜13-15時				
更新日付	2026/02/28				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM360150				
科目名	コミュニティ心理学特論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	小島 奈々恵				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY565J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	コミュニティ心理学特論				
授業の目的と概要	コミュニティ心理学の基礎概念について学び、基本姿勢や支援方法、支援対象について理解を深める。				
学修の到達目標	コミュニティ心理学の基礎概念を理解し、専門家としての在り方について考えを深める。				
授業内容・方法と進度予定	<p>本授業では、実践等に関する発表やディスカッションを通して、コミュニティ心理学に関する理解を深めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティ心理学とは 2. コミュニティ心理学の基本 3. コミュニティ心理学実践 <ul style="list-style-type: none"> ・地域における支援：子育て支援、児童虐待、DV、母子支援 ・教育における支援：いじめ、不登校、特別支援、学生相談 ・医療における支援：自助グループ、HIVカウンセリング、緩和ケア ・多文化コミュニティにおける支援：海外居住とその家族、留学生支援 4. まとめ 				
成績評価方法	授業への積極的参加および発表(70%)、レポート(30%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	発表準備とディスカッションに積極的に参加するための準備。				
実務・実践的授業	×				
その他	臨床心理学コースの学生のための授業科目である。 (Googleクラスルーム対応) クラスコード 2h1yuca3				

オフィスアワー	事前に E-mail 等で連絡すること
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM360160				
科目名	心理療法特論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	榊原 佐和子				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY566J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	学生相談における支援実践論				
授業の目的と概要	学生相談においては、各クライアントに合わせた柔軟なアプローチが不可欠である。本授業は、学生相談を中心に多様な分野で活躍できる有用なメンタルヘルス専門家となるために必要な基礎知識と技能を学生に身につけさせることを目的とする。				
学修の到達目標	多様な実践領域に応用可能な心理職としての基礎的専門性を身につける。				
授業内容・方法と進度予定	<p>講義と模擬面接実践を通して心理職としての基礎的専門性の理解を目指す。授業に含まれる内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 主要な心理療法理論の体系的理解 3. 心理職の働く場について（学生相談を含） 4. 近接職種との相違 5. 学生相談における多様なアプローチ 6. 心理職に必要な知識とスキル 7. 専門職倫理 8. 模擬面接とディスカッション 				
成績評価方法	模擬面接とディスカッションへの参加度（50%）、中間および期末レポート（50%）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
『基礎から学ぶ心理療法』	矢澤美香子	ナカニシヤ出版	2018年	9784779512520	
授業時間外学修	教員が提示した資料や授業に関連した論文をよく読むこと。				
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）				
その他	この授業は臨床心理学コース所属の学生のために開講されている。				
オフィスアワー	事前にメールを送って確認すること。 sawako.sakakibara_a4@tohoku.ac.jp				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PMS10020				
科目名	人間形成論研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	李 仁子				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU611J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	在日外国人とトランスナショナリズム				
授業の目的と概要	<p>現代日本には多様な外国人が暮らしている。国籍も異なれば、日本に入国した時期も異なる。在留資格も、仕事も、家族構成も、母国との関係もさまざまである。在日コリアン4世もいれば、いくつもの国を経て数年前に日本にやってきたという人もいる。このように人によって国境の越え方や歩き方は多様だが、確実に言えることはトランスナショナルな動きや現象が日本においても増大しつつあることである。この演習では、そうした趨勢の中で在日外国人がどのような生活戦略(経済的・社会的・文化的)を立てているのか、またその上で自分たちの子どもに対してどのような教育戦略を編み出し実践に移しているのかを探り、彼らのトランスナショナルな生活世界の一端を理解することを目指す。</p>				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル時代における大きな潮流となりつつあるトランスナショナルな現象や生き方に関する理解を深める。 ・ トランスナショナルな教育戦略の現状をおさえることで、現代日本の教育を再検討するための知見と視座を得る。 ・ 在日外国人のトランスナショナルな生活世界を知ることを通じて、自らが自明のものとして生きている生活世界や文化を相対化する文化人類学的な眼差しを身につける。 				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) トランスナショナルとは何か 3) グローバル時代のトランスナショナル現象① 4) グローバル時代のトランスナショナル現象② 5) 過去におけるさまざまな生活戦略 6) 差別とヘイトスピーチ 7) 現代におけるさまざまな生活戦略① 8) マイノリティとグローバル・スタンダード 9) 現代におけるさまざまな生活戦略② 10) 血縁、IT、トランスナショナル・ネットワーク 11) 現代におけるさまざまな生活戦略③ 12) 子どもの教育戦略①(教育の場) 13) 子どもの教育戦略②(教育の質) 14) 子どもの教育戦略③(教育の目標) 15) 日本におけるトランスナショナリズムのいま 				
成績評価方法	授業での発表やディスカッション(50%)、レポート(50%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	フィールドワークを行う場合がある。				
実務・実践的授業	×				
その他	【対面とオンデマンド型オンライン授業の混合形態】				

オフィスアワー	火曜日 3
更新日付	2026/02/25

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PMS10030				
科目名	人間形成史研究演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜2限				
開講学期	2学期				
担当教員	石井山 竜平、その他教員				
担当教員(所属)	白岩伸也				
科目ナンバリング	PES-EDU612J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	近現代日本と人間形成の研究手法応用論				
授業の目的と概要	近現代日本と人間形成に関する専門書を講読し、その研究方法論の実践・応用について学び、考える。				
学修の到達目標	教育史研究方法論の専門的知見を得て、それを自身の研究に活用することができる。				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育史資料論という知 2 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 3 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 4 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 5 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 6 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 7 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 8 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 9 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 10 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 11 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 12 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 13 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 14 受講者による発表と議論、担当教員からの解説と補足 15 教育と歴史に関する実地見学 				
成績評価方法	発表担当回の配布資料と報告内容、授業への参加態度から総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	テキストの精読、関連文献・資料の調査・検討、配布資料の作成を事前に行うこと。				
実務・実践的授業	×				
その他					

オフィスアワー	
更新日付	2026/03/12

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM510040					
科目名	人間形成史研究演習Ⅱ					
単位数	2.0単位					
曜日・講時	木曜3限					
開講学期	2学期					
担当教員	澤田 哲生					
担当教員(所属)						
科目ナンバリング	PES-EDU613J					
使用言語	日本語					
メディア授業科目	×					
授業題目	モーリス・メルロ＝ポンティの『知覚の現象学』講読					
授業の目的と概要	20世紀のフランスを代表する現象学者、モーリス・メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』を精読し、その内容を検討することで、人間形成における「自我」と「時間」、さらには「世界」の機能を考察する。					
学修の到達目標	学生が哲学的な文献を丹念に読み込み、自発的にテーマを見つけ、検討する能力の獲得。					
授業内容・方法と進度予定	<p>『知覚の現象学』第3部第2章「時間性」を毎回読み進める。</p> <p>第1回：演習の方法の説明 第2回：学生によるレジユメの発表、討論、教師による解説 第3回：学生によるレジユメの発表、討論、教師による解説 第4回：学生によるレジユメの発表、討論、教師による解説 第5回：学生によるレジユメの発表、討論、教師による解説 第6回：学生によるレジユメの発表、討論、教師による解説 第7回：学生によるレジユメの発表、討論、教師による解説 第8回：学生によるレジユメの発表、討論、教師による解説 第9回：学生によるレジユメの発表、討論、教師による解説 第10回：学生によるレジユメの発表、討論、教師による解説 第11回：学生によるレジユメの発表、討論、教師による解説 第12回：学生によるレジユメの発表、討論、教師による解説 第13回：学生によるレジユメの発表、討論、教師による解説 第14回：学生によるレジユメの発表、討論、教師による解説 第15回：まとめ</p> <p>※学生の習得した外国語に応じて、フランス語の原文、英訳、日本語訳を配布する。</p>					
成績評価方法	発表要旨の作成、議論への参加、期末レポートから総合的に判断する。					
教科書及び参考書	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
	Phénoménologie de la perception	M. Merleau-Ponty	Gallimard	1945		
	知覚の現象学 (1/2)	M. メルロ＝ポンティ	みすず書房	1967/1974		
	Phenomenology of perception	M. Merleau-Ponty	Routledge	2002		
授業時間外学修	毎回、レジユメを準備しておくこと。演習後にテキストを読み返しておくこと。					
実務・実践的授業	×					

その他	
オフィスアワー	毎週金曜日13:00-17:00
更新日付	2026/02/07

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM510060				
科目名	社会教育学研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	石井山 竜平				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU615J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	地域生涯学習計画論の再検討				
授業の目的と概要	<p>今日では、将来の人口減予測を受け、公共施設や事業の大幅な縮減計画が企図される一方で、地域には、①子どもの放課後の受け皿の拡充、②学校を地域が支援する関係づくり、③高齢世代の健康と命を守り合う地域包括ケアなど、従来行政が担っていた領域や、新たに発生した問題の解決を、地域の共助・互助力で担われることが期待され、そうした文脈から、社会教育には新たな期待が高まるなか、その機能が他部署の計画に絡め取られる傾向も現れている。</p> <p>一方で注目すべきは、近年では、とりわけ少子高齢化や人口減少などの課題が厳しい地域において、行政計画を越えたところで、地域主導で地域の産業の担い手やコミュニティの担い手の育成を目指した計画が生み出され、地域の方で実動しているケースが目立ち始めていることである。</p> <p>こうした、地域主導の人材育成計画の新たな展開を掴みながら、従来の社会教育計画論で蓄積されてきたものなかで、今日に継承すべき内容とは何かを吟味する。</p>				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方創生と社会教育をめぐる今日的状況と、地域生涯学習計画論の蓄積を理解する。 ・ 共同調査を行い、共著のレポートをまとめる。 				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 地方創生と社会教育をめぐる先行研究の検証(1) 3 地方創生と社会教育をめぐる先行研究の検証(2) 4 地域生涯学習計画論の検討(1) 5 地域生涯学習計画論の検討(2) 6 地域生涯学習計画論の検討(3) 7 地域生涯学習計画論の検討(4) 8 地域生涯学習計画論の検討(5) 9 地域生涯学習計画論の検討(6) 10 生涯学習計画化をめぐる調査(1) 11 生涯学習計画化をめぐる調査(2) 12 生涯学習計画化をめぐる調査(3) 13 生涯学習計画化をめぐる調査(4) 14 生涯学習計画化をめぐる調査(5) 15 生涯学習計画化をめぐる調査(6) 				
成績評価方法	授業および調査活動への参加、報告書の執筆内容に鑑みつつ、総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	正規の授業日程以外で、週末や冬季休業中を活用した調査実習を予定している。				
実務・実践的授業	×				
その他	Google クラスルーム クラスコード ajbd5suo				

オフィスアワー	前期は火曜4限、後期は金曜3限
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PMS10070				
科目名	スポーツ文化論研究演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜5限				
開講学期	1学期				
担当教員	齋谷 洋輔				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU616J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	身体文化をめぐる方法論				
授業の目的と概要	本演習では、身体実践に関するエスノグラフィックな研究を中心に取り上げ、その方法論を整理し、可能性と限界とを考察、検討する。				
学修の到達目標	方法論と対象化の関係性を学ぶ				
授業内容・方法と進度予定	初回に指示する文献(社会学、人類学を中心とする英語文献)について、受講生がその整理検討と考察を発表する。				
成績評価方法	出席参加(40%)、期末レポート(60%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	課題文献の精読、フィールドワークの実施				
実務・実践的授業	×				
その他					
オフィスアワー	Eメールにて調整				
更新日付	2026/03/04				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM510080				
科目名	スポーツ文化論研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜4限				
開講学期	2学期				
担当教員	甲斐 健人				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU617J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	スポーツ・体育社会学研究の構想と展開				
授業の目的と概要	この授業では、関連領域を含めたスポーツ社会学、体育社会学領域の文献を取り上げ、検討する。あわせて、各自の研究課題にそって、事例研究および学術論文の作成を進めていくための研究発表と討論を行う。				
学修の到達目標	研究対象についてのアプローチの方法や分析視点をみにつけ、学術論文作成の技法を学ぶ。				
授業内容・方法と進捗予定	各自の研究課題にそって、研究の構想や展開、実証的研究の進め方等について報告し、参加者で検討する。 問題意識を作る 研究課題の設定 研究計画の策定 実証的研究の方法 論文作成				
成績評価方法	出席(50%)と報告内容(50%)によって評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	適宜指示する				
実務・実践的授業	×				
その他	Google クラスルーム クラスコード: eqaavid7				
オフィスアワー	月曜日 12:10-12:50				
更新日付	2026/03/11				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PMS10090				
科目名	人間形成学合同演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜1限				
開講学期	1学期				
担当教員	澤田 哲生、李 仁子、その他教員				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU618J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	人間形成学の研究方法				
授業の目的と概要	人間形成の本質およびその動的な展開過程についての洞察力を育成することを目的として、哲学・歴史学・文化人類学などの方法により、人間形成研究の事例に関する合同の演習をおこなう。				
学修の到達目標	教育および人間形成を総合的に理解することができる。				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回 「ガイダンス」</p> <p>第2回～4回 : 教育哲学の研究方法～教育現実の事例に即して～(1) (担当: 李)</p> <p>第5回～7回 : 教育思想史の研究方法～教育現実の事例に即して～(1) (担当: 澤田)</p> <p>第8回～10回 : 日本教育史の研究方法～教育現実の事例に即して～(1) (担当: 澤田)</p> <p>第11回～14回 : 教育人類学の研究方法～教育現実の事例に即して～(1) (担当: 李)</p> <p>第15回 : 全体討議、まとめ</p> <p>Session 1 : Guidance</p> <p>Sessions 2-4: Research Methods in the Philosophy of Education - based on actual cases of education (1) (In charge: Lee)</p> <p>Sessions 5-7: Research Methods in the History of Educational Thought - based on actual cases of education (1) (In charge: Sawada)</p> <p>Sessions 8-10: Research Methods in the History of Japanese Education - based on actual cases of education (1) (In charge: Sawada)</p> <p>Sessions 11-14: Research methods in educational anthropology - based on actual cases of education - (1) (In charge: Lee)</p> <p>Session 15: General discussion</p>				
成績評価方法	討論への参加(50%)およびレポートの内容(50%)によって評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	予習として、演習で紹介した著者や著作について次回までに調べておくこと。復習として、演習で配布したレジュメ、紹介した著書や論文に目を通しておくこと。				

実務・実践的授業	x
その他	
オフィスアワー	毎週月曜日17:00-18:00
更新日付	2026/02/07

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PMS10100				
科目名	人間形成学合同演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜1限				
開講学期	2学期				
担当教員	澤田 哲生、李 仁子、その他教員				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU619J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	人間形成学の研究方法				
授業の目的と概要	人間形成の本質およびその動的な展開過程についての洞察力を育成することを目的として、哲学・歴史学・文化人類学などの方法により、人間形成研究の事例に関する合同の演習をおこなう。				
学修の到達目標	教育および人間形成を総合的に理解することができる。				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回 「ガイダンス」</p> <p>第2回～4回 : 教育哲学の研究方法～教育現実の事例に即して～(1) (担当: 李)</p> <p>第5回～7回 : 教育思想史の研究方法～教育現実の事例に即して～(1) (担当: 澤田)</p> <p>第8回～10回 : 日本教育史の研究方法～教育現実の事例に即して～(1) (担当: 白岩)</p> <p>第11回～14回 : 教育人類学の研究方法～教育現実の事例に即して～(1) (担当: 李)</p> <p>第15回 : 全体討議、まとめ</p> <p>Session 1 : Guidance</p> <p>Sessions 2-4: Research Methods in the Philosophy of Education - based on actual cases of education (1) (In charge: Lee)</p> <p>Sessions 5-7: Research Methods in the History of Educational Thought - based on actual cases of education (1) (In charge: Sawada)</p> <p>Sessions 8-10: Research Methods in the History of Japanese Education - based on actual cases of education (1) (In charge: Shiraiwa)</p> <p>Sessions 11-14: Research methods in educational anthropology - based on actual cases of education - (1) (In charge: Lee)</p> <p>Session 15: General discussion</p>				
成績評価方法	討論への参加(50%)およびレポートの内容(50%)によって評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	予習として、演習で紹介した著者や著作について次回までに調べておくこと。復習として、演習で配布したレジュメ、紹介した著書や論文に目を通しておくこと。				

実務・実践的授業	x
その他	
オフィスアワー	毎週月曜日17:00-18:00
更新日付	2026/02/07

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM510110				
科目名	生涯学習論合同演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜5限				
開講学期	1学期				
担当教員	石井山 竜平、鷺谷 洋輔、甲斐 健人				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU620J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	生涯学習研究の新動向				
授業の目的と概要	生涯学習に関係する注目すべき研究成果を取り上げ、教員および大学院生全員での検討を行う。また、関連学会の年報、紀要への投稿予定者や、学会発表予定者の事前検討会も合わせて行う。				
学修の到達目標	教員も院生も共に学び合う場であるので、到達目標は特に設定しない。				
授業内容・方法と進度予定	<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会教育学会等の紀要論文、及び年報論文などの検討 ・学会発表、論文投稿の事前検討 <p>Googleクラスルーム対応</p> <p>①クラスコード zej5162b</p> <p>②第一回授業の開始時期 4月9日(木)5限16:20~から実施</p> <p>③授業の実施方法 初回の授業は対面の予定。その後、状況に応じてZOOMも活用する予定。URL等は授業開始時期にClassroomに掲示する。</p> <p>④関連資料の入手方法 Classroom で紹介する。</p>				
成績評価方法	出席及びレポート、討議への参加などを総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	報告をする際には、しっかりとした文献の吟味と、情報の収集をした上で、臨んでいただきたい。				
実務・実践的授業	×				

その他	Googleクラスルーム対応 ①クラスコード zej5i62b ②第一回授業の開始時期 4月9日(木)5限16:20~から実施 ③授業の実施方法 初回の授業は対面の予定。その後、状況に応じてZOOMも活用する予定。URL等は授業開始時期にClassroomに掲示する。 ④関連資料の入手方法 Classroom で紹介する。
オフィスアワー	石井山：前期は火曜4限、後期は木曜4限
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM510120				
科目名	生涯学習論合同演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜4限				
開講学期	2学期				
担当教員	石井山 竜平、鷺谷 洋輔、甲斐 健人				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU621J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	生涯学習研究の新動向				
授業の目的と概要	生涯学習に関する注目すべき研究成果を取り上げ、教員および大学院生全員での検討を行う。また、関連学会の年報、紀要への投稿予定者や、学会発表予定者の事前検討会も合わせて行う。				
学修の到達目標	教員も院生も共に学び合う場であるので、到達目標は特に設定しない。				
授業内容・方法と進度予定	<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会教育学会等の紀要論文、及び年報論文などの検討 ・学会発表、論文投稿の事前検討 <p>Google クラスルーム対応)</p> <p>①クラスコード ix6so2qo</p> <p>②第1回授業の開始時期 10月1日(木)4限(14:40～)実施。</p> <p>③授業の実施方法 初回は対面の予定。その後は受講生の希望を確認しながら定めることとする。</p> <p>④関連資料の入手方法 Classroom で紹介する。</p>				
成績評価方法	出席及びレポート、討議への参加などを総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	報告をする際には、しっかりとした文献の吟味と、情報の収集をした上で、臨んでいただきたい。				
実務・実践的授業	×				

その他	Google クラスルーム対応) ①クラスコード ix6so2qo ②第1回授業の開始時期 10月1日(木)4限(14:40～)実施。 ③授業の実施方法 初回は対面の予定。その後は受講生の希望を確認しながら定めることとする。 ④関連資料の入手方法 Classroom で紹介する。
オフィスアワー	石井山：前期は火曜4限、後期は金曜3限
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PMS10130				
科目名	人間形成論実習				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜1限				
開講学期	通年				
担当教員	李 仁子				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU622J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	文化人類学的フィールドワークの実践				
授業の目的と概要	文化人類学が長年培ってきたフィールドワークによる調査法を学び、各自の調査研究にどのように活かせばよいかを模索する。				
学修の到達目標	各自のテーマに沿ってフィールドワークの具体的な計画を立て、実際に現場に入って調査を実践すると同時に、調査研究の成果発表を通じて調査をめぐる問題点や課題に関して互いに研鑽する。				
授業内容・方法と進度予定	<p>授業では、フィールドワークに関する基本文献をベースに、フィールドワーク経験者の体験談を交えながら、現地調査の全体像や倫理的問題、参与観察や聞き取りの具体的な方法、フィールドノートのとり方、調査データの整理と分析の進め方、考察のまとめ方等を演習形式で学んでいく。また、各自の調査研究に関する計画発表や成果発表を随時行い、授業参加者全員によるディスカッションを通してフィールドワークに関する実践的な理解を深める。</p> <p>1 ガイダンス 2～6 現地調査と研究倫理 7～12 参与観察と聞き取り 13～16 フィールドノート 17～23 調査データの整理と分析 24～26 民族誌と記述 27～29 理論と考察 30 総括</p>				
成績評価方法	出席およびディスカッションへの参加状況(60%)や、各自の調査研究に関する計画もしくは成果の発表(40%)を総合的に判断する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	フィールドワークの計画作りや実際の調査に相応の時間を要する。				
実務・実践的授業	×				
その他					
オフィスアワー	火曜日 3				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PMS20010				
科目名	教育社会学研究演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	福田 亘孝				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU630J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	応用多変量解析				
授業の目的と概要	社会学で用いられる計量分析の中級以上の手法を修得する				
学修の到達目標	(1) 社会学で用いられる計量分析の中級以上の手法を理解する (2) 一般化線形モデルの理論を理解し、応用した分析ができる (3) STATAを用いて中級以上の計量分析を行うことができる				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：計量分析の可能性と限界 2 指数型分布族と一般化線形モデル 3 尤度推定と統計量 4 正規線形モデル 5 STATA実習(1) 6 二値変数の回帰分析 7 名義・順序変数の回帰分析 8 STATA実習(2) 9 ポアソン回帰 10 生存時間分析 11 STATA実習(3) 12 制限従属変数モデル 13 パネル・データの分析 14 傾向スコアと因果分析 15 マルチレベル分析 				
成績評価方法	授業への参加度(20%)、発表・レポート(40%)、課題(40%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Econometric Analysis	Greene, W.	Pearson Education	2011		
Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data	Jeffrey M. Wooldridge	MIT Press	2010		
An Introduction to Generalized Linear Models	Dobson, A. J. & Barnett, A.	Chapman and Hall/CRC	2008		
An Introduction to Categorical Data Analysis	Agresti, A.	Wiley-Interscience	2007		
Applied Survival Analysis	Hosmer, D. W. & Lemeshow, S.	Wiley-Interscience	2008		
Propensity Score Analysis	Guo, S. & Fraser, M. W.	Sage	2014		
授業時間外学修	★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする ★必要に応じてReading AssignmentとWriting Assignmentを課す ★Google Classroomコード：qnwgnjqk				
実務・実践的授業	○(企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う)				

その他	<p>★Assignmentは必ずやり遂げてから授業に出席すること ★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる ★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります ★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります ★「微分・積分」と「線形代数」は既習であること ★本授業科目は、日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会が共同で設立した一般社団法人社会調査協会の定める「専門社会調査士のための必修科目」のうち、「I. 多変量解析に関する演習（実習）科目」として認定の申請を予定している授業科目である。社会調査士資格については、http://jasr.or.jp/を参照のこと。</p> <p>(1) 授業の実施方法： オンラインを積極的に活用して授業を行う （詳細は第1回目の授業で説明する） (2) 関連資料の入手方法：</p>
オフィスアワー	<p>※オフィス・アワー 木曜日 14:50-15:20 事前予約が必要</p>
更新日付	2026/02/13

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM520020				
科目名	教育社会学研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜4限				
開講学期	2学期				
担当教員	島 一則				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU631J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育経済学領域における計量分析				
授業の目的と概要	本演習では、教育経済学/教育社会学で用いられる複数の統計的手法について、関連論文・図書の講読と議論を通じて理解を深める。				
学修の到達目標	受講学生は、基礎的な統計手法から重回帰分析までの学部レベルの基礎的な知識を踏まえて、より深いレベルの知識の獲得SPSSを使った(想定)演習により、中級レベルの統計的知識とSPSSの利用法を学ぶことが、専門的知識・技能という観点からはその到達目標となる。また、汎用的技能、態度・志向性という観点からは、コミュニケーションスキル・論理的思考力・自己管理能力・批判的思考力、生涯学習力を向上させる。特に数量的スキルの向上に力点を置く。				
授業内容・方法と進度予定	1回：調査とデータ (Survey and Data) 2回：記述統計量 (Descriptive Statistics) 3回：母集団と標本 (Population and Sample) 4回：仮説と統計的検定 (Hypothesis and Statistical Test) 5回：クロス集計 (Cross Tabulation) 6回：平均の差の検定 (Difference Test of Mean) 7回：分散分析 (ANOVA) 8回：相関分析 (Correlation Analysis) 9回：3変数の関連 (Relation of Three Variables) 10回：単回帰分析 (Simple Regression Analysis) 11回：重回帰分析 (Multiple Regression Analysis) 12回：ダミー変数・相互作用項 (Dummy Variables and Interaction Terms) 13回：主成分分析 (Principal Component Analysis) 14回：因子分析 (Factor Analysis) 15回：マルチレベル分析 (Multi-Level Analysis)				
成績評価方法	授業内容についての理解とコミットメント (50%)・最終レポート (50%) による。ただし、出席状況によっては単位取得不可となる。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
社会統計学アドバンス	片瀬一男他	ミネルヴァ書房	2019	978-4-623-08370-1	
授業時間外学修	予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。				
実務・実践的授業	×				

その他	授業中の発言など積極的な関与を求める
オフィスアワー	クラスコード: 5n7m2rol 木曜日:12]00-13:00
更新日付	2026/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM520030				
科目名	教育行政学研究演習Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜6限				
開講学期	2学期				
担当教員	青木 栄一				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU632J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育政治学—発展編				
授業の目的と概要	教育政治に関する代表的研究と政治学の関連文献を学ぶ。たとえば「（教育の）地方分権改革が、地方政治にどのような変容をもたらすのか？」「地方政府間で教育政策にはどのような相違が存在するのか、そして相違をもたらす要素は何か」という論点を扱う。				
学修の到達目標	教育政治についての文献を批判的に読解できる。 英語文献から社会科学としての教育政治学に寄与する情報を折出できる。				
授業内容・方法と進度予定	<p>【オンラインによるリアルタイム授業】 Google Classroomクラスコード：ovyjxrgc</p> <p>第1回授業開始時期：2025年10月7日（火）6限：18:00～ Zoomで実施する。事前にアプリをインストールしておくこと。アクセス情報は事前にGoogle Classroomで通知する。</p> <p>授業の実施方法：全ての回で対面もしくはオンラインによるリアルタイム授業。予習で関連資料・文献を読みリアクションペーパーを提出し、授業を受講し毎回フィードバックを送信し、復習でさらに関連資料・文献を読む。 関連資料の配布方法：全てGoogle Classroomで配布する。当該回の資料は前週月曜日23:59までにアップロードする。 オンライン授業への対応が困難な学生への対応：個別に担当教員に相談。</p> <p>内容及び進度は以下の通りであるが、内容を変更する場合もある。 毎回、授業のテーマについてリアクションペーパーを用いたディスカッションを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション Introduction 2. マシン政治 Machine Politics 3. 地域権力 Community Power Structure 4. 都市の限界 City Limits 5. 教育ガバナンス Education Governance 6. 教員組合 Teachers Union 7. 財団 Foundations and Philanthropy 8. ニューアーク市 New Arc City Case 9. 人種 Race 10. 階級 Class 11. 草の根政治 Grassroots Politics 12. 告発と退出 Voice and Exit 13. 政府を超えた政治 Nationwide Reform 14. 回顧と展望 Looking Back: Looking Forward: Review and Speculation about the Future of Urban Education Politics 15. まとめディスカッション Looking Back and Looking Forward 				
成績評価方法	授業への貢献度（30%）、リアクションペーパー（30%）、期末レポート（40%）。 リアクションペーパー（Reaction papers）は13回課される。全ての回について提出しないと評価の対象から外れる。 欠席3回に達した時点で評価の対象から外れる。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<p>指定したテキスト等の該当箇所を読み予習してくること。これは全受講生にとって極めて重要なことである。 リアクションペーパーを投稿すること。締め切りは授業の前日月曜日23:59である。 復習を必ず行うようにすること。 本授業を深く理解したい場合には、大学院設置基準（第15条）、大学設置基準（第21条）の規定に基づいた自己学習（予習復習等）を行うことを強く推奨する（1回あたり4時間程度が標準）。</p>				

実務・実践的授業	x
その他	<p>受講要件：「教育行政学講義Ⅰ」の単位取得者もしくは相当の学習歴か社会人経験をもつ者。 ※これに該当しない受講希望者は事前に担当教員と相談すること。 ※教育政策科学コース博士課程前期及び他コース学生の「自由聴講」は認めない。 非遵行為：授業内容等についてSNS等に投稿することを禁じる。またAIの不適切利用については厳正に対処する。 担当教員ホームページ：https://researchmap.jp/read0124718/</p>
オフィスアワー	事前にメールでアポイントをとってください。
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM520040				
科目名	教育行政学研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜4限				
開講学期	第2学期				
担当教員	後藤 武俊				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU633J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育政策研究における質的研究法の応用				
授業の目的と概要	教育政策研究で用いられる質的研究法の理論と実践について学ぶ。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・質的研究の代表的な理論を理解できるようになる。 ・質的研究の代表的な理論を応用して執筆された論文を適切に読解・批判できるようになる。 ・質的研究の代表的な理論を用いて適切な分析を行えるようになる。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>テキスト・参考書に挙げた図書を輪読するかたちで進めていく。論点・疑問点をまとめた資料(ワークシート)を毎回作成して持参することが求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2～6. テキスト①の購読 7～14. テキスト②の購読 15. まとめ 				
成績評価方法	ワークシートへの評価(70%)、最終レポート(30%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
現実はいつも対話から生まれる	ガーゲン、ケネス・J&ガーゲン、メアリー	ディスカバー・トゥエンティワン	2022		
学校組織の解剖学-実践のなかの制度と文化	鈴木雅博	勁草書房	2022		
授業時間外学修	テキストの熟読およびワークシートの作成。				
実務・実践的授業	×				
その他	クラスコード：s6e6ems5				
オフィスアワー	木曜日、10:30~12:00				
更新日付	2026/02/26				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM520070				
科目名	教育政策科学合同演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜5限				
開講学期	通年				
担当教員	井本 佳宏、青木 栄一、島 一則、福田 亘孝、後藤 武俊				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU636J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	○(半数回以上がメディア授業である)				
授業題目	教育政策科学研究法				
授業の目的と概要	教育社会学、教育行政学、比較教育学、教育経済学の観点から、修士論文作成に向けた課題設定や文献研究についての指導を行う。より具体的には、参加者が各自の研究テーマに即して報告し、論文の執筆や研究を進めるために必要な知識や手法をアドバイスするための授業である。教育政策科学コース前期課程1年次学生の課題研究論文執筆のための研究指導を主たる目的とする。				
学修の到達目標	受講学生は、学術水準の高い論文を執筆するために必要な力量を形成する。/The goal of this course is to be able to write high quality academic papers.				
授業内容・方法と進度予定	1回：授業概要の説明、2～14回：受講学生による報告と研究指導、15回：授業の振り返りと最終成果報告				
成績評価方法	授業への貢献度による。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	予習・復習については各回の報告内容や関連文献に基づいて、適宜指示する。				
実務・実践的授業	×				
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業の評価については、課題研究論文とは別に行うので注意されたい。 ・本授業に関する諸連絡はGoogle Classroomではなく、Slackを用いる。 ・Slackへの登録については別途コースから案内する。 ・本授業はzoomを用いてオンラインで行う。 				
オフィスアワー	オフィスアワー 火曜日 13:00～15:00				
更新日付	2026/02/20				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM520080				
科目名	教育政策科学合同演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜5限				
開講学期	通年				
担当教員	井本 佳宏、青木 栄一、島 一則、福田 亘孝、後藤 武俊				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU637J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	○（半数回以上がメディア授業である）				
授業題目	教育政策科学研究法				
授業の目的と概要	教育社会学、教育行政学、比較教育学、教育経済学の観点から、修士論文作成に向けた課題設定や文献研究についての指導を行う。より具体的には、参加者が各自の研究テーマに即して報告し、論文の執筆や研究を進めるために必要な知識や手法をアドバイスするための授業である。教育政策科学コース前期課程2年次学生の修士論文のための研究指導を主たる目的とする。				
学修の到達目標	受講学生は、学術水準の高い論文を執筆するために必要な力量を形成する。				
授業内容・方法と進度予定	1回：授業概要の説明、2～14回：受講学生による報告と研究指導、15回：授業の振り返りと最終成果報告				
成績評価方法	授業への貢献度による。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	予習・復習については各回の報告内容や関連文献に基づいて、適宜指示する。				
実務・実践的授業	×				
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業の評価については、修士論文とは別に行うので注意されたい。 ・本授業に関する諸連絡はGoogle Classroomではなく、Slackを用いる。 ・Slackへの登録については別途コースから案内する。 ・本授業はzoomを用いてオンラインで行う。 				
オフィスアワー	オフィスアワー 火曜日 13:00～15:00				
更新日付	2026/02/20				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM520090				
科目名	比較教育学研究演習				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜2限				
開講学期	2学期				
担当教員	井本 佳宏				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU638J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育政策の政治社会学				
授業の目的と概要	本授業では、イギリスにおける教育政策の展開を政治社会学の視座から論じた文献の講読を通じて、今日の教育政策の国際的動向への理解を深めるとともに、比較教育学的思考のセンスを身につけることを目指す。				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 比較教育学の学問的性質を理解する。 2. 教育に関わる具体的課題を比較の視点から考察する力を身につける。 3. 授業への参加を通じて英文読解力、討議能力および論証力を獲得する。 				
授業内容・方法と進度予定	第1回 オリエンテーション/Orientation 第2回 予備的講義：イギリスの教育制度 第3回 予備的講義：教育とセグリゲーション 第4回 Introduction: Education reform claimocracy 第5回 Modernising education 第6回 Governing by knowledge production 第7回 Policy mortality 第8回 第2回から第7回までのまとめと討議 第9回 Vantage points 第10回 View points 第11回 Regimes of practice 第12回 Exchange relationships 第13回 Critical education policy studies 第14回 Conclusion: Intellectual activism 第15回 全体のまとめと補足				
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内での報告および議論への貢献 (50%) 2. 期末レポート (50%) 				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
A Political Sociology of Education Policy	Helen M. Gunter	Policy Press	2024	978-447363347	教科書
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討対象の章については各回の授業までに必ず読み、要点をメモにまとめておくこと。 ・ 各回の報告担当者は事前にプレゼンの準備をすること。 				
実務・実践的授業	×				

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に関する諸連絡、資料の配付、課題等の提示や提出にはGoogle Classroomを利用する。クラスコードは「um7j1mtc」です。第1回授業よりも前に各自で生徒登録しておくこと。 ・ 授業は基本的に対面で行う。
オフィスアワー	・ オフィスアワー 火曜日 13:00～15:00
更新日付	2026/02/20

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM530020				
科目名	成人教育研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜4限				
開講学期	2学期				
担当教員	松本 大				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU651J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	成人教育研究の探究(2)				
授業の目的と概要	成人教育・社会教育の先行研究を収集し報告することによって、自身の研究内容を深める。				
学修の到達目標	(1) 成人教育・社会教育に関わる研究動向を把握できる。 (2) 成人教育・社会教育における実践のダイナミクスを学ぶことができる。 (3) 成人教育・社会教育に関する研究を批判的に問い直し、自身の研究を発展させることができる。				
授業内容・方法と進度予定	1.オリエンテーション 2～15.発表と議論				
成績評価方法	発表・授業への取り組みに基づき総合的に評価を行う。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組むことが強く期待される。				
実務・実践的授業	×				
その他	Google Classroomのクラスコード:w4fr3e6l				
オフィスアワー	お問い合わせはE-mailにてお願いします。教員の連絡先は初回授業時にお知らせします。				
更新日付	2026/02/20				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM530050				
科目名	多文化教育論研究演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	末松 和子				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU654J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	多文化教育論研究演習 I				
授業の目的と概要	高等教育におけるカリキュラムの国際化、多文化教育、国際共修、留学生教育等の分野において、先行研究のレビューを中心に現状と課題を整理する。最終的にはリサーチエクステションを設定し、研究の内容に沿った検証方法を検討し、研究計画を立てるための準備を行う。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のある研究分野の文献に精通する ・ 先行研究レビューをもとに検証すべき課題を特定する ・ 課題を解決するための研究上の問いを立てる 				
授業内容・方法と進度予定	<p>授業は対面で行います。All the classes will be offered in person.</p> <p>授業内容と進行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 授業の概要 Introduction 2: 研究とは? 研究計画とは? What is research? What is a research plan? 3: 論文クリティーク Article review 4: 休講 Class cancelled 5: 論文クリティーク Article review 6: 研究計画 Research plan discussion 7: 論文クリティーク Article review 8: 休講 Class cancelled 9: 研究計画 Research plan discussion 10: 論文クリティーク(合同ゼミ) Article review 11: 研究計画 Research plan discussion 12: アカデミックライティング Academic writing 13: 研究計画 Research plan discussion 14, 15, 16: 研究計画発表 Research plan presentation 				
成績評価方法	課題(レポート)50%、ディスカッションへの貢献30%、最終プレゼンテーション20%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	授業に貢献できるよう予習・準備する				
実務・実践的授業	×				

その他	
オフィスアワー	オフィスアワー 月曜日 16~17時
更新日付	2026/03/10

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要となる学修時間の目安は、「講義・演習」については15~30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30~15時間、「実験、実習及び実技」については30~45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15~0時間です。

授業コード	PM530051				
科目名	多文化教育論研究演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	渡部 由紀				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU654J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	文献レビューの基礎				
授業の目的と概要	多文化教育論研究演習I・IIは、グローバル共生教育論・多文化教育論コースを専攻する前期課程学生の課題研究論文・修士学士請求論文、後期課程学生の特定研究論文・博士学位請求論文作成のための研究指導を主たる目的としたゼミである。演習Iでは、多文化・国際教育研究の領域において、受講生が各自研究テーマを設定し、研究論文を批判的かつ建設的に批判する。				
学修の到達目標	1) 多文化・国際教育研究領域の研究論文を批判的かつ建設的に評価分析ができる。 2) 文献レビューマトリックスを作成する。文献レビューマトリックスの作成を通して、課題研究論文・修士請求論文、または特定研究論文・博士学位請求論文の研究テーマと一致した文献を整理し、既存の文献を分類し、学生自身の分析に基づいた所見を明らかにする。				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回 授業概要の説明 第2回～13回 受講学生による報告と討議 第14～15回 文献レビューの発表</p> <p>【Googleクラスルーム情報及び授業運営の詳細】</p> <p>①クラスコード ・47pcu63m</p> <p>②第一回授業の開始時期 ・4月13日(月)3限:13:00～</p> <p>③授業の実施方法 ・対面授業</p> <p>④関連資料の入手方法 ・授業の資料は、Google Classroomで共有</p>				
成績評価方法	30% 授業への参加・貢献 30% 指定論文レビューの発表(2回) 20% 文献レビューマトリックス(研究論文15本以上) 20% 文献レビュー発表				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。				
実務・実践的授業	×				

その他	Google Class Code: 47pcu63m
オフィスアワー	メールで希望日時をお知らせください。
更新日付	2026/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要となる学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM530052				
科目名	多文化教育論研究演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜3限				
開講学期	1学期				
担当教員	高松 美能				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU654J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	多文化共生と教育				
授業の目的と概要	<p>本授業は、クラスという1つのコミュニティに参加する一人ひとりの間に「多文化共生」の関係性を構築するため、いかなる教育実践が効果的であるのかを考えることを目的としている。具体的には、学習環境、教育方法、学習テーマの3つの観点から、多文化共生実現に向けた教育実践を検討する。授業では教育現場における実践に興味のある学生、および自身の研究テーマと関連のある学生を対象に、まずは多文化共生とは何かを考え議論する。そして、自身の研究テーマと多文化共生の関係性を考察し、クラス内での発表を通じて自身の研究を深め、論文執筆に向けた準備を行う。</p>				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化共生社会の構築に必要な教育のあり方を考える。 2. 多文化共生と自身の研究の関係性を考え、発表や論文執筆を通じて自身の研究を深める。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>初回の授業はオリエンテーションで授業概要の説明、および自身の研究分野等の自己紹介を行ってもらおう。2回目の授業以降は、議論や文献収集を行いつつ、定期的に自身の研究発表を行ってもらおう。最後には自身の研究成果をレポートにまとめ、提出を求める。</p>				
成績評価方法	出席および議論への参加度(30%)、発表(30%)、レポート(40%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	発表の準備、およびレポート作成にかかる時間				
実務・実践的授業	×				
その他	<p>初回の授業では、参加者の自己紹介と研究計画の発表(1人10分以内)をしていただきますので、発表できるように準備してから参加してください。 クラスコード: ajhk57yu</p>				
オフィスアワー	水曜日: 10時から13時、木曜10時から16時				
更新日付	2026/03/11				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PMS30060				
科目名	多文化教育論研究演習II				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	末松 和子				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU65J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	多文化教育論研究演習II				
授業の目的と概要	高等教育におけるカリキュラムの国際化、多文化教育、国際共修、留学生教育、多文化共生等の分野において、先行研究のレビューを中心に現状と課題を整理し、研究計画を立てる。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のある研究分野の文献に精通する ・ 先行研究レビューをもとに検証すべき課題を特定する ・ 課題を解決するための研究上の問いを立てる ・ 適切な研究方法を吟味する ・ 研究計画を立てる 				
授業内容・方法と進度予定	<p>授業は対面で行います。All the classes will be offered in person.</p> <p>授業内容と進行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 授業の概要 Introduction 2: 研究とは? 研究計画とは? What is research? What is a research plan? 3: 論文クリティーク Article review 4: 休講 Class cancelled 5: 論文クリティーク Article review 6: 研究計画 Research plan discussion 7: 論文クリティーク Article review 8: 休講 Class cancelled 9: 研究計画 Research plan discussion 10: 論文クリティーク(合同ゼミ) Article review 11: 研究計画 Research plan discussion 12: アカデミックライティング Academic writing 13: 研究計画 Research plan discussion 14, 15, 16: 研究計画発表 Research plan presentation 				
成績評価方法	課題(レポート)50%、ディスカッションへの貢献30%、最終プレゼンテーション20%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	授業に貢献できるよう予習・準備する				
実務・実践的授業	×				

その他	
オフィスアワー	オフィスアワー 月曜日 16~17時
更新日付	2026/03/10

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要となる学修時間の目安は、「講義・演習」については15~30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30~15時間、「実験、実習及び実技」については30~45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15~0時間です。

授業コード	PM530061				
科目名	多文化教育論研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	渡部 由紀				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU655J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	論文執筆の基礎				
授業の目的と概要	多文化教育論研究演習Ⅰ・Ⅱは、グローバル共生教育論・多文化教育論コースを専攻する前期課程学生の課題研究論文・修士学士請求論文、後期課程学生の特定研究論文・博士学位請求論文作成のための研究指導を主たる目的としたゼミである。演習Ⅰでは、演習Ⅰで受講生が各自の研究テーマに即して進めてきた文献レビューを基礎に、序章をドラフトする。				
学修の到達目標	1) 研究課題および研究課題に対する具体的な問いを立てることができる。 2) 研究論文の序章(ドラフト)を完成させる。				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回 授業概要の説明 第2回 研究科題名(仮でもよい)と研究の概要と計画(A4-1枚) 第3回~14回 受講学生による報告と討議 第15回 授業の振り返りと最終成果報告</p> <p>【Googleクラスルーム情報及び授業運営の詳細】</p> <p>①Googleクラスルームコード rvtvr3an</p> <p>②第一回授業の開始時期 ・10月5日(月)3限:13:00</p> <p>③授業の実施方法 対面授業</p> <p>④関連資料の入手方法 ・授業の資料は、Google Classroomで共有</p>				
成績評価方法	30% 授業への参加・貢献 30% 発表 40% 研究論文の序章(ドラフト)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。				
実務・実践的授業	×				

その他	Google Class code: vrtvr3an
オフィスアワー	事前にメールで希望日時をお知らせください。
更新日付	2026/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要となる学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM530062				
科目名	多文化教育論研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	高松 美能				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU655J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	多文化共生と教育				
授業の目的と概要	<p>本授業は、クラスという1つのコミュニティに参加する一人ひとりの間に「多文化共生」の関係性を構築するため、いかなる教育実践が効果的であるのかを考えることを目的としている。具体的には、学習環境、教育方法、学習テーマの3つの観点から、多文化共生実現に向けた教育実践を検討する。授業では教育現場における実践に興味のある学生、および自身の研究テーマと関連のある学生を対象に、まずは多文化共生とは何かを考え議論する。そして、自身の研究テーマと多文化共生の関係性を考察し、クラス内での発表を通じて自身の研究を深め、論文執筆に向けた準備を行う。</p>				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化共生社会の構築に必要な教育のあり方を考える。 2. 多文化共生と自身の研究の関係性を考え、発表や論文執筆を通じて自身の研究を深める。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>初回の授業はオリエンテーションで授業概要の説明、および自身の研究分野等の自己紹介を行ってもらおう。2回目の授業以降は、議論や文献収集を行いつつ、定期的に自身の研究発表を行ってもらおう。最後には自身の研究成果をレポートにまとめ、提出を求める。</p>				
成績評価方法	出席および議論への参加度(30%)、発表(30%)、レポート(40%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	発表の準備、およびレポート作成にかかる時間				
実務・実践的授業	×				
その他	初回の授業では、参加者の自己紹介と研究計画の発表(1人10分以内)をしていただきますので、発表できるように準備してから参加してください。 クラスコード: t6e5tm33				
オフィスアワー	水曜日: 10時から13時、木曜10時から16時				
更新日付	2026/03/11				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM530070				
科目名	グローバル共生教育論合同演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜2限				
開講学期	1学期				
担当教員	劉 靖、NAKASATO LAUREN NOELANI、その他教員				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU656J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	持続可能な社会と教育				
授業の目的と概要	2015年に採択された持続可能な開発目標(SDGs)には「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」ことが持続可能な社会の実現のための教育目標として設定された。もう一方で、SDGs時代の教育は持続可能な社会を実現する直接的な課題を解決する方法としても注目されている。本演習では、SDGs時代において、「目標としての教育」と「方法としての教育」を軸とし、SDGs時代における社会教育や学校教育を含むすべての教育の在り方について考察し、日本を含むアジア諸国の事例研究を通してその再構築の必要性や方法や課題などを理解し、課題設定力をはじめとする研究力を獲得することを目的とする。				
学修の到達目標	本演習の目的は次の3点である。 ①持続可能な社会の実現をめぐる教育の役割を理解できるようになる。 ②SDGs時代における諸課題に対する教育的な視座を提供できるようになる。 ③日本を含むアジア諸国の事例研究を通して、研究課題の設定力および考察力を身につけるようになる。				
授業内容・方法と進度予定	<p>対面授業実施 詳細なスケジュールについて、第1回目の授業で説明する。</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：グローバル共生教育論研究について(1) 国際教育開発(劉)</p> <p>第3回：グローバル共生教育論研究について(2) 多文化共生1(高松)</p> <p>第4回：グローバル共生教育論研究について(3) グローバル・シチズンシップ教育(ナカサト)</p> <p>第5回：グローバル共生教育論研究について(4) 多文化共生2(渡部)</p> <p>第6回：グローバル共生教育論研究について(5) 多文化共生3(末松)</p> <p>第7回：研究デザイン1</p> <p>第8回：研究デザイン2</p> <p>第9回：研究デザイン3</p> <p>第10回：文献収集</p> <p>第11回：研究テーマをめぐる先行研究1</p> <p>第12回：研究テーマをめぐる先行研究2</p> <p>第13回：研究テーマをめぐる先行研究3</p> <p>第14回：研究テーマ発表1</p> <p>第15回：研究テーマ発表2</p>				
成績評価方法	授業への参加度(20%)、発表(40%)、レポート(感想文)(40%)による総合評価				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学修	受講生は授業終了後、自習や相互学習を行うことが奨励される。
実務・実践的授業	×
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. グーグルクラス コード: hsh612is 2. 第一回授業の開始時期 4月9日(木) 10:30- 3. 授業の実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は対面で行う予定 ・ 受講希望者は4月8日(水) 正午までに劉までDCメールにて連絡をするように(jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。 4. 関連資料の入手方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の資料については、授業開始前までにGoogle Classroomの共有ドライブにアップロード予定(受講希望者を招待する)。 ・ 授業課題については、Google Classroomで知らせる予定。
オフィスアワー	必要に応じてオフィスアワーを設ける。
更新日付	2026/02/26

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM530080				
科目名	グローバル共生教育論合同演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜2限				
開講学期	2学期				
担当教員	劉 靖、NAKASATO LAUREN NOELANI、その他教員				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EDU657J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	グローバル共生教育論研究				
授業の目的と概要	持続可能な社会の時代に向けて、社会、経済および環境といった様々な分野の姿容と共に、教育のあり方の再検討も必要になっている。本講義では、グローバル社会における諸教育課題を取り上げ、参加者全員での検討を行うと共に、参加者が各自の研究テーマを探し、修士論文作成に向けた課題設定や研究手法や現地調査などについての指導を目的とする。				
学修の到達目標	<p>本演習の目的は次の3点である。</p> <p>①グローバル社会における諸教育課題を理解できるようになる。</p> <p>②グローバル共生教育に関する諸理論を応用し日本を含むグローバル社会における諸教育問題を考察できるようになる。</p> <p>③グローバル社会における諸教育課題に関する研究能力を身に着けるようになる。</p>				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回： 研究手法 1</p> <p>第3回： 研究手法 2</p> <p>第4回： 研究手法 3</p> <p>第5回： 日本の農村地域における教育と社会 1</p> <p>第 6 回： 日本の農村地域における教育と社会 2</p> <p>第7回： 日本の農村地域における教育と社会 3</p> <p>第8回： グループワーク 1</p> <p>第9回： グループワーク 2</p> <p>第10回： 現地調査研究計画発表 1</p> <p>第11回： 現地調査研究計画発表 2</p> <p>第12回： 現地調査</p> <p>第13回： グループワーク 3</p> <p>第14回： グループワーク 4</p> <p>第15回： グループ発表会</p>				
成績評価方法	講義への貢献度（40%）、発表（30%）およびレポート（30%）で総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	受講生はコース終了後、自習や相互学習を行うことが奨励される。				

実務・実践的授業	x
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. グーグルクラス コード:r3nxfqdb 2. 第一回授業の開始時期 10月1日(木) 10:30- 3. 授業の実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対面授業を行う予定 ・ 受講希望者は9月30日(水) 正午までに劉までDメールにて連絡をするように(jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。 4. 関連資料の入手方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の資料については、授業開始前までにGoogle Classroomの共有ドライブにアップロード予定(受講希望者を招待する)。 ・ 授業課題については、Google Classroomで知らせる予定。
オフィスアワー	必要に応じて面談時間を設ける。
更新日付	2026/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM540010				
科目名	教育アセスメント研究演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜5限				
開講学期	1学期				
担当教員	西塚 孝平				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA630J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育アセスメントへの社会文化的アプローチ				
授業の目的と概要	<p>本演習では、教育と学習を評価し測定する営みを社会文化的実践として捉えようとする主張の論理と意味を理解するために、いくつかの重要な文献を講読する。近年、エージェンシーやウェルビーイングなどの高次の教育目標論・学力論が盛んに展開され、社会教育・生涯学習を含み持つ視点から学校教育システムを根本的に捉え直す動きが高まりつつある。学校教育内部では、標準テストだけではなくポートフォリオやルーブリックへの批判も目立つようになってきた。このような立ち行かなさを前に、教育アセスメントにとって一体何が希望になるだろうか。本演習では社会文化的アプローチをヒントに、国内外の理論的、方法論的、実証的研究から学び、教育アセスメント論議の現在を正確に捉えると同時に、ポスト資本主義社会に向けてあるべき教育アセスメントのかたちを吟味する。</p>				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育アセスメントを社会や文化の視点から捉えることの意義と方法を理解し、さらには複雑系システムとしての有様を論理的に整理／説明できるようになる。 ・文献の丹念な読み込みと議論への参加を通じて、学問的対話に必要な知識・能力を獲得する。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>教育アセスメントをコミュニティ（社会・歴史・言語・文化など）の次元から論究している図書／論文を熟読し、論点整理と批判的検討を含めた考察を毎回発表する。1つの文献を読み込むために演習2～3回分を使う。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回以降 レジューメ発表と全体討論</p> <p>※講読する文献と担当の割り当ては受講者と相談のうえ初回に決定する。 ※購読する文献はAssessment in Education: Principles, Policy & Practice, Volume 22, Issue 2 (2015) 所収の論考等を予定している。 ※受講者の人数、ニーズに応じて授業進度を調整する場合がある。</p>				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度（発言や質問）40% ・レジューメ 30% ・復習課題 30% 				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
教科書や参考書の購入は不要。授業で用いる各種資料はGoogle Classroomに共有する。					
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者は担当箇所についてレジューメを事前に用意し、授業中に発表をする。 ・復習課題として毎回振り返りをおこない、次回授業内で共有する。 				
実務・実践的授業	×				

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者は4月7日（火）までにDCメールでn.k@tohoku.ac.jp（◎=@）宛に受講希望の旨を連絡すること。 ・講読は主に英語の図書／論文を扱う（応相談）。 ・教育アセスメント（特に形成的アセスメント）の専門知識を要するため、教育情報アセスメント基礎論、教育アセスメント概論、教育アセスメント特論Iのうち少なくともいずれかの受講を推奨する。 ・Google Classroomのクラスコード：34jxvjqw ・基本は対面授業（教室での授業）とするが、状況に応じてオンライン授業を一部おこなう可能性がある。
オフィスアワー	E-mail：n.k@tohoku.ac.jp（◎を@に置き換えてください） ※オフィスアワーを設定していないため、質問や相談は上記メールアドレスでいつでもお受けします。
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM540020				
科目名	教育アセスメント研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	松林 優一郎				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA631J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	自然言語処理学の最前線				
授業の目的と概要	大規模データを使った様々なテキスト解析技術について、特に基盤技術や汎用技術を中心に最前線の研究成果を学ぶ。演習は主要な論文の精読を中心とした輪講形式で進める。				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然言語処理に関する最新の研究成果に関する知見を深める 2. 学術論文を調査し、読み解く能力を得る 3. 論文読解を通して、問題の提起から解決手法の提案、結論までの論理的な考えの筋道をトレースできるようになる 				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 大規模言語モデルの基礎概観(1)</p> <p>第3回 大規模言語モデルの基礎概観(2)</p> <p>第4回 ニューラル言語モデルにおける単語表現(1)</p> <p>第5回 ニューラル言語モデルにおける単語表現(2)</p> <p>第6回 位置ベクトル(1)</p> <p>第7回 位置ベクトル(2)</p> <p>第8回 言語モデルの推論性能(1)</p> <p>第9回 言語モデルの推論性能(2)</p> <p>第10回 Parameter-Efficient Fine Tuning(1)</p> <p>第11回 Parameter-Efficient Fine Tuning(2)</p> <p>第12回 言語モデル内部の分析(1)</p> <p>第13回 言語モデル内部の分析(2)</p> <p>第14回 選好フィードバックを用いた学習</p> <p>第15回 大規模言語モデルに対する倫理的対策</p>				
成績評価方法	授業での発表と議論への参加度(100%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	課題論文の精読と発表の準備。				
実務・実践的授業	×				
その他					

オフィスアワー	THU 13:00-15:00
更新日付	2026/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM540030				
科目名	教育アセスメント研究演習Ⅲ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜4限				
開講学期	2学期				
担当教員	松林 優一郎、久保 沙織、西塚 孝平、熊谷 龍一				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA632J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育評価・測定論研究の実際(2)				
授業の目的と概要	各自の関心に基づいた研究を遂行し、その発表と共同討議を通じて、教育評価・教育測定論に関する高度な知見を確立することを目的とする。				
学修の到達目標	1. 各自の研究テーマに沿った研究を遂行できる。 2. 発表と共同討議を通じて、教育評価・教育測定論分野の幅広い知見を獲得する。 3. 発表と共同討議を通じて、研究者に求められる討議能力を獲得する。				
授業内容・方法と進度予定	1. オリエンテーション(1回) 2. 各自の研究発表と共同討議(14回)				
成績評価方法	発表・レビュー(70%)、討議への参加(30%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	先行研究の探索・整理、レビューの執筆、発表資料の作成				
実務・実践的授業	×				
その他					
オフィスアワー	各教員により通知されるオフィスアワーを参照のこと。				
更新日付	2026/03/03				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM540040				
科目名	教育測定学研究演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
開講学期	1学期				
担当教員	その他教員、久保 沙織				
担当教員(所属)	秋山隆(非常勤講師)				
科目ナンバリング	PES-EIA633J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育測定入門				
授業の目的と概要	学力や心理学的特性といった概念は、教育学的研究において重要な役割を担っている。本授業では、これらの概念がどのように測定されるのかを紹介し、その方法を基礎から実践的に習得することを目的とする。授業ではこれまでデータ分析にあまり触れてこなかった受講生を念頭に置き、実際の研究活動に資するよう、統計解析環境Rを利用した演習を行いながら、テスト理論の理論と実践を紹介する。				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調査法について概要を説明できる 2. 古典的テスト理論と関連事項について、概要を説明できる 3. 項目反応理論と関連事項について、概要を説明できる 4. PCによるテストデータの分析を実行し、結果を適切に解釈できる 				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Rの基礎1 3. Rの基礎2 4. 古典的テスト理論1 5. 古典的テスト理論2 6. 古典的テスト理論3 (PC実践含む) 7. IRT1 (1PL) 8. IRT2 (2PL, 3PL) 9. IRT3 (その他のモデル) 10. IRT4: 多値型モデル1 (GRM) 11. IRT5: 多値型モデル2 (PCM) 12. IRT6: 等化 13. IRT7: 特異項目機能 14. IRTの演習 15. まとめ 				
成績評価方法	授業への参加度(発言、質問等) 20% 適宜行う課題 80%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	到達目標や授業内容に応じた準備を求める。配布する講義資料により内容を復習し、理解できていない点があれば次の授業で質問すること。				
実務・実践的授業	×				
その他	*本講義を受講する方は個人用PCにRをインストールして持参してください。 連絡先: 秋山隆 (akiyamat@kansai-u.ac.jp (◎を@に置き換えて下さい。))				

オフィスアワー	非常勤講師
更新日付	2026/03/10

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM540050				
科目名	教育測定学研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜4限				
開講学期	1学期				
担当教員	熊谷 龍一				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA634J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	項目反応理論に基づくテストの分析手法				
授業の目的と概要	<p>昨今、多くのテスト分析で用いられている項目反応理論 (Item Response Theory: 以下 IRT) について、その基本概念から発展モデルの理解、および実際のテストデータ分析手法を習得する。</p>				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> IRTの基礎概念を理解し、テストデータ分析結果を正しく読み取ることができる。 実際のテストデータに対して、IRT分析を行うことができる。 IRTの発展モデル (多値型モデル、多次元モデル) について、その概要を説明できる。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回: オリエンテーション: 授業全体の概要把握 第2回: IRT理解に必要な数学的知識 (1) 統計学の基礎 第3回: IRT理解に必要な数学的知識 (2) 基礎解析 (微分, 積分, 指数関数) 第4回: Concepts, Models, and Features 第5回: Ability and Item Parameter Estimation (1) 第6回: Ability and Item Parameter Estimation (2) 第7回: Assessment of Model-Data Fit 第8回: The Ability Scale 第9回: Item and Test Information and Efficiency Functions 第10回: Test Construction 第11回: Identification of Potentially Biased Test Items 第12回: Test Score Equating 第13回: Computerized Adaptive Testing 第14回: Future Directions of Item Response Theory 第15回: Conclusion</p>				
成績評価方法	授業への参加度 (発言, 質問等, 50%), 適宜行う小レポート+最終レポート (50%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	予習・復習に関する指示は講義内で伝える。				
実務・実践的授業	×				

その他	教育測定学概論, 教育測定学特論Ⅱを受講しておくこと。 クラスコード: dim5qbnv 授業の実施方法: 対面
オフィスアワー	月曜日、13:00-14:30
更新日付	2026/02/25

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要となる学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PMS40060				
科目名	教育情報学基礎論研究演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜3限				
開講学期	2学期				
担当教員	伊藤 文人				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA610J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	社会的認知について探求する演習				
授業の目的と概要	認知神経科学・社会神経科学研究において、機能的磁気共鳴画像法 (functional MRI) などの非侵襲的な脳機能イメージング手法が活発に使用されている。この演習では、社会的認知機能の背景に存在するメカニズムに関する脳機能イメージング研究の論文や、脳機能イメージングを社会のなかで活かすこと (社会実装) を目指した研究をテーマ別に取り上げ、その方法論の理解と体系的な知識の獲得を目指す。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的認知の基盤となる神経機構を理解し、社会的認知と脳の体系的な知識の獲得をめざす。 ・近年の脳機能イメージング研究を積極的に取り上げ、最先端の研究手法について理解を深める。 ・学生自身によるプレゼンテーションを通し、複雑な内容であっても明快に説明するスキルの習得を目指す。 ・インタラクティブな議論を通し、本質を見極めるクリティカルシンキングの能力を養う。 				
授業内容・方法と進度予定	第1回：ガイダンス 第2回：顔認知 I 第3回：顔認知 II 第4回：印象形成 I 第5回：印象形成 II 第6回：自己・他者 I 第7回：自己・他者 II 第8回：社会的相互作用 I 第9回：社会的相互作用 II 第10回：社会的意思決定 I 第11回：社会的意思決定 II 第12回：神経経済学 I 第13回：神経経済学 II 第14回：脳科学の実社会応用 I 第15回：脳科学の実社会応用 II (上記の予定は変更となることがあります。)				
成績評価方法	発表内容やディスカッションでの発言内容・態度等を総合して評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
カンデル神経科学 第2版	日本語版監修：宮下保司(東京大学名誉教授) 監訳：岡野栄之・神谷之康・合田祐紀子・加藤総夫・藤田一郎・伊佐正・定藤規弘・大隅典子・井ノ口馨・笠井清澄 原著編Eric R. Kandel・John D. Koester・Sarah H. Mack・Steven A. Siegelbaum	メディカルサイエンスインターナショナル	2022	4815730555	参考書
授業時間外学修	講義における予習事項として、内容に関連する文献に接して予備知識を持つておくことが大切である。履修者が自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組むことが期待される。				

実務・実践的授業	x
その他	演習の進め方や評価等の詳細は第1回の講義で説明する。 演習の進捗に応じて内容が前後したり変更される可能性がある。
オフィスアワー	木曜3限（事前にメールにてアポイントメントを取ってください） Email: ayahito.ito.c2@tohoku.ac.jp
更新日付	2026/02/26

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM540070				
科目名	教育情報学基礎論研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜4限				
開講学期	2学期				
担当教員	熊井 正之				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA611J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	アクセシビリティとユーザビリティ				
授業の目的と概要	この授業では、学習コンテンツや学習システムのアクセシビリティとユーザビリティについて学ぶ。また、教育情報学の研究に必要な知識と技能の習得も目指す。				
学修の到達目標	この授業の目標は、(1)学習コンテンツや学習システムのアクセシビリティ・ユーザビリティを理解し、説明できるようになること、(2)教育情報学の研究に必要な知識と技能を習得することである。				
授業内容・方法と進度予定	<p>(グループウェアとUDトークとZoom・Meetと対面を組み合わせる。受講対象者は教育情報アセスメントコース教育情報デザイン論領域の基礎論所属学生でず。対象者にはグループウェア、UDトーク、Zoom等について別途詳細連絡をします。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. アクセシビリティとユーザビリティ 3-4. Usability methodsとユーザビリティテスト 5-14. 発表と討論 15. 総括 <p>1) Googleクラスルームコード: mbvmb2qp 2) 欠席する場合には事前に申し出てください。</p>				
成績評価方法	発表・授業への取り組み(約80%)、学期末課題(約20%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	課題に取り組むことを中心に、各回の配付資料を用いて復習すること。				
実務・実践的授業	×				
その他					
オフィスアワー	オフィスアワーは、木曜 13:00~17:00 とする。事前に E-mail 等で連絡すること。教員の連絡先は授業中に伝える。				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM540080				
科目名	教育情報学基礎論研究演習Ⅲ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜4限				
開講学期	2学期				
担当教員	佐藤 克美				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA612J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	ICT教材の作製・ICTを用いた学びの体験				
授業の目的と概要	ICTを効果的に教育に活用するためには、単にそれを使うだけでなく教育者がICTの基礎を理解し、それを用いた教材を作製したり評価したりできること、さらにはICTを学習者に使用させることができることが重要である。またICT活用が学習者に与える影響を理解しなければならない。そこで本演習ではICTを用いた教育の例としてCGを用いた教材を取り上げ、それを実際にデザイン、プログラムし作製する。さらにはICT用いた学びを受講生自らが実際に体験することで、ICTを活用した教育手法の基本について体得する。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTが人と社会にどのような影響を及ぼすかを理解する。 ・ICTを活用した教材の作製ができる。(特にCGを用いた教材の作製) ・自らICTを積極的に活用し学ぶことができる。 ・ICTを教育・学習に活用しようとする人に対して、適切な支援・助言ができる。 				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ～概要、評価方法の説明～ 2. 人間とICTとの関わり 3. ICTによる社会と文化の変化 4. コミュニティの活用と新しい文化 5. CG教材を用いた教育(1) CG教材のデザイン 6. CG教材を用いた教育(2) CG教材の作り方 7. CG教材を用いた教育(3) CG教材の作製① 8. CG教材を用いた教育(4) CG教材の作製② 9. CG教材を用いた教育(5) CG教材の受講と評価 10. モノづくりによる学習(1) 外部情報の取得(センサーの活用) 11. モノづくりによる学習(2) プログラムによる動作制御(ロボット) 12. モノづくりによる学習(3) 簡単な教育ロボットのデザイン 13. モノづくりによる学習(4) 簡単な教育ロボットの製作 14. モノづくりによる学習(5) ロボットを活用した学びの体験 15. まとめ 				
成績評価方法	授業毎に行うミニットペーパーの内容、授業内の発言とレポート課題、及び演習中作製した成果物により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	ミニットペーパーに解答するために講義での復習や資料等を調べる時間が必要です。またレポート課題に答えるためにも文献等を調べる必要があります。				
実務・実践的授業	×				

その他	<p>ミットペーパーやアンケート等の提出のため、パソコンやスマートフォン等が必要です。 CGの作製には要件を満たすパソコンが必要となります。</p> <p>GoogleClassroomのクラスコード kmkfs7ra</p>
オフィスアワー	火曜日の午後
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM540090				
科目名	教育情報学応用論研究演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜1限				
開講学期	2学期				
担当教員	倉元 直樹				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA613J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	テスト法の基礎				
授業の目的と概要	指導と評価は一体である。各教科の指導法の成果を評価するためのテスト法の専門的な知識について習得するとともに、授業の進捗状況によってはICTを活用したテスト法であるeテストの基礎となる理論についても触れる。まず、テスト作成の基本、試験問題の開発、実施といった側面について我が国のテストの品質基準である「テスト・スタンダード」を参考とする。教育情報学応用論特論 I の履修を前提とする。 なお、対面での実施を予定している。補助的にオンラインによる授業参加を許可する可能性がある。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育評価・測定の方法に関する実践的な基礎を学ぶ。 ・テスト法の実践について、我が国の実践に沿った方法論について学ぶ。 ・将来、教育評価のための大規模テストの開発、実施に責任ある立場となるための基礎を学ぶ。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：テスト・スタンダード1：テスト・スタンダードの構成、基本条項</p> <p>第3回：テスト・スタンダード2：テストの定義</p> <p>第4回：テスト・スタンダード3：開発と頒布</p> <p>第5回：テスト・スタンダード4：実施と採点</p> <p>第6回：テスト・スタンダード5：結果の利用、記録と保管</p> <p>第7回：テスト・スタンダード6：コンピュータを利用したテスト</p> <p>第8回：テスト・スタンダード7：テスト関係者の責任と倫理</p> <p>第9回：eテストの基礎理論1：項目反応理論のモデル</p> <p>第10回：eテストの基礎理論2：テスト情報量とテストの精度</p> <p>第11回：テスト開発演習1：客観式テストの開発：テスト問題の作成と集計、分析</p> <p>第12回：テスト開発演習2：記述式テストの開発（1）：テスト問題の作成</p> <p>第13回：テスト開発演習3：記述式テストの開発（2）：ルーブリックの構成</p> <p>第14回：テスト開発演習4：eテストの開発：項目プールの考え方</p> <p>第15回：まとめ</p>				
成績評価方法	出席状況（ミニットペーパーと授業内の発言）とレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
テスト・スタンダード	日本テスト学会	金子書房	2007	ISBN978-4-7608-2826-5	参考書
全国学力調査一日米比較研究―	荒井克弘・倉元直樹	金子書房	2008	ISBN978-4-7608-2615-5	参考書
授業時間外学修	授業時間内に指示する。				
実務・実践的授業	×				
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスコード：zmqpogma ・授業形態、授業内容・方法については、実情に応じて変更の可能性がある。 				

オフィスアワー	授業時間内に指示する。
更新日付	2026/03/10

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM540100				
科目名	教育情報学応用論研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜1限				
開講学期	2学期				
担当教員	宮本 友弘				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA614J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育研究の意義を考える				
授業の目的と概要	この授業では、教育研究の意義を多面的に捉え直すことを通して、自身の研究をより深く考えることを目的とする。研究はしばしば「意義がある」と述べられるが、その意義は理論的、方法的、実践的など、さまざまな水準で語られる。本授業では、まず研究の意義を考えるための基本的な視点や知識を整理する。ついで、論点となる研究事例を具体的に検討し、研究がどのような問いに基づき、どの水準で意義を主張しているのかを考察する。さらに、演習では各自の興味・関心のある研究論文を持ち寄り、同様の観点から検討することを通して、自身の研究の意義について考察を深める。				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育研究の意義が複数の水準で語られることを理解できる。 2. 研究事例を検討し、その研究がどのような問いに基づき、どの水準で意義を主張しているのかを説明できる。 3. 研究の強みや特徴を整理し、その意義を適切に言語化できる。 4. 自身の研究の意義について主体的に考察できる。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回：ガイダンス - 授業の目的、内容、進め方 第2回：研究をみる視点①：研究パラダイム 第3回：研究をみる視点②：研究デザイン 第4回：研究をみる視点③：データと分析 第5回：研究をみる視点④：実践への寄与 第6回：典型事例解説① 第7回：典型事例解説② 第8回：典型事例解説③ 第9回：典型事例解説④ 第10回：クリティカルレビュー演習① 第11回：クリティカルレビュー演習② 第12回：クリティカルレビュー演習③ 第13回：クリティカルレビュー演習④ 第14回：研究の意義の再整理 第15回：まとめ：自分の研究の意義を考える</p>				
成績評価方法	演習の取り組み状況 50%、レポート 50% の割合で評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回で提示された視点（研究パラダイム、研究デザイン、実践への寄与など）について、配布資料や関連文献を参照しながら整理する。 2. 授業で扱った研究事例について、自身の研究テーマとの関係を考え、意義の水準や主張の射程を振り返る。 3. クリティカルレビュー演習に向けて、自身の関心領域に関連する研究論文を読み込み、問いの設定や主張の構造を整理する。 4. 最終レポート作成に向けて、自身の研究の意義を言語化するための構想メモや下書きを作成する。 				
実務・実践的授業	×				
その他					

オフィスアワー	火曜日12時～13時
更新日付	2026/03/01

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

オフィスアワー	毎週木曜10:30~12:00, 文学4階の小嶋研究室にて。
更新日付	2026/03/01

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15~30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30~15時間、「実験、実習及び実技」については30~45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15~0時間です。

授業コード	PM540130				
科目名	教育情報学実践論研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜2限				
開講学期	2学期				
担当教員	中島 平				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA617J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	テクノロジーを活用してより効果的に教え学ぶ方法を習得する				
授業の目的と概要	教えること、あるいは学ぶことを、テクノロジーによってより効果的にするための方法を実践を通して学ぶ。 例えばショーンの省察的実践を学習者が身につけるのを支援するために、どのような学習プログラムとテクノロジーを提供できるかを学ぶ。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・あなた自身の興味や経験から、テクノロジーを活用してより効果的にしたい教育・学習のテーマを選ぶことができる。 ・選んだテーマの学習プロセスを記述し、テクノロジーによって改善・置き換えができる部分を見いだすことができる。 ・上記のテーマに関して、テクノロジーによってより効果的に支援するための方法を提案できる。 				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テクノロジーによる教育・学習の支援 3. 事例紹介 1 4. 事例紹介 2 5. テーマを選ぶ 6. 学習プロセスを記述する 7. 学習プロセスの課題を探る 8. 課題に対する解決法を学ぶ 1 9. 課題に対する解決法を学ぶ 2 10. 課題に対する解決法を学ぶ 3 11. テクノロジーの導入 1 12. テクノロジーの導入 2 13. 学習プログラムの設計 1 14. 学習プログラムの設計 2 15. 全体の振りかえり 				
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内での種々の活動への取り組み (20%) 2. 授業内での発表 (30%) 3. 最終レポート (50%) 				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の復習 2. 発表準備 3. 最終レポート 				
実務・実践的授業	×				

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業において、研究開発中のテクノロジーを使ってもらえることがある。 ・ 授業で得られたデータ（授業映像など）を、後に研究目的で使う可能性がある。授業外でデータを使用されたくない場合は、事前に担当教員に連絡のこと。
オフィスアワー	木曜1限(事前問い合わせをお願いします)
更新日付	2026/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM540150				
科目名	オープンエデュケーション論合同演習				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜2限				
開講学期	通年				
担当教員	小嶋 秀樹、その他教員				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-EIA619J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育情報デザイン論領域における研究方法の修得				
授業の目的と概要	教育情報デザイン論に関する研究を進める上で求められる基礎的な能力について学ぶ。研究の在り方や意義についての理解、研究方法に関する基礎的な理解、研究論文の書き方や研究発表の方法についての基礎といった多様な視点から、教育情報デザイン論の研究を進める上で修得が強く望まれる事項について学ぶ。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育情報デザイン論に関連する研究手法に関する基本的な知識を学び、研究事例から学ぶことや、研究事例を批評することができる。 ・自身の研究を進める上で必要な基礎的な研究方法論(研究の進め方、論文の書き方、発表の仕方など)や事例を学び、その後の学修・研究に向けた動機づけや、実践的な教育方法・教材等の開発に向けた見通しを持つことができる。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回(4/8) : イントロダクション: 趣旨説明(小嶋・佐藤)・教育環境について(大河)</p> <p>第2回(4/22) : 研究方法論(1) コミュニケーション研究の方法(熊井)</p> <p>第3回(5/13) : 研究方法論(2) 認知発達ロボティクスの研究方法(小嶋)</p> <p>第4回(5/27) : 研究方法論(3) 教育現場での研究(佐藤)</p> <p>第5回(6/10) : 研究方法論(4) 研究方法の展開(中島)</p> <p>第6回(6/24) : 研究方法論(5) 社会的認知の研究手法(伊藤)</p> <p>第7回(8/5予定) : 合同セミナー(1) 修士論文中間発表会(参加・聴講)</p> <p>第8回(10/14) : 研究に役立つツール(1) 研究発表の基礎(佐藤ほか)</p> <p>第9回(10/28予定) : 合同セミナー(2) 課題研究構想発表会(参加・発表)</p> <p>第10回(11/11) : 研究に役立つツール(2) 統計の基礎(熊井ほか)</p> <p>第11回(11/25) : 研究に役立つツール(3) 続・統計の基礎(熊井ほか)</p> <p>第12回(12/9) : 研究に役立つツール(4) 論理的な文章の書き方(小嶋ほか)</p> <p>第13回(12/23) : 研究に役立つツール(5) 論文執筆の理論と実際(小嶋ほか)</p> <p>第14回(2/10予定) : 合同セミナー(3) 課題研究発表会(参加・発表)</p> <p>第15回(2/10予定) : 合同セミナー(4) 修士論文発表会(参加・聴講)</p> <p>(上記の予定は変更となることがあります。)</p>				
成績評価方法	授業時間内で随時行うミニットペーパー(計50%)と複数回の実践演習(論理的な作文、プレゼンテーション等)の出来(計30%)、合同セミナーへの参加態度(計20%)などを総合して評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	必要な予習・復習については、都度、授業のなかで指示する。				
実務・実践的授業	×				
その他	この授業は「通年」での実施となります。全部で15回相当となります。実施日はおおよそ隔週となりますが、詳細は初回の授業で説明します。				

オフィスアワー	各教員のオフィスアワーを参照してください。
更新日付	2026/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM550010				
科目名	教育心理学研究演習Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜5限				
開講学期	1学期				
担当教員	佐藤 誠子、工藤 与志文				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY610J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育心理学研究の構想と展開Ⅰ				
授業の目的と概要	この授業は、大学院生各自の研究について、それぞれの構想ないしデータ収集中の研究の途中経過を報告し、参加者全員で検討することを通して、研究の構想とその具体化、研究結果の記述などについて相互に学習する機会を提供することを目的とする。				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画の立案方法について学ぶ。 2. 教育心理学研究におけるデータ分析の手法について学ぶ。 3. 研究の結果と研究目的、考察との関連性の記述方法について学ぶ。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回～第15回 学生各自が自身の研究構想ないし途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想ないし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。</p> <p>Classroomでは、「教育心理学研究演習Ⅰ」ではなく、「教育心理学分野 合同木ゼミ」のクラスから入室すること。</p>				
成績評価方法	発表および授業への参加・貢献(80%)、期末レポート(20%)により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究構想(途中経過も含む)を立案する。 ・データおよびその分析を遂行する。 ・討議の準備(報告者によるレジュメ作成、受講者による質問準備等)を行う。 ・討議の結果を研究構想・計画、論文等に反映させる。 				
実務・実践的授業	×				
その他	<p>この授業は教育心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げない。</p> <p>(Googleクラスルーム対応) クラスコード eunvs7qk(教育心理学研究演習Ⅰ)</p> <p>※Classroomでは、「教育心理学研究演習Ⅰ」ではなく、「教育心理学分野 合同木ゼミ」のクラスから入室すること(クラスコードは別途連絡する)。</p>				

オフィスアワー	メールにて連絡すること。
更新日付	2026/02/24

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM550020				
科目名	教育心理学研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜5限				
開講学期	2学期				
担当教員	佐藤 誠子、工藤 与志文				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY611J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育心理学研究の構想と展開2				
授業の目的と概要	この授業は、教育心理学研究演習Ⅰを踏まえて、大学院生各自の研究について、それぞれの構想ないしデータ収集中の研究の途中経過を報告し、参加者全員で検討することを通して、研究の構想とその具体化、研究結果の記述などについて相互に学習する機会を提供することを目的とする。				
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画の立案方法について学ぶ。 2. 教育心理学研究におけるデータ分析の手法について学ぶ。 3. 研究の結果と研究目的、考察との関連性の記述方法について学ぶ。 				
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回～第15回 学生各自が自身の研究構想ないし途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想ないし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。</p> <p>Classroomでは、「教育心理学研究演習Ⅱ」ではなく、「教育心理学分野 合同木ゼミ」のクラスから入室すること。</p>				
成績評価方法	発表および授業への参加・貢献(80%)、期末レポート(20%)により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究構想(途中経過も含む)を立案する。 ・データおよびその分析を遂行する。 ・討議の準備(報告者によるレジュメ作成、受講者による質問準備等)を行う。 ・討議の結果を研究構想・計画、論文等に反映させる。 				
実務・実践的授業	×				
その他	<p>この授業は教育心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げない。</p> <p>(Googleクラスルーム対応) クラスコード zv4ekugn (教育心理学研究演習Ⅱ)</p> <p>※Classroomでは、「教育心理学研究演習Ⅱ」ではなく、「教育心理学分野 合同木ゼミ」のクラスから入室すること(クラスコードは別途連絡する)。</p>				

オフィスアワー	メールにて連絡すること。
更新日付	2026/02/24

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM550040				
科目名	学習心理学研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜4限				
開講学期	2学期				
担当教員	佐藤 誠子				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY613J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	教育心理学研究の動向				
授業の目的と概要	本授業では、受講生が各自の研究テーマに関連する展望論文(英語論文)を読み、教育心理学研究の最新動向と課題を理解することを目的とする。				
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学研究の最新動向および諸課題について理解する。 ・各自の研究テーマに関連する有用な知見を得る。 				
授業内容・方法と進度予定	各自の関心に基づいて展望論文(英語論文)を選び、内容を報告する。必要に応じて、論文内で紹介されている参考文献等についても読み進める。なお、論文は『Educational Psychology Review』等より選定する。				
成績評価方法	発表(40%)、授業への参加度(30%)、レポート(30%)により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	授業に参加するにあたり、指定された論文をあらかじめ読んでおくこと。発表者は論文や関連資料を読み込み、発表レジュメを作成すること。				
実務・実践的授業	×				
その他	連絡先: seiko.sato.a1@tohoku.ac.jp Google Classroom クラスコード: ub5rnf23				
オフィスアワー	火曜5講時(16:20~17:50)				
更新日付	2026/02/24				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15~30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30~15時間、「実験、実習及び実技」については30~45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15~0時間です。

授業コード	PM550070				
科目名	発達心理学研究演習Ⅲ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜5限				
開講学期	1学期				
担当教員	神谷 哲司、長谷川 真里				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY616J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	発達心理学研究の方法と分析3				
授業の目的と概要	この授業では、大学院生各自の研究について、それぞれの構想と内容(目的・方法・結果等)を発表し、参加者全員で検討することを通して、研究の進め方、研究結果の記述、提示の方法について学ぶことを目的とする。				
学修の到達目標	1. 研究計画の立案方法について学ぶ。 2. 発達心理学研究におけるデータ分析の手法について学ぶ。 3. 研究の結果と研究目的、考察との関連性の記述方法について学ぶ。				
授業内容・方法と進度予定	第1回～第15回 学生各自が自身の研究構想なし、途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想なし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。				
成績評価方法	研究発表および授業への参加・貢献、発表の準備状況や内容などを総合的に検討して評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	・研究構想の立案 ・データ分析 ・討議の準備(報告者によるレジュメ作成、受講者による質問準備等)を行う。 ・討議の結果を研究構想・計画、論文等に反映させる。				
実務・実践的授業	×				
その他	Google Classroomは、教育心理学分野 合同木ゼミ(クラスコード:yhpax65)を使用する。				
オフィスアワー	学生便覧を参照のこと。				
更新日付	2026/02/27				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

授業コード	PM550080				
科目名	発達心理学研究演習IV				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜5限				
開講学期	2学期				
担当教員	神谷 哲司、長谷川 真里				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY617J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	発達心理学研究の方法と分析4				
授業の目的と概要	この授業では、大学院生各自の研究について、それぞれの構想と内容(目的・方法・結果等)を発表し、参加者全員で検討することを通して、研究の進め方、研究結果の記述、提示の方法について学ぶことを目的とする。				
学修の到達目標	1. 研究計画の立案方法について学ぶ。 2. 発達心理学研究におけるデータ分析の手法について学ぶ。 3. 研究の結果と研究目的、考察との関連性の記述方法について学ぶ。				
授業内容・方法と進度予定	第1回～第15回 学生各自が自身の研究構想なし、途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想なし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。				
成績評価方法	研究発表および授業への参加・貢献、発表の準備状況や内容などを総合的に検討して評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	・研究構想の立案 ・データ分析 ・討議の準備(報告者によるレジュメ作成、受講者による質問準備等)を行う。 ・討議の結果を研究構想・計画、論文等に反映させる。				
実務・実践的授業	×				
その他	Google Classroomは、教育心理学分野 合同木ゼミ(クラスコード:yhpax65)を使用する。				
オフィスアワー	学生便覧を参照のこと。				
更新日付	2026/02/27				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

その他	<p>初回授業時に発表の担当日を決めるので必ず出席すること。</p> <p>オフィスアワーは別記のとおりだが、原則、在室時は可能な範囲で対応いたします。ただし、確実な対応を期待する場合は、事前に約束を取り付けてください。</p> <p>受講生との協議の上、授業時間（曜日と時限）を変更することがある。</p>
オフィスアワー	<p>【1学期】 木曜日4時限目</p> <p>【2学期】 木曜日3時限目</p>
更新日付	2026/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM550110				
科目名	発達障害学研究演習Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜6限				
開講学期	1学期				
担当教員	野口 和人				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY630J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	発達障害学研究法(1)				
授業の目的と概要	課題論文・修士論文、学会発表論文、学術論文などの作成に向け、文献紹介・研究発表とそれらに基づく議論を通じて受講者各自の研究内容を深めることを目的とする。				
学修の到達目標	①論文作成及びプレゼンテーションのスキルを習得する。 ②受講者各自の研究テーマに関する国内外の研究動向、理論を把握する。				
授業内容・方法と進度予定	<p>○授業の実施方法： ・この授業は、発達障害学分野の学生を受講対象としています。 ・授業は、対面方式とGoogle meetを用いたオンライン（リアルタイム）方式を併用して実施します。 ○関連資料の入手方法：Classroomの共有ドライブ等の使用を想定しています。</p> <p>1～5. 各自の研究テーマに関する諸文献のクリティカル・レビュー 6～10. 各自の研究テーマに応じた研究デザインの検討 11～15. 各自の研究テーマに応じたデータ収集・分析の方法の習得</p>				
成績評価方法	平常点(50%)、討論への参加(25%)、研究発表内容(25%)により、総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	文献紹介・レビュー・論文等作成に向け、毎週複数の国内外の研究論文を読み進める。				
実務・実践的授業	×				
その他	この授業は、発達障害学を専攻する学生を対象とする。また、発達障害学研究演習Ⅲと連続して行うので、受講者はⅠ・Ⅲの両方を履修すること。 クラスコード：4bqqlceU				
オフィスアワー	前期：火曜日3限目 後期：木曜日3限目				
更新日付	2026/03/01				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM550120				
科目名	発達障害学研究演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜6限				
開講学期	1学期				
担当教員	横田 晋務				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY631J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	発達障害学研究法(2)				
授業の目的と概要	課題論文・修士論文、学会発表、学術論文などの作成に向けて、文献発表・研究デザイン発表とそれに対する討論を通じて各自の研究内容を深めることを目的とする				
学修の到達目標	①最新の研究知見に基づいて研究課題の設定、研究デザインの策定ができる ②論文執筆および学会発表のためのスキルを身につける				
授業内容・方法と進度予定	各自の研究進捗に応じて、先行研究のレビュー、研究デザイン、データ取得・分析方法、結果の解釈などに関する発表によって15回を構成する。				
成績評価方法	発表内容・ディスカッションへの参加度 100%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	先行研究のレビューおよび研究デザインを考案し、発表の準備をすること				
実務・実践的授業	×				
その他	発達障害学分野の学生(授業担当者の指導学生)を対象とします。 発達障害学研究演習Ⅳもあわせて履修してください。				
オフィスアワー	事前に E-mail 等で連絡すること。				
更新日付	2026/02/09				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM560010				
科目名	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜5限				
開講学期	1学期				
担当教員	安保 英勇				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY566J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	心理アセスメント演習				
授業の目的と概要	質問紙法によるパーソナリティと症状の査定、及び知能の査定を扱う。講義と共に実際のツールに触れ、体験的な理解も目指す。				
学修の到達目標	心理アセスメント技法の基礎を習得する。諸検査の特徴を理解し、必要に応じ適切な検査を選択し、実施できるようになる。				
授業内容・方法と進度予定	1. オリエンテーション 2.-4. 心理アセスメントの基礎 5.-7. 知能テスト 8. パーソナリティの理論 9.-13. パーソナリティテスト 14.-15. 精神症状の査定				
成績評価方法	授業への参加状況 30%、学期末のレポート 70%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	テキスト講読、質問票への回答等				
実務・実践的授業	×				
その他	単位認定には2/3以上の出席を前提とする class code: jrdbwtt2				
オフィスアワー	火曜日、13-15時				
更新日付	2026/03/11				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM560020				
科目名	臨床心理査定演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜5限				
開講学期	2学期				
担当教員	前田 駿太、坂本 一真				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY650J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	心理アセスメント演習				
授業の目的と概要	ロールシャッハ・テスト、症状等査定のための構造化面接、神経心理学的検査の実施方法と結果の整理および解釈、ならびにケース・フォーミュレーションの基本を学習する。				
学修の到達目標	各検査の施行法の習得および検査データの解釈の仕方を学ぶ。				
授業内容・方法と進度予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ロールシャッハ・テスト(1) 理論および施行法 3. ロールシャッハ・テスト(2) 記号化法 4. ロールシャッハ・テスト(3) 結果の整理 5. ロールシャッハ・テスト(4) 解釈 6. ロールシャッハ・テスト(5) ロールプレイ及びコーディングの練習① 7. ロールシャッハ・テスト(6) ロールプレイ及びコーディングの練習② 8. 構造化面接法 9. ケース・フォーミュレーション(1) 10. ケース・フォーミュレーション(2) 11. ケース・フォーミュレーション(3) 12. ケース・フォーミュレーション(4) 13. 神経心理学的検査(1) 14. 神経心理学的検査(2) 15. 心理査定のフィードバック <p>※進行状況によって各回の内容は変更されることがある。</p>				
成績評価方法	授業への取り組み(30%) 授業での発表(35%) 小レポート(35%) ※進行状況によって若干変更される可能性がある。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	授業時間外の発表準備やレポート作成が必要になる。				

実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）
その他	この授業は、臨床心理学コースの学生のために開設されている。 (Google Classroom対応) クラスコード：6lr75ogd
オフィスアワー	設定なし
更新日付	2026/02/25

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM560030				
科目名	臨床心理基礎実習				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	前期(火曜1限、火曜2限)、後期(火曜1限、火曜2限)				
開講学期	通年				
担当教員	安保 英勇、前田 駿太				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY651J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	カウンセリングの体験的学習				
授業の目的と概要	臨床心理学に必要な基礎的な面接技法を修得する。				
学修の到達目標	カウンセリング場面で必要とされる基本的な技法を修得し、実践的に活用できるようになる。技法修得を通じてのクライアント理解への姿勢をより深める。				
授業内容・方法と進度予定	<p>カウンセリングのトレーニングプログラムであるマイクロカウンセリングに基づいて、カウンセリングの諸技法を体系的に学ぶ。前期は基本的かかわり技法を中心に、各技法の解説、映像教材による技法の観察、小グループでのロールプレイによる練習、振り返り、といった段階により修得した後、試行カウンセリングを行い、より具体的な理解を図る。これを受けて後期は、試行カウンセリングを連続的にを行い、そのプロセスを含めて詳細に検討し、より実践場面にむけた技法の修得とクライアントへの傾聴と共感についての体験的理解を深める。</p> <p>1-4 オリエンテーション、グループエンカウンター 5-16 基本的かかわり技法：かかわり行動、質問技法、はげまし技法、いいかえ技法、感情の反映技法、要約技法、5段階の面接。 17-30 試行カウンセリング(1)：基本的関わり技法を用いた試行カウンセリングの実施、逐語録の作成、スーパービジョン、カウンセリングプロセスの検討など。 31-60 試行カウンセリング(2)：試行カウンセリングの実施、逐語録の作成、スーパービジョン、カウンセリングプロセスの検討を通じて、基本的かかわり技法を基礎とした技法の統合を体験する。</p>				
成績評価方法	討議への参加状況(60%)、発表とレポート(40%)による。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	テキストの事前講読、修得技法の練習、試行カウンセリングの実施と逐語録の作成				
実務・実践的授業	○(企業等での勤務経験を有しており実務経験を活かした授業を行う)				

その他	この授業は、臨床心理学コースの学生のために開設されている。 (Googleクラスルーム対応) ・ Google Classroomのクラスコード : fadxbgzm
オフィスアワー	設定なし
更新日付	2026/02/28

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM560040				
科目名	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
開講学期	通年				
担当教員	安保 英勇、若島 孔文、吉田 沙蘭、前田 駿太、SCHLEMPER LENNA、坂本 一真、本多 奈美				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY652J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	臨床心理演習				
授業の目的と概要	心理臨床の専門性を有した援助と連携について、実習を通じて学習する。				
学修の到達目標	実際の心理面接を遂行できること、また、他機関との連携ができること。				
授業内容・方法と進度予定	<p>実習講義事前指導、大学病院実習、学外実習施設（保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野）、学内相談施設（臨床心理相談室における心理面接、ケース検討（第1学期）、スーパービジョン）での実習を軸に進める。</p> <p>心理に関する支援を要する者等に関する知識および技能（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携および地域連携、職業倫理および法的義務等の内容について、実習を通じて学習する。</p>				
成績評価方法	学内・学外両実習の活動状況（70%）およびレポート（30%）で総合的に判断する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	各実習先の概要および関連する法律の調査、実習記録の作成。				
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）				
その他	この授業は、臨床心理学コースの学生のために開講されている。 実習先に関する詳細は別紙にて配布する。 class_code: bh1qceg				
オフィスアワー	火曜日、13-15時				
更新日付	2026/02/28				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM560050				
科目名	臨床心理実習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜1限				
開講学期	2学期				
担当教員	吉田 沙蘭、安保 英勇、若島 孔文、前田 駿太、SCHLEMPER LENNA、坂本 一真、本多 奈美				
担当教員(所属)					
科目ナンバリング	PES-PSY653J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	心理臨床ケースカンファレンス				
授業の目的と概要	心理面接に関する基本的な事項について、事例を通して学び、心理臨床の理論と方法を理解する。				
学修の到達目標	グループ討論や全体討論を通して、カウンセラーがどのように相談者の状況や感情を理解し、問題解決のために動くことができるのかを理解すること。面接の枠組み、見立て、諸技法による対応を現実の事例対応に活かせるようになること。				
授業内容・方法と進度予定	授業では各回1事例の検討を行う。面接担当者による事例報告、簡単な質疑応答後、グループワークによる事例検討を行う。受講者は、事例について意見、疑問等を積極的に発言し、グループおよび全体で議論し、事例の理解を深める。				
成績評価方法	グループワークへの参加状況 (40%) 毎週のレポート (60%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	予習・・・資料は授業週の月曜日からGoogleクラスルーム上で閲覧できるので、事前に目を通しておくとよい。 復習・課題・・・授業を通じて事例から学んだことはレポートにまとめて翌週提出する。				
実務・実践的授業	○(企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う)				
その他	・この授業は臨床心理学コースの学生のために開設される。 ・来談者の人権を尊重し、個人、家族等、関係者の情報保護に十分な配慮をすること。				
オフィスアワー	※クラスコード：tmzbxagv 指定なし				
更新日付	2026/03/04				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PM560060				
科目名	臨床心理実習Ⅲ（心理実践実習Ⅱ）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
開講学期	通年				
担当教員	若島 孔文、安保 英勇、吉田 沙蘭、前田 駿太、SCHLEMPER LENA、坂本 一真、本多 奈美				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY654J				
使用言語	日本語				
メディア授業科目	×				
授業題目	臨床心理実習				
授業の目的と概要	心理臨床の専門性を有した援助と連携について、実習を通じて学習する。				
学修の到達目標	実際の心理面接を遂行できること、また、他機関との連携ができること。				
授業内容・方法と進度予定	<p>実習講義事前指導、学外実習施設（保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野）、学内相談施設（臨床心理相談室における心理面接、ケース検討、スーパービジョン）での実習を軸に進める。</p> <p>1. ～30. を通じて、以下の内容について実習を通じて学習する。</p> <p>心理に関する支援を要する者等に関する知識および技能（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携および地域連携、職業倫理および法的義務 /</p> <p>* 学外実習施設事前指導として、学外講師（清野 俊充 先生、小澤 美加 先生、手束 恵 先生、星 静香 先生、上西 創 先生、他）を招き、講義を通して各領域での心理に関する支援についての理解を深める。 * 臨床心理相談指導員の協力を得ながら実習を進めていく。</p>				
成績評価方法	学内・学外両実習の活動状況（70%）および期末レポート（30%）で総合的に判断する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学修	各実習先の概要および関連する法律の調査、実習記録の作成。				
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）				
その他	この授業は臨床心理学コースの学生のために開講されている。 実習先に関する詳細は別紙にて配布する。				

オフィスアワー	月曜日10時30時から14時30分
更新日付	2026/02/04

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。